

## 「環境科学」

西村 雅吉 著

裳華房 1991年 1,800円

本書は、元北海道大学理学部、水産学部で教鞭をとられていた本学会の大先輩によって書かれたものである。

環境化学と題する著者には大きく分けると2つのタイプがあるように思う。一つは、工学系の著者が書いたもので、その基本はエネルギー問題、公害問題、保全技術に重点を置いて書かれている。他は、理学系の地球化学に専門をもつ著者によって書かれたもので、環境化学を地球化学の延長線上にとられて書かれたものである。本書は著者が述べているように後者に属するものである。

地球化学的な基礎に7章を省き、太陽系・地球、大気圏・水圏・生物圏、分析値の意味するもの、物質の動きについて簡潔にわかり易く述べてある。特に、4章物質

の動きの中で南極やグリーンランドにおける積雪氷柱状サンプル中の鉛、水銀濃度分布と人間活動との関係を取り上げ、水銀に関しては近年における汚染を積極的に証明できなかったことを述べている。他方、大気圏を通しての物質移動の重要性を指摘している。5章での化学物質による汚染では、各汚染物質濃度の経年変化等を簡単に述べるに留めている。6章で地球規模の環境問題を取り上げ、地球温暖化問題を中心に述べ、地球化学的基礎がこの章で生かされている。まえがきではワープロの変換ミスがあり気になった。

地球環境問題がクローズアップされている今日、この問題に興味を持つ学生に本書の一読を進めたい。  
(東京水産大学 大槻 晃)

前号(No. 130)から再録しました。前号では、印刷、校正のミスにより、書題を誤り「地球化学」として掲載してしまいました。著者の西村先生、寄稿して頂いた大槻先生にはたいへんご迷惑をおかけいたしました。ここに、謹んでおわび申し上げます。  
(編集子)

## 日本地球化学会ニュース

No. 132

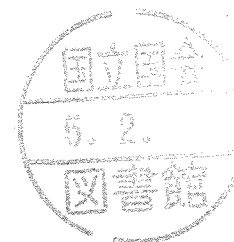
1993. II. 1.

## 1993年度日本地球化学会春季シンポジウム

標記シンポジウムが、1993年度3月19日～22日、東京都立大学教養部で開催される地球惑星科学関連学会1993年合同大会中に地球化学会の固有セッションとして開催されます。期日は19日(1日目)で、場所はK会場です。また22日(4日目)の午後には惑星科学会との共通セッション、「primitive achondrites」がA会場で予定されています。

合同大会全体のプログラムは、別途、大会実行委員会より送付される予定です。合同大会の懇親会は3月21日(日)午後6時から都立大学の国際交流会館にて開催されます。参加費用等は以下の通りです。

|         |    |             |
|---------|----|-------------|
| 合同大会参加費 | 一般 | 1000円       |
|         | 学生 | 500円        |
| 予稿集     |    | 4000(3000)円 |
| プログラム   |    | 300円        |
| 懇親会費    |    | 6000(5000)円 |



以上の諸費用は前納することができます(締切り:3月1日)。その場合、予稿集・懇親会費はともにカッコ内の金額となります。詳しくは合同大会プログラムをご覧ください。

## 合同学会連絡先

〒192-03 東京都八王子市南大沢 1-1  
東京都立大学理学部化学教室  
海老原 充

Tel. 0426-77-2553

Fax. 0426-77-2525

(次頁につづく)

## 科学研究費補助金申請状況に関するアンケートのお願い

日本地球化学会将来計画委員会

1993年度から、科学研究費補助金の申請の際の系・部・分科・細目のうち、細目に「地球化学」が新設されました。科学研究費への申請状況を把握することは、地球化学会のこれからの研究活性化のために重要な情報であると考え、今回の細目の改定の機会を捉えてアンケート調査を行うこととしました。本ニュースに同封して用紙を配布し回収します。昨秋の申請状況に関してお知らせ下さい。会員各位の協力をお願い致します。

編集者 野尻幸宏 〒305 つくば市小野川 16-2 国立環境研究所、地球環境研究グループ  
電話 0298-51-6111, ファックス 0298-51-4732  
発行者 日本地球化学会 〒113 文京区本駒込 5-16-9 学会センター C21  
日本学会事務センター内 電話 03-5814-5801

# 春季シンポジウムプログラム

3月19日(金)

「地球化学1」

(9:30~11:30) 座長: 豊田 新, 奈良岡 浩

9:30 K11-01

わが国酸性湖沼堆積物における特異な化合物  
(Moret-22 (29)-ene) の存在について

上村 仁・福島和夫・石渡良志(都立大・理,  
信州大・理)

9:45 K11-02

北太平洋低中緯度帯における海洋大気中のエアロソ  
ル化学組成—第2白嶺丸1991年度研究調査航海によ  
る—

植松光夫, 河村公隆, 指宿堯嗣, 紀本岳志(北  
海道東海大, 都立大, 資源研, 海洋化研)

10:00 K11-03

グリーンランド Isua 変成岩 (3.8Ga) に含まれる  
グラファイトの炭素安定同位体比とその成因

奈良岡浩, 大竹真紀子, 大本 洋, 丸山茂徳  
(東北大・理, 東工大・理)

10:15 K11-04

トルコ, コンヤ盆地における湖成層産ジプサムの  
ESR 年代測定

小村哲司, 池田すみ子, 池谷元伺(阪大・理)

10:30 K11-05

石英中の酸素空格子を用いた ESR 年代測定範囲の  
拡大

豊田 新, 細川浩二, 池谷元伺(阪大・理)

10:45 K11-06

ESR による黄土と風成塵の年代と産地同定

河野日出夫, 池谷元伺, 成瀬敏郎(阪大・理,  
兵庫教育大)

11:00 K11-07

新落下目隕石, 三保関—第一報

島 正子, 岡田昭彦(国立科学博, 理研)

11:15 K11-08

巨大海中衝突によるカタストロフィー—  
三浦保範(山口大・理)

「招待講演」

(14:00~15:00) 座長: 清水洋

14:00 K12-01

火山岩を貯留岩とする石油・天然ガス鉱床の炭化水  
素の起源に関する地球化学的研究

坂田将(地調)

14:30 K12-02

精密年代測定及び希土類元素存在度分析に基づいた,  
エコンドライトの成因に関する研究

高橋和也(理研)

「地球化学2」

(15:15~17:00) 座長: 中嶋 悟, 藤本光一郎

15:15 K12-03

チャートの色の測定と化学成分, 風化との相関  
黒木紀子, 中嶋悟, 飯山敏道, 猪俣久治(千葉  
大・理, 東大・理, 東学大・教育)

15:30 K12-04

西太平洋深海堆積物にみられる Sr 同位体比の空間  
的分布

浅原良裕, 田中 剛, 上岡 晃, 西村 昭, 池  
原 研, 井岡 昇(名大・理, 地調, 関西総合  
環境センター)

15:45 K12-05

モリブデナイトの Re-Os 年代: 鉱床形成史

鈴木勝彦, 清水 洋, 増田彰正(東大・理, 熊  
大・理, 電通大・自然)

16:00 K12-06

スリランカ産の片麻岩及びチャーノッカイトにおけ  
る元素の粒界濃集

梶塚泉, 鈴木和博(名大・理)

16:15 K12-07

貫入岩近傍のアルゴンの拡散: 数値解によるアプロ  
ーチ

兵藤博信(岡山理大・蒜山研)

16:30 K12-08

かんらん石の水溶液中への溶解機構の pH による違い

藤本光一郎・坂本文孝(地調, 丸文)

16:45 K12-09

極微量の希土類元素の添加による海水中の炭酸カル  
シウム生成

赤木右, 河野雄飛, 鈴木良宏(東京農工大・工  
農)

「ポスターセッション」

(3月19日~3月20日)

K11-P113

都市大気中のジカルボン酸の季節変動: 生成機構に  
関する考察

河村公隆(都立大・理)

K11-P114

東京湾堆積物中のイノシトールの異性体について

鈴木昌弘, 鎌谷明善(東京水産大)

K11-P115

GC/同位体質量分析法による化合物別炭素同位体  
比測定: 測定法と地球化学への応用

鶴崎 実, 山田桂太, 石渡良志(都立大・理)

K11-P116

海緑石の K-Ar 年代測定—新潟県胎内川流域と能  
登半島灘浦海岸の例—

岩田尚能(山形大・理)

3月22日(月)

「primitive achondrites」

(14:00~17:00) 座長: 池田幸雄, 海老原充

14:00 A42-01

南極産のいわゆる primitive achondrites

矢内桂三, 小島秀康(極地研)

14:15 A42-02

プリミティブエコンドライト(ロドラナイト, アカ  
ブルコアイト)とユレイライト: その成因の関連性  
について

馬場敏幸, 佐伯和人, 武田弘, 海老原充(東大・  
理, 都立大・理)

14:30 A42-03

H-タイプ primitive achondrites (Y-74359 and  
Y-74360)

池田幸雄(茨城大・理)

14:45 A42-04

“lodranite” および “acapulcoite” グループのい  
ん石の成因関係

永原裕子(東大・理)

15:00 A42-05

南極産 primitive achondrites の化学

福岡孝昭(学習院大・理)

15:15 A42-06

微量元素組成から見た始原的エコンドライトの形成  
過程

森川徳敏, 中村 昇(神戸大・理)

15:30 A42-07

希ガス組成と acapulcoite Y-74063 の起源

高岡宣雄, 尾崎幸太, 長尾敬介(九大・理, 岡  
山大・地球内部研)

16:00 A42-08

エンスタタイト—コンドライトと比較したオーブライト  
(エンスタタイト—エコンドライト)の鉱物学的特徴

木村 眞(茨城大・理)

16:15 A42-09

Norton County enstatite achondrite: Im-  
plications to the formational process of  
aubritic meteorite materials on their parent  
body

岡田昭彦(理研)

16:30 A42-10

希ガスから見たユレイライトの起源

福永一哉(山形大・理)

16:45 A42-11

Optical and isotopic properties of ureilites  
and ureilitic diamonds

鍵 裕之, 高橋和也, Russell, Pillinger,  
増田彰正(筑波大・物質工学, 理研, Open  
Univ., 電通大・自然)

# 1993年度日本地球化学会年会開催について

1993年度日本地球化学会年会は近畿大学で開催するこ  
とになりました。予定の概要をお知らせいたします。詳  
細の案内と申し込み用紙は次号のニュースに掲載および  
配布となる予定です。

日 程: 1993年9月30日(木)~10月2日(土)

講 演: 9月30日午前9時より午後5時

10月1日午前9時より午後3時

10月2日午前9時より

ポスターセッション: 10月2日午前中

総 会: 10月1日午後3時30分より

懇 親 会: 10月1日午後6時より

課題講演: 今回は公募することに致します。

課題名と概略講演数(特に制限なし)をお  
知らせ下さい。

記念講演会: 10月2日午後1時過ぎより

中高生対象の講演会開催を予定しています。

会 場: 近畿大学(東大阪市小若江 3-4-1)

近畿大阪線長瀬駅より徒歩10分

JR 新大阪駅から約75分

宿泊その他: 生活共同組合で手配できるとのことで打ち  
合わせ中です。

問 い 合 せ: 年会についてのお問合せ, および課題講  
演の課題公募に応募される場合は下記にご  
連絡下さい。

〒577 東大阪市小若江 3-4-1

近畿大学理工学部化学科 平木敬三

Tel. 06-721-2332 (ext. 4103)

Fax. 06-730-1320

# 地球化学特集号原稿募集

「東京湾およびその集水域内の物質循環」

先の地球化学会年会の課題討論「東京湾およびその集  
水域内の物質循環」は多数の会員の注目を集めまし  
た。「地球化学」誌ではその方面の論文を軸とした特  
集号を企画しております。この課題討論を企画された  
方々からは, すでに7編の投稿が予定されております  
が, 加えて広く一般会員からの投稿をお待ちしており  
ます。

【企画内容】

①標記特集課題に関連する内容を持つ論文であること。  
②1993年秋を刊行目標とする。「地球化学」誌は刊行ペー  
スが早まっており, 27巻2号又はその次の号とな  
る。

- ③学年末休みを執筆時期と考え、4月末を原稿〆切、7月中には完成原稿となるようにする。
- ④原著論文を原則とするが、総説も受付ける。どちらの категорияで書いたかがはっきりわかるものであること。
- ⑤特集号ではあるが、執筆要綱および論文の取り扱いとは通常号と同一とする。複数の査読者による査読を経るため、万一原稿の完成が大きく遅れる場合、その原稿は完成次第最も早い通常号に掲載する。
- ⑥論文は原稿の表に「特集号」と書き、編集係（名古屋大学理学部、田中剛）まで郵送すること。

## 安定同位体利用技術研究会のお知らせ

日本アイソトープ協会農学・生物学部会で、下記の研究会を開催しますのでお知らせいたします。

### 記

「安定同位体比測定技術の現状と展望」

総合司会 和田英太郎（京都大学生態学研究センター）  
 挨拶 熊沢喜久雄（東京農業大学総合研究所）  
 安定同位体を利用した代謝・生成研究

梶原 正宏（明治薬科大学）

安定同位体を利用したNMRによる免疫グロブリンの高次構造解析

加藤 晃一（東京大学薬学部）

共鳴ラマン分光法による呼吸酵素の反応追跡

—<sup>18</sup>O<sub>2</sub>を用いる反応中間体の同定—

小倉 尚志（岡崎国立共同研究機構分子科学研究所）

GC-IRMS法の地球化学への応用

石渡 良志（東京都立大学理学部）

GC/C/MSによるCH<sub>4</sub>及びCOの炭素安定同位体比の分析について

野尻 幸宏（国立環境研究所）

主催 社団法人 日本アイソトープ協会  
 農学・生物学部会

協賛 理化学研究所

日時 1993年2月22日（月）午後1時～5時

場所 理化学研究所 レーザー棟 会議室

参加費 500円（アイソトープ協会会員、資料代を含む）  
 1,000円（アイソトープ協会非会員、資料代を含む）  
 ただし、学生・研究生は無料。

申込先 ㈱日本アイソトープ協会 学術課

Tel. 03-3946-9681

Fax. 03-3946-7960

〒113 東京都文京区本駒込 2-28-45

## 講演会開催のお知らせ

文部省科学研究費補助金創成的基礎研究費による研究成果公開シンポジウム開催の案内が本学会宛に届いておりますので、お知らせいたします。

### 記

アジア・太平洋域を中心とする地球環境変動の研究

「地球環境科学の総合的展開」

一般講演会

日時：1993年3月3日（水）13:00～16:00

会場：よみうりホール（東京有楽町そごう7階）

あいさつ 研究代表者 田村三郎 東京大学名誉教授

地球温暖化をめぐる現状とその問題点

松野太郎 東京大学気候システム

研究センター長

生物相互作用系としての熱帯雨林

荻野和彦 愛媛大学農学部教授

中国黄河流域の総合治理

—緑化と塩類土壌改良のケーススタディー—

松本 聡 東京大学農学部教授

オゾン層の消失

—人間活動と地球環境—

岩坂泰信 名古屋大学太陽地球

環境研究所教授

一般、入場無料

申し込み方法：往復はがきに住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記し、返信面に宛先を記入して下さい。

宛先：〒153 東京都目黒区駒場 4-6-1

東京大学気候システム研究センター

公開講演会係

（Tel. 03-5453-3953）

## 第30回理工学における同位元素研究発表会

表記の関連学会研究発表会の案内が本学会宛に届いておりますので、お知らせいたします。

### 記

この研究発表会の目的は、異なった専門分野の研究者が一堂に会し、同位元素および放射線の利用の技術を中心とした研究、およびその技術の基礎となる研究の発表と討論を行い、各専門分野間の知識と技術の交流を図ろうとするものであります。

会期 1993年7月12日（月）～7月14日（水）

会場 国立教育会館

（東京都千代田区霞が関3-2-3）

（発表論文）

内容 それぞれの研究分野において、その専門的成果を得るにいたった放射性および安定の同位元素ならびに放射線の利用の技術に重点をおいた論文と、これら同位元素、放射線の利用の基礎となる研究論文とします。研究の内容には、少なくとも一部に未発表の部分が含まれていることを必要とします。

なお、発表は口頭発表とポスター発表とします。

口頭発表時間 1件15分以内の予定（原則としてOHP使用）

表申込 所定の申込書（1件1通）によりお申込下さい。所定の申込書は下記宛請求して下さい。

〒113 東京都文京区本駒込 2-28-45

日本アイソトープ協会内

理工学における同位元素研究発表会運営委員会

Tel. 03-3946-9681（直）

表申込締切 1993年2月27日（土）

講演要旨 講演要旨集を発行します。発表申込があり次第、所定の原稿用紙をお送りします。口頭発表、ポスター発表とも1件につき原稿用紙1枚です。

講演要旨原稿締切 1993年4月15日（木）

研究発表会への参加 自由、無料

## ビデオ映像文化振興財団助成事業の案内

表記の研究助成についてお知らせいたします。

### 記

助成対象

- ・研究、教育、国際交流などの活動の場で利用される映像の製作
- ・映像の利用に関する調査研究
- ・映像の収集保存、フェスティバル開催など映像に関する事業
- ・新しい映像表現を生み出す技術の開発
- ・その他、映像文化の創造にかかわる活動

応募締切 1993年2月15日

助成期間 1年間

助成の件数及び金額 助成件数は3件、1件あたり一律200万円とします。

選考方法 申請書に基づき、当財団の選考委員会が選考します。

最終決定は1993年3月の予定です。

応募方法 応募は所定の申請書で受け付けます。

応募要項・申請書の請求は、送付先及び電話番号を明記の上、返信用の切手175円分を同封して、下記の本財団事務局にお申込ください。

い。詳細のお問い合わせも、当事務局までお願いいたします。

〒106 東京都港区六本木 7-4-1

スマイリービル5F

財団法人 ビデオ映像文化振興財団事務局

Tel. 03-3403-1815

Fax. 03-3403-0569

## 多摩川およびその流域の環境問題研究助成

表記の研究助成についてお知らせいたします。詳細は下記にお問い合わせ下さい。

### 記

首都圏における多摩川およびその流域の環境浄化に関する基礎研究、応用研究、環境改善計画のための研究、募集。

財団法人とうきゅう環境浄化財団（会長 横田二郎）は、1975度より、多摩川およびその流域の環境浄化を促進するために必要な研究を毎年公募してきました。既に273件の研究に助成金を交付し、211件の研究報告書を受領しています。1993年度も従来と同様、意欲的な研究を募集いたします。

### 1. 研究対象者

学識経験者の方はもちろん、一般の方でも研究に意欲のある方であれば、どなたでもご応募いただけます。

### 2. 研究対象テーマ

1. 産業活動または住生活と多摩川およびその流域との関係に関する調査および試験研究
2. 排水・廃棄物等による多摩川の汚染の防除に関する調査および試験研究
3. 多摩川およびその流域における水の利用に関する調査、試験研究
4. 多摩川をめぐる自然環境の保全、回復もしくは環境創造に関する調査、試験研究

応募についての詳細は、下記財団事務局へお問い合わせ下さい。

〒150 東京都渋谷区渋谷 1丁目16番14号

（渋谷地下鉄ビル）

財団法人 とうきゅう環境浄化財団

Tel. 03-3400-9142

## アサヒ・フェローシップ（朝日国際奨学金）の募集について

朝日新聞より下記の奨学金の応募に関する案内が本学会宛に届いておりますので応募要綱抜粋をご紹介します。詳細は下記にお問い合わせ下さい。



記

1. 目的

外国の将来性ある学者、芸術家、ジャーナリストらに日本国内での研究活動の機会を与えることで日本理解を深めてもらい、併せて人と人との交流により国際間の強調に寄与する。

2. 応募資格

- ・外国国籍の個人（日本の永住権を持つ外国人は除く）。
- ・大卒、またはそれにふさわしい経験を持つもの。学術研究分野は、Ph. D. 取得者もしくはそれに相当する学識を持つものが望ましい。
- ・学者、芸術家、ジャーナリストなどで日本に関する研究、学習などの活動を行おうとし、日本滞在の必要性がある者。
- ・日本に現在長期滞在中の者、および今後長期にわたり居住する見込みのある者は受け付けない。留学、研修などで、来日がすでに決定している者も受け付けない。
- ・特に年齢に制限は設けない。自国においてその経験を生かし発展的活動が出来る者が望ましい。

3. 採用者数

3, 4 人を予定している。

4. 滞日期間

原則として当年9月から1年間

5. 支給内容

総枠で2,000万円とし、採用者には研究内容に応じて選考委員会が適切な額を決定、支給する。

6. 応募方法

- ・募集は毎年1回行う。応募締め切りは1993年分については2月28日必着分までとする。
- ・希望者は所定の申請書、推薦書（コピーしたものでよい）を締め切りまでに本奨励金事務局へ郵送すること。申請用紙、応募要項は本事務局に郵便で請求するか、朝日新聞社の海外総局、支局で直接、受け取ること。
- ・電話による問い合わせには応じない。

問い合わせ先

〒104-11 東京都中央区築地 5-3-2

朝日新聞社 文化企画局 企画第二部内

アサヒ・フェローシップ事務局

Tel. 03-3545-0131 内線 54213

Fax. 03-3543-3280

担当者 小野 八巻

「しんかい2000・6500」共同利用について

下記の要領で共同利用が公募されていますので、お知らせします。

記

平成5年度海洋科学技術センター所属潜水調査船「しんかい2000・6500」の共同利用

公募内容 1993年度調査予定海域、利用規定等については東京大学海洋研究所に資料請求のこと。

申込資格 国公立大学所属の研究者。

申込書類 利用申込書、承諾書、略歴書。いずれも東京大学海洋研究所所定のもの。

申込期限 1993年2月28日 必着

申込先 東京大学海洋研究所共同利用掛  
〒164 東京都中野区南台 1-15-1

Tel. 03-3376-1251

Fax. 03-3375-6716

審査 東京大学海洋研究所「しんかい2000・6500」共同利用連絡委員会においてとりまとめ、関係各省庁で構成する深海調査研究推進検討会を経て深海調査研究委員会で決定する。

採否 1993年3月

その他 潜水調査船及び母船の詳細については下記に問い合わせのこと。

海洋科学技術センター運航部運航課

〒237 横須賀市夏島町 2-15

Tel. 0468-66-3811

財団法人神奈川科学技術アカデミー

平成5年度研究集会開催助成募集に

ついて

下記の研究集会開催助成の案内が本学会宛に届いておりますので、お知らせいたします。

記

〔趣 旨〕

神奈川県内で開催される学術的な研究集会を支援することにより、地域の研究者、技術者の交流の促進及び神奈川県の科学技術に関する情報発信機能の強化に貢献することを目的とする。定期的な年会及び総会は原則として対象としない。

〔助成対象〕

1993年度に、県内で開催される科学技術に関する学術的な国際研究集会及び国内研究集会。

助成対象経費及び金額

対象となる経費は、研究集会の開催に必要な会場借り

上げ費、運営費、招待研究者経費、その他直接必要な経費。助成金額は対象費目の金額に50%を乗じた金額の合計金額以内。国際研究集会200万円、国内研究集会100万円を限度。採択件数国際3件、国内前期・後期各3件程度。(1992年度実績:12,000千円)

申請締切 国際 1993年2月26日

国内前期 1993年2月26日

国内後期 1993年8月中旬

申請方法 下記事務局にお問合わせ下さい。

財団法人 神奈川科学技術アカデミー

学術交流部交流普及科

〒213 神奈川県川崎市高津区坂戸 3-2-1

KSP 西棟 6F

Tel. 044-819-2032

Fax. 044-819-2026

1994年Goldschmidt Conferenceについて

表記学会の開催について、本学会宛にfirst circularが届いております。詳細の申込方法はnext circularで明らかにされることになっておりますので会場、期日、circular請求先についてお知らせいたします。

記

VM Goldschmidt Conference

An International Conference of the Advancement of Geochemistry

The 1994 Goldschmidt Conference is being organized by the Department of Geology and

Geophysics, The University of Edinburgh on behalf of the EUROPEAN ASSOCIATION OF GEOCHEMISTRY

Place: The University of Edinburgh, Scotland

Date: 29 August-2 September

Further Information: Dr. Peter Symms, (VM Goldschmidt Conference 1994) Department of Geology and Geophysics, The University of Edinburgh, West Mains Road, Edinburgh, EH9 3JW, Scotland UK.

1995 環太平洋国際化学会議

The 1995 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (PACIFICHEM '95) について

日本化学会では、1984年、1989年に引き続き、米国、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド各国化学会と共同で、来る1995年12月17-22日、同じくホノルルにおいて、表記会議を開催することになりました。

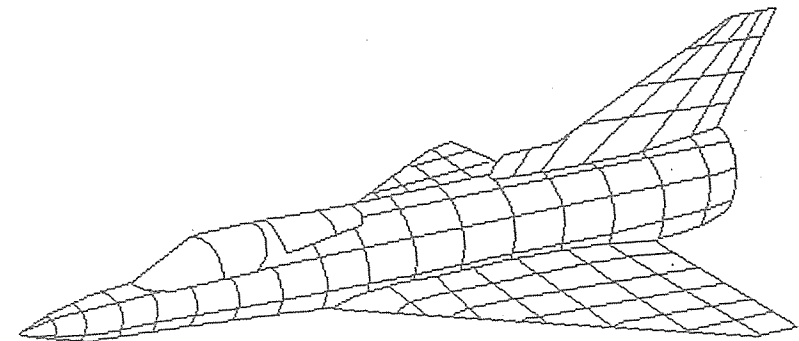
現在、シンポジウムテーマの募集を行っています。詳細な応募要綱は日本化学会機関紙「化学と工業」1992年12月号に掲載されていますのでご参照下さい。

問い合わせ先

〒101 東京都千代田区神田駿河台 1-5

日本化学学会環太平洋国際化学会議事務局

Tel. 03-3292-6161





## 秋の総会開催される

平成4年11月 日本学術会議広報委員会

日本学術会議は去る10月21日から23日まで、第115回総会を開催しました。今回の日本学術会議だよりでは、同総会の議事内容及び総会中に発表した会長談話等についてお知らせします。

## 日本学術会議 第115回総会報告について

日本学術会議第115回総会（第15期・第4回）は、10月21日～23日の3日間開催されました。

総会の初日は、会長からの前回総会以降の経過報告に続いて、運営審議会附置委員会、部会、常置委員会、国際対応委員会、特別委員会の各委員長、部長からの報告がありました。また、本年9月27日から10月11日までの間、二国間学術交流委員会の代表団がアメリカ合衆国を訪問し、アメリカ合衆国の学術の現状を視察するとともに、大統領補佐官を始めとする連邦政府機関の関係者、国立科学財団の関係者、その他関係機関の関係者との意見交換を行い、多大なる成果が得られたとの訪米報告が行われました。午後からは各部会が開催され、国際対応委員会や研究連絡委員会の在り方等について審議が行われました。

なお、二国間学術交流の成果等に関する「平成4年度日米学術交流について」の会長談話を21日付けで発表しました。

総会2日目は、学術分野における国際貢献に関しての自由討議が行われ、国際貢献の意義、方針等について活発な討議が行われました。本件については、日本学術会議第15期活動計画の中に重点目標として掲げられており、また、昨年秋の第113回総会において内閣官房長官から、学術研究の分野で我が国がどのような国際的貢献をなすべきかについて全学問領域から総合的に検討し、意見を出すよう求められ、以来、日本学術会議としては重要案件として審議してきたものです。

午後からは、米スペースシャトル「エンデバー」で微小重力実験に取り組んだ毛利衛さん、向井千秋さん、土井隆雄さんの三宇宙飛行士を招き、実験成果等の報告をしていただくとともに会員との意見交換が行われました。

なお、「学術分野における国際貢献について」の会長談話を22日付けで発表しました。

総会3日目は、文化としての学術特別委員会を始めとする各特別委員会、各常置委員会が開催されました。

## 平成4年度日米学術交流について(会長談話)

平成4年10月21日

1 本年度の日本学術会議の二国間学術交流事業として、9月27日から10月11日までの2週間にわたり、私を団長とし、各部所属の会員7名、その他事務局2名、計10名で構成する代表団がアメリカ合衆国を訪問した。

2 今回の日米学術交流は、21世紀に向けて我が国の学術の発展向上を図るためには、日米両国の緊密な連携協力が不可欠であることから、アメリカ合衆国の学術研究の現状と動向について調査するとともに、関係機関の責任者等と忌憚ない意見交換を行うためであった。なお、この機会に、いわゆるビッグ・サイエンスの象徴ともいべきSSC、NASA、NIH等の現地視察を行った。

3 連邦議会の会期末で1993年度予算案の調整等のため極めて多忙な時期であったにもかかわらず、いずれの機関においても、トップ又はそれに準ずる責任者が自ら出席するなど、代表団は温かく誠意あふれた応接を受け、関係者の日本の学術への期待が極めて大きいことが印象的であった。代表団の感想として特記すべき点をいくつか挙げれば、次のとおりである。

(1) アメリカ合衆国の学術政策の基盤は、確固たるものがあり、これに割り当てられる国家予算のスケールも大きい。これは、学術に対する同国の期待の大きさを表すものである。例えば、1863年にリンカーン大統領のイニシアティブで設立された科学アカデミーは、政府からの独立を前提とし、政府、議会の諮問に応えるなど、政府、議会との緊密な連携の下に、国民並びに人類の福祉の向上に寄与しているが、その後設立された工学アカデミー、医学会とともに、総額約250億円余に上る予算を毎年政府から受け取っている。これは、日本学術会議の使命と今後の発展を考える上で参考となるものである。

(2) 学術の国際協力については、日米両国は、経済力、先端科学技術の水準から見ても、世界の中で指導的役割を果たすべき立場にあり、両国の学術交流を中心として新しい時代の知識と技術を創造し、人類の発展に寄与していく必要がある、との認識がアメリカ合衆国の関係者により、我が国としても、このことを考慮すべきである。

(3) 日本政府が本年4月に決定した科学技術政策大綱における国家予算の倍增計画については、アメリカ合衆国の関係者は、大きな期待と好意ををもって注目している。

(4) SSC、宇宙開発などのビッグ・サイエンスについては、それぞれの計画が学術における開拓者精神とでもいふべき情熱をもって推進されていることをが、認められた。特に、3名の日本人宇宙飛行士達との懇談は感動的ともいふべき印象を残した。

また、SSC計画への資金面での参画問題については、我が国の学術研究の基盤自体が不十分であり、これの充実強化が優先的課題であること、欧州やアジア諸国等との協力をどう考えるか、SSC計画自体への国民の理解をどう促進するか、など今後早急に検討しなければならない課題があること、などの当方の説明に対して、これを傾聴する姿勢が見られた。

今回の日米学術交流の間に形成された代表団の一致した認識は、冷戦終焉後の新しい世界秩序形成過程における諸課題の一つとして、学術のあらゆる領域にわたっての国際協力が今後ますます重要性を持つということであった。そのことは、今回の代表団へのアメリカ合衆国側の対応からも十分窺われるところであった。

代表団としては、今回の訪米の結果について、総会、運営審議会、その他の関連の委員会等において会員に報告するとともに、政府関係者に対しても、必要に応じて報告を行う予定である。その上で、日本学術会議会員はもとより、政府並びに国民の間で、我が国の学術に関する国際協力・貢献の在り方について十分な論議が行われるよう強く期待するものである。

其外、今回の代表団の訪米に当たり、格別の御協力をいただいたアメリカ合衆国側関係者及び在アメリカ合衆国日本大使館の関係者に対し、ここに深い感謝の念を表するものである。

## 学術分野における国際貢献について(会長談話)

平成4年10月22日

現在、我が国の国際的な貢献が強く求められており、各方面でその方策が討議されているところである。日本学術会議としては、平成3年10月の第113回総会において、時の坂本三十三次内閣官房長官から、学術研究の分野で我が国がどのような国際的貢献をなすべきかについて全学問領域から総合的に検討するよう求められ、以来、特別委員会を設けて検討するとともに、今回の第115回総会においても、会員全員による討議を行った。

今回の総会での討議を踏まえ、私としては、次の点を強調したい。

1 本来学術の国際貢献とは、日本における学術研究の成果を広く世界に伝達・発信し、学術の進歩に貢献することである。

2 海外から研究者が進んで来日し、優れた研究成果を挙げられるような高水準の研究施設を整備するとともに、外国人が日本の文化・学術を吸収する能力を高められるような諸条件を整備・充実する必要がある。

3 上記2を実現するためには、省庁の枠を超え、官民の総力を結集して、必要な資金の確保、人材の養成等についての基本方策を策定し、推進する新しいシステム（例えば学術協力機構）が必要である。

上記の趣旨を踏まえ、本会議としては、具体的な貢献策について提案すべく、全力を挙げて検討し、速やかに結論に達したいと考えている。

## 日本学術会議主催公開講演会

本会議では、毎年公開講演会を開催しています。この講演会は会員が講師となり、一つのテーマを学際的に展開しています。平成4年度最後の公開講演会が決まりましたので、お知らせします。多数の方々のご来場をお願いします。入場は無料です。

公開講演会「科学技術を通じての国際貢献」

日時 平成5年2月22日(月) 13:30～16:30

会場 日本学術会議講堂

演題・演者

「日本の科学技術」 西澤潤一 第5部会員  
(東北大学学長)

「社会科学と自然科学との学際研究を通じての国際貢献」 松田武彦 第1部会員  
(産能大学学長)

「日本の貴重な体験の伝授」 猪瀬 博 第5部会員  
(学術情報センター所長)

「21世紀の科学技術」 近藤次郎  
日本学術会議会長

(申込み先) はがきに、住所・氏名・郵便番号を明記し、2月15日までに下記宛てお申し込みください。

〒106 東京都港区六本木7-22-34

日本学術会議事務局「公開講演会係」

☎ 03-3403-6291 内線 227,228

御意見・お問い合わせ等がありましたら、下記までお寄せください。

〒106 東京都港区六本木7-22-34

日本学術会議広報委員会 電話03(3403)6291

## Global Change Data Baseの案内

米国のNational Geophysical Data CenterよりGlobal Change Data Baseの案内が本学会あてに届いておりますので、ご紹介いたします。

## Global Change Educational Diskette Project.

Originally developed for the International Geosphere-Biosphere Programme, this is an integrated Global Change Data Base for Africa, with accompanying documentation and a workbook of exercises designed for classroom and self-instruction in using Geographic Information Systems to explore the global or continental environment. Please request filer SE-2007 for more information about this data set.

The price for the Global Change Educational Diskette Project, with data on IBM-compatible diskettes, exercise manual, and extensive documentation, is \$150 (product number 1085-A25-001).

## Global Ecosystems Data on CD-ROM.

This CD-ROM includes selected data on global ecosystems, vegetation (including vegetation index), climate, topography, soils and other data. These data are on several different grids, from 2 degrees to 2 minutes. Vector data for coastlines

and other features are also provided. Please request filer SE-2006 for more information about this data set.

The price for the Global Ecosystems Data on CD-ROM, with browse and visualization software and extensive documentation, is \$100 (product number 1016-A27-001).

## Experimental Calibrated Global Vegetation Index on CD-ROM.

Data from NOAA's Advanced Very High Resolution Radiometer. Originally designed and produced by Kevin Gallo of the Office of Research and Applications of NOAA's National Environmental Satellite, Data and Information Service. Please request filer SE-2008 for more information about this data set.

The price for the Experimental Calibrated GVI Data on CD-ROM, with browse and visualization software and extensive documentation, is \$70 (product number 1084-A27-001). The biweekly data are also available on 9-track tape, as described above, for \$104 per yearly tape (product number 1084-B07-CUS).

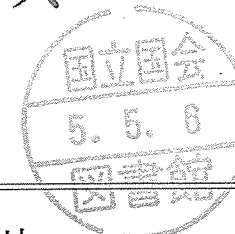
## 照会先

National Geophysical Data Center  
NOAA, E/GC1, Dept. 891, 325 Broadway,  
Boulder, CO 80303, U.S.A

# 日本地球化学会ニュース

No. 133

1993. IV. 23



## 1993年度日本地球化学会年会のお知らせ

|           |                                                                                                       |                                                                                                                                   |
|-----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 主催        | 日本地球化学会                                                                                               | い作成してお送り下さい。                                                                                                                      |
| 日時        | 9月30日(木)～10月2日(土)                                                                                     | 要旨集代 4,000円                                                                                                                       |
| 会場        | 近畿大学<br>大阪府東大阪市小若江3-4-1                                                                               | 参加費 地球化学会会員 1,000円<br>非会員 2,000円 学生 無料                                                                                            |
| 内容        | 一般講演(15分)<br>ポスターセッション<br>課題講演(20分)                                                                   | 懇親会 10月1日(金)18時から近畿大学構内<br>レストランノーベンバー<br>会費 5,000円(学生 3,000円)                                                                    |
|           | 1) 地球大気・海洋の形成, 脱ガス史<br>を見直す                                                                           | 参加申込み締切り 9月11日(土)                                                                                                                 |
|           | 2) メタンの地球化学と地球環境                                                                                      | 参加登録, 懇親会, 小集会, 要旨集の<br>申込みには本号添付の申込み用紙をご<br>使用下さい。                                                                               |
|           | 3) 沿岸域における微量成分の生物地<br>球化学                                                                             | 送金 要旨集代, 参加費および懇親会費は9<br>月11日(土)までに郵便振替で御送金<br>下さい。                                                                               |
|           | * 課題講演の内容は2ページの記事を<br>を参照して下さい。                                                                       | 郵便振替 大阪 8-120400                                                                                                                  |
|           | * 発表は原則としてOHPとします。<br>スライドを希望する場合は, 講演申込<br>み時にお申し出ください。ポスターセッ<br>ションの展示法については, 申し込み<br>者に改めてお知らせします。 | 日本地球化学会1993年会準備委員会<br>宿泊及び交通機関の予約<br>別紙を参照の上お申し込み下さい, 近<br>畿大学生協同組合でお世話いたします。                                                     |
| 講演申込み締切り  | 6月19日(土) 必着<br>本号添付の所定の申込用紙をご使用下<br>下さい。                                                              | 年会申込先及び連絡先<br>〒577 大阪府東大阪市小若江3-4-1<br>近畿大学理工学部内<br>1993年度日本地球化学会<br>年会準備委員会 平木 敬三<br>tel. 06-721-2332 内線 4103<br>fax. 06-730-1320 |
| 講演要旨原稿締切り | 8月7日(土) 必着<br>別添の“講演要旨作成上の注意”に従                                                                       |                                                                                                                                   |

## 日本地球化学会1994・1995年度役員選挙の立候補者

### および推薦候補者の届出について

本会会則により1994・1995年度役員選挙を次の日程で行います。

|                        |         |
|------------------------|---------|
| 立候補者・推薦候補者締切           | 7月23日必着 |
| 選挙広報・投票用紙・会員名簿発送       | 8月23日   |
| 投票締切                   | 9月20日必着 |
| 選挙結果公表(総会)             | 10月1日   |
| 詳細は本号3ページの選挙公示をご覧ください。 |         |

編集者 野尻幸宏 〒305 つくば市小野川16-2 国立環境研究所, 地球環境研究グループ  
電話 0298-51-6111, ファックス 0298-51-4732  
発行者 日本地球化学会 〒113 文京区本駒込5-16-9 学会センター C21  
日本学会事務センター内 電話 03-5814-5801

## 課題講演の募集について

1993年度日本地球化学会年会の課題講演の募集内容は以下の通りです。

### (1) 地球大気・海洋の形成、脱ガス史を見直す

本課題に関して、現在でも1970年代に確立された Ar 同位体比を用いた“カタストロフィック+連続脱ガスモデル”が、しばしば引用される。その後の地球科学、惑星科学の研究の発展は著しく、さまざまな問題提起や研究の発展が見られる。マントル起源物質の分離、室内実験、理論・数値モデル等さまざまな角度からの講演を募集する。

問い合わせ、比屋根肇（東京大学理学部、tel. 03-3812-2111, 内線4301, fax. 03-3818-3247）または松原佳代（大阪大学理学部、tel. 06-844-1151, 内線4178, fax. 06-854-6813）

### (2) メタンの地球化学と地球環境

大きな環境問題である「地球の温暖化」の原因大気成分であるメタンの地球物質循環研究の必要性が高まっている。発生源が生物現象と地球内部の両者にわたる、大気での濃度変動や分布が特異である、消滅において物理化学過程および生物過程が存在する、等々、地球化学として大変興味深い現象が見られている。地球環境に関わるメタンについての研究成果を分野横断的に集約し、活発な議論の場としたい。

問い合わせ、野尻幸宏（国立環境研究所、tel. 0298-51-6111, 内線353, fax. 0298-51-4732）

### (3) 沿岸域における微量成分の生物地球化学

沿岸域における生物活動に、主要成分のみでなく微量成分が重要な役割を果たしていることが明らかにされつつある。金属成分が生物との関わりあいの中でどのような分子種として存在しているのか、有機形金属化合物の存在・起源・生物に対する役割などを、生物地球化学的な立場から改めて取り上げる。多くの応募を期待する。

問い合わせ、平木敬三（近畿大学理工学部、tel. 06-721-2332, 内線4103, fax. 06-730-1320）

## 1993年度第1回評議員会議事録要旨

1993年度第1回評議員会は、2月13日15時より東京大学山手上会館で開かれ、出席者は脇田会長を始め18名であった。正式の議事録は、次回評議員会で承認されたのち、ニュースに掲載の予定である。

1. 庶務、会計、編集、行事に関する報告があった。Geochemical Journal の編集・出版体制の問題点の紹介があり、その解決方法について出版社への委託も含めた検討策の中間報告があった。地球惑星科学関連学会1994年合同大会は、3月20～23日の日程で東北

大学で開催の予定である。

2. 将来計画委員会から、将来計画については学術会議の地球化学・宇宙化学研究連絡委員会との連携のもとに進める場合もあることが報告された。会員問題検討委員会、名誉会員推薦委員会、学会賞等受賞者選考委員会からも報告があった。
3. 学術会議の地球化学・宇宙化学研連、陸水研連、海洋研連から報告があった。
4. 1992年8月1日から12月31日までの入会24名（すべて正会員）、退会8名（正会員7名、賛助会員1名）が承認された。この結果1992年12月31日現在、正会員959名（学生74名、在外32名を含む）、賛助会員16名、名誉会員6名、合計981名となった。
5. 「1994-1995年度役員選出のための選挙管理委員会」の委員の選出を行った。
6. 1994年8月29日～9月2日にイギリス Edinburgh 大学で開催される V.M. Goldschmidt Conference の supporting organization となることを了承した。
7. 学会事務センターの住所変更にもなう、本会会則の一部改正を評議員会として承認した。
8. 富樫茂子評議員が会員問題担当幹事となることが了承され、会員問題検討用データベースの作成の目的、運用、入力項目等について意見交換があった。

## 【新入会員紹介】

(1992. 8. 1～1992. 12. 31)

### 正会員 (24名)

|                |                                 |
|----------------|---------------------------------|
| 北村 守次          | 石川県保健環境センター                     |
| 大淵 聡           | 同和工営(株)                         |
| 油井 三和          | 動力炉・核燃料開発事業団                    |
| 立川 和代          | ㈱東芝                             |
| 松尾 基之          | 東京大学教養学部化学教室                    |
| 青木 延浩          | ㈱水土舎                            |
| 秋元 肇           | 国立環境研究所                         |
| 岩元 和正          | 日本商事㈱                           |
| 白石 寛明          | 国立環境研究所                         |
| 中林 成人          | 海洋科学技術センター                      |
| 坂東 博           | 国立環境研究所                         |
| 横瀬 久芳          | 熊本大学理学部地学教室                     |
| 金原 五月          |                                 |
| 清田 由美          | ㈱西日本技術開発                        |
| 中井 雄吉          | 常滑高校                            |
| 大堀 基己          | フィニガン・マッ                        |
| 原川 裕章          | 青山学院大学理工学部化学科                   |
| 井関 和夫          | 水産庁西海区水産研究所                     |
| CHOI, Seon-Gyu | Korea University, Dept. Geology |

## 講演要旨作成上の注意

- 1) ワープロで記入してして下さい。
- 2) 全体の記入枠は、A4 の用紙に縦横それぞれ235×165mm 内に設定して下さい。刷り上がりは B5 版になります。
- 3) 枠内左上端に横 40mm×4 行サイズの講演番号記入用の空白を残して下さい（例参照）。番号は印刷に廻す時に委員会で挿入します。
- 4) 演題、所属、発表者（講演者の左側に○を付す）は例示に準じて記入し、本文は5行目から始めて下さい。
- 5) 下欄の2～3行に英文で演題、所属、発表者（講演者の左側に○を付す）をお書き下さい（例参照）。
- 6) 図表が必要な場合は、本文欄内に直接記載もしくは貼りつけて下さい。
- 7) 用紙は、A4 版のワープロ専用紙か、それに相当する上質紙を縦型に使用して下さい。
- 8) 印字は鮮明にお願いします。そのためには24ドット以上であることが望ましいですが、24ドット以上でも、プリントの薄いものや不鮮明なものはご遠慮下さい。
- 9) 一般講演は1枚、課題講演は2枚の用紙にお書き下さい。

(例)

1A 01

熱帯における化学物質の使用とその地球汚染への影響

○立川 涼・田辺信介・A. Ramesh・岩田久人（愛媛大農）

最近、北極圏における農薬汚染の実態が明らかにされ、およそ8,500トンにのぼる大量のBHCが海水に残存し、毎年500トンを超える量が海流によって南下していると報告された。人工化学物質による北極圏の汚染は急速に進行し、その原因は東欧やソビエトなど極域周辺の国々ばかりでなく、低緯度開発途上国における人間活動や産業活動の影響も……………

Use of Chemicals in the Tropical Environment and Impact on Global Pollution  
○R. Tatsukawa, S. Tanabe, A. Ramesh and H. Iwata  
(Faculty of Agriculture, Ehime University)



お申込期間

1993年6月1日(火)～9月4日(土)

事務取扱時間10:00～17:00(土曜日は15:00まで)日曜・祝日休み(大学夏季休暇中は営業時間を短縮します。)

予約確認書の送付

お申込受付後2週間以内に予約確認書を返送いたしますので予約内容をご確認下さい。なお請求書及び振り込み用紙を同封しますので10日以内に旅行代金をお振り込み下さい。通信費500円別途申し受けます。ご入金確認後、旅行クーポンは9月10日以後発送します。(予約確認書では宿泊出来ません)

キャンセル変更について

9月10日(金)までのキャンセル・変更は無手数料でおうけします。電話でお申し付け下さい。

9月11日(土)からは所定の取り消し手数料がかかります。手数料率は予約確認書に明示します。標準手配旅行約款に基づきます。

大阪府知事登録国内旅行業第1211号・運輸大臣登録一般旅行業代理店第4351号

近畿大学生協同組合サービス事業部

旅行業務取り扱い主任者 岡本 道夫

宿泊・交通機関予約申込書

ふりがな  
氏 名

性別(男・女) 年令 \_\_\_\_ 才

住 所

☎

大学名

学部

学科

研究室

大学電話番号

内線

宿泊予約

月 日～ 月 日  
(チェックインの日) (チェックアウトの日)

希望ホテル ( )

ルームタイプ(シングル・ツイン・和室)

交通機関予約

9月29日(水) ( )～大 阪

10月2日(土) 大 阪～( )

通信欄

-----宿泊・交通機関のお申込について-----

宿泊及び交通機関については、「近畿大学生生活協同組合」で予約を取り扱います。別紙申込書にご記入の上、下記まで郵送もしくはFAXにてお申込下さい。

[申込先] ☎577 東大阪市小若江3丁目4番1号

近畿大学生生活協同組合サービス事業部 日本地球化学会係(担当岡本)

☎06-723-9771 FAX 06-723-9773

宿泊のご案内

| 地 域     | ホテル名       | 部屋タイプ  | お一人当り料金  | 備 考        |
|---------|------------|--------|----------|------------|
| 東 大 阪 市 | ユニオンホテル    | シングル   | ¥ 8,500  | 1泊朝食付き税サ込み |
| 東 大 阪 市 | ホテルサンクレソン  | シングル   | ¥ 7,960  | 1泊朝食付き税サ込み |
| 大阪南森町   | 東 興 ホ テ ル  | シングル   | ¥ 8,000  | 1泊朝食付き税サ込み |
| 大阪上本町   | 都 ホ テ ル    | ツ イ ン  | ¥ 13,500 | 1泊朝食付き税サ込み |
| 大 阪 梅 田 | ホテル法華クラブ大阪 | 和室(2名) | ¥ 5,800  | 1泊朝食付き税サ込み |

\* 東大阪市内のホテル及び都ホテルから近畿大学までは近鉄利用で約20~30分です。

\* 梅田から近畿大学まではJRと近鉄利用で約50分です。

\* 南森町から近畿大学までは地下鉄と近鉄利用で約40分です。

\* 表示の料金はお一人・ご一泊朝食付き税・サービス料込みの料金です。

航空券のご案内

下記の路線につきまして団体枠を割引価格でご用意しておりますのでご利用下さい。なおご利用が15名に満たない場合、団体割引は成立しませんので一般のノーマル料金をご請求申し上げます。

9月29日 札 幌 → 大 阪 全日空 772 (11:30頃)  
24,000円(普通運賃 31,750円)

10月2日 大 阪 → 札 幌 全日空 779 (14:00頃)  
24,000円(普通運賃 31,750円)

9月29日 鹿児島 → 大 阪 全日空 544 (9:45頃)  
12,300円(普通運賃 18,450円)

10月2日 大 阪 → 鹿児島 全日空 547 (16:40頃)  
12,300円(普通運賃 18,450円)

1993年度日本地球化学会年会

[B] 参加申込用紙

\*\*9月11日(土) 必着\*\*

ふりがな  
氏 名 \_\_\_\_\_

所 属 \_\_\_\_\_

連絡先(自宅・勤務先)

〒 \_\_\_\_\_

○参加登録(いずれかを○で囲んで下さい)

講 演: 有 無

参加費: 会員 1,000円 非会員 2,000円 学生 無料

要旨集: 要 4,000円 不要

懇親会: 参加(一般 5,000円 学生 3,000円) 不参加

送金合計 \_\_\_\_\_ 円

○送金先

郵便振替 大阪 8-120400

日本地球化学会1993年会準備委員会

送 金 日 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

○要旨集送付先(必ず御記入下さい)

住所 〒 \_\_\_\_\_

氏名 \_\_\_\_\_ 様

○申込用紙送付先 〒577 大阪府東大阪市小若江3-4-1

近畿大学理工学部内

1993年度日本地球化学会年会準備委員会

平 木 敬 三

# 1993 年度日本地球化学会年会

[A] 講演申込用紙 \*\*6月19日(土) 必着\*\*

演題 \_\_\_\_\_  
氏名 \_\_\_\_\_ (発表者に○をつけて下さい)

所属(略記) \_\_\_\_\_

○課題講演を御希望の場合は、次の何れかを○で囲んで下さい。

課題講演(口頭発表): 課題1, 課題2, 課題3

○一般講演の御希望の場合は、次のそれぞれのいずれかを○で囲んで下さい。

発表形式: 口頭, ポスター, どちらでもよい

発表分野: 大気・降水, 岩石・地殻, 鉱床, 有機物, 生物, 陸水, 温泉, 熱水, 地球外物質,  
海洋, 堆積物, 火山,  
その他( )

○プログラム編成のため、発表内容を簡単に記して下さい。

○例にならって英文で、氏名、所属機関名、演題を書いて下さい。

(必ずタイプもしくはワープロにしてください。)

例: T. Tokyo and J. Niigata (Fuji Univ., Niigata Univ.) Geochemical studies of hot  
springs.

○返送用(上記と同じものをお書き下さい)

演題

氏名(所属)

住所 〒

氏名

様

S 堀川 信夫 東京水産大学海洋生産学科  
S 早川 和秀 名古屋大学水圏科学研究所  
S 田代 豊 三重大学  
S 山本 茂 熊本大学理学部地学教室  
S 伊勢 明広 金沢大学理学部地学教室

[選挙公示]

日本地球化学会1994・1995年度役員選挙の  
立候補者および推薦候補者の届出について

本会会則により1994・1995年度役員の選挙を次の日程  
で行います。

立候補者・推薦候補者締切 7月23日必着  
選挙広報・投票用紙・会員名簿発送 8月23日  
投票締切 9月20日必着  
選挙結果公表(総会) 10月1日

つきましては、下記の要領で、会長・副会長・監事・  
評議員に対して、それぞれ立候補者および推薦候補者の  
届出をしていただくようお願いします。

1. 会長1名、副会長1名、監事1名、評議員20名を  
選出します。
2. 立候補者の届出は、届書を立候補者自身が、(1)本  
委員会に持参するか、または(2)本委員会宛に送付し  
て下さい。
3. 推薦候補者の届出は、推薦候補者名と推薦者名を  
記した届書に推薦候補者の承諾書をそえて、推薦者  
またはその代表者が、(1)本委員会に持参するか、ま  
たは(2)本委員会宛に送付して下さい。なお役員選出  
細則第8条により、次の方々は次期評議員に選出す  
ることができません。

海老原充, 北 逸郎, 佐野有司, 清水 洋, 下山  
晃, 高岡宣雄, 立川 涼, 長尾敬介, 野崎義行,  
藤原祺多夫, 松田准一, 松久幸敬

4. 第2項と第3項に記した以外の方法で届出が行わ  
れた場合には、届出を受付けることはできません。  
郵送の場合は裏に(選挙)と記入し、「書留郵便」  
として下さい。

5. 届出の締切は、1993年7月23日(必着)です。

6. 本委員会の所在地は次の通りです。

〒305 つくば市天王台1-1-1

筑波大学化学系

下山 晃

tel. 0298-53-6510

fax. 0298-53-6503

## CO<sub>2</sub>と海洋とのかかわりに関する 国際ワークショップ

下記の協賛ワークショップ(The 2nd International  
Workshop on Interaction between CO<sub>2</sub> and  
Ocean)が開催されますのでお知らせいたします。

記

日 時: 平成5年6月1・2日(火・水)

会 場: 筑波研究交流センター

主 催: 財団法人電力中央研究所

協 賛: 日本地球化学会ほか

組織委員会:

半田暢彦 名古屋大学水圏科学研究所教授(委員長)

石谷 久 東京大学工学部資源開発工学科教授

酒井 均 山形大学理学部地球科学科教授

高橋正征 東京大学理学部植物学科助教授

目 的: 地球温暖化の抑制の一方策として、二酸化炭素  
の海洋処分が可能であるのか、科学的に海洋環  
境への影響を究明するための研究の方向を探  
る。

おもなトピック

①回収CO<sub>2</sub>の輸送と注入の技術的検討

②液体CO<sub>2</sub>と海水と間の物理・化学過程

③溶解による希釈方式と海底への一時貯留方  
式を比較した得失およびそれぞれの方式に  
対する海域による応答特性

④海洋への注入方式選定および環境影響評価  
のために必要とされる実験的研究

参加申込先: 国内からの参加者は下記事務局あてお申し  
込みください。なお、討論を実りあるもの  
とするため、組織委員会にて参加人数を60  
名に制限させていただきます。また、宿泊  
のお世話も可能です。お申し出ください。

〒270-11 千葉県我孫子市我孫子 1646

財団法人 電力中央研究所 我孫子研究所  
大隅多加志

tel. 0471-82-1181

fax. 0471-83-2966

## 第9回 ESR 応用計測研究会

下記、協賛学会が開催されますので、お知らせいたし  
ます。

記

日 時: 1993年6月17日(木) 10:00

18日(金) 12:00(予定)

場 所: 岡山セラミックス財団研究所

問い合わせ先: ESR 応用計測研究会



〒560 大阪府豊中市待兼山町1-1  
大阪大学理学部宇宙地球科学地球物性学講座  
tel. 06-844-1151 ext. 4168  
fax. 06-841-4943

### 1993年度地球化学若手会

1993年度地球化学若手会を下記の要領で開催いたします。つきましては、皆様方お誘い合わせの上奮って御参加ください。

#### 記

#### 開催日程

7月2日(金) - 4日(日)  
2日(金) 19:00受付 19:30 - ナイトセッション  
3日(土) 9:00 - 12:00 自己紹介 13:00 - 17:00 講演  
19:00 - 21:00 講演 21:00 - ナイトセッション  
4日(日) 9:00 - 11:00 講演  
11:00 - 12:00 反省会等昼食後解散

テーマ 1. 水圏をとりまく化学過程  
2. 見てきたような地球化学

開催場所 東京都内又は茨城県つくば学園都市

参加費 ¥5,000 - 10,000程度を予定しています。  
(参加者には、開催場所決定後に参加費等をご連絡します。)

#### 問い合わせ先

長尾 誠也 〒319-11 那珂郡東海村白方白根2-4  
日本原子力研究所 東海研究所  
環境安全研究部

tel. 0292-82-5085  
fax. 0292-82-5934

中塚 武 〒464-01 名古屋市千種区不老町  
名古屋大学水圏科学研究所  
tel. 052-781-5111(内線5723)  
fax. 052-781-3998

### The Fourth Scientific Assembly of IAHS のご案内 (第4回国際水文科学協会科学会議)

IAHS (International Association of Hydrological Sciences, 国際水文科学協会) の第4回科学会議が、IAMAP (International Association of Meteorology and Atmospheric Physics, 国際気象学大気物理学協会) の第6回科学会議と合同で、日本学術会議及び水文・大気関連14学協会の共催で下記の通り開催されます。この会議では世界の水と大気の大第一級の研究者が一堂に会し、それぞれの専門領域における総合的な討議が予定されており、投稿演題数も約1,300件にのぼっています。そのほか一般公開フォーラム、展示会も開催さ

れます。多数の方々にぜひご参加いただきたく、ご案内いたします。

#### 合同国際会議

略称 IAMAP-IAHS' 93 横浜合同国際会議  
会期 1993年7月11日(日) ~ 7月23日(金) (13日間)

会場 横浜国際平和会議場(パシフィコ横浜)  
IAHS 関係のシンポジウムおよびワークショップ

H1 Macroscale modeling of the hydro-sphere  
H2 Tracers in hydrology  
H3 Hydrology of warm humid regions  
H4 Sediment problems: strategies for monitoring, prediction and control  
J3 Exchange processes at the land surface for a range of space and time scales: contribution of the hydrological and atmospheric sciences to the IGBP Core Project BAHC  
J4.2 Extreme hydrological events: precipitation, floods and droughts  
HW1 Testing of hydrological models for water resources assessment  
HW2 Concepts and methodology in hydro-geomorphology  
HW3 Role of snow and ice in the water cycle in high mountain areas (IHP-IV)  
HW4 Use of old hydrometeorological data to study global changes  
HW5 Management or acidified fresh waters  
HW6 Nonlinearities, fractals and chaos in hydrology

#### 一般公開フォーラム

日時 1993年7月15日(木) 13時 ~ 17時  
会場 横浜国際平和会議場(パシフィコ横浜) 5階小ホール  
テーマ 「地球そして生命のために……」 - 地球温暖化と砂漠化を迎えて -

#### 気象と水の科学展

期間 1993年7月14日(水) ~ 7月16日(金) 午前10時 ~ 午後5時  
会場 横浜国際平和会議場(パシフィコ横浜) 3階305室

構成 「地球そして生命のために……」に関連した学術展示、商業展示、教育展示

なお、合同国際会議への登録(登録料35,000円)、フォーラムへの参加申し込み(無料)、科学展への出展申し込み、その他会議の詳細については事務局へお問い合わせ下さい。

事務局 〒100 千代田区大手町1-7-2

IAMAP-IAHS '93 横浜合同国際会議事務局  
tel. 03-3273-2084  
fax. 03-3279-6287

### 1993年地球化学研究協会学術賞「三宅賞」 の受賞候補者および研究助成候補者の推薦 依頼について

三宅泰雄教授退官記念事業として設立された(1972)地球化学研究協会は、その翌年から、地球化学に顕著な業績をおさめた科学者に、毎年、地球化学研究協会学術賞「三宅賞」を贈呈しています。  
さらに1983年からは、海外シンポジウム等に出席し、論文を発表する地球化学の若手研究者に対し、助成を行っています。

#### 記

#### 三宅賞

1. 本賞は地球化学に顕著な研究業績をおさめた科学者に贈呈します。
2. 本賞は賞状とし、副賞として賞牌および賞金(30万円)をそえます。
3. 本賞の贈呈は、1年1件(1名)とします。
4. 規定の用紙に受賞候補者の推薦対象となる研究題目、推薦理由(400字程度)。主な論文10編程度に略歴をそえて、協会事務局までお送り下さい。

#### 研究助成

1. 研究助成は地球化学の研究者で、海外のシンポジウム等に出席し論文を発表する者、ならびに海外における学術調査研究などに参加する者に対して行われます。
2. 助成金は1件10万円とし、年に3件とします。
3. 規定の用紙に推薦候補者(各締切日において満40歳までとする)のシンポジウム出席については略歴、研究業績、国際会議名(主催団体、開催場所、開催年月日)論文題目、推薦理由等を、海外学術調査に関しては、略歴、研究業績、調査地(国名、地域名)、調査目的・計画、推薦理由、同行者などを記入して、協会事務局までお送りください。  
申込締切日は、三宅賞、1993年8月31日(火)、研究助成は、第1回締切1993年8月31日(火)、第2回締切1994年1月末日。

問い合わせ先 地球化学研究協会

〒166 東京都杉並区高円寺北4-29-2-217  
tel. 03-3330-2455  
(FAX 兼用)

### 1993年度日本生命財団研究助成について

下記の研究助成に関する案内が学会あてにまいりましたので、お知らせいたします

#### 記

助成の主旨：日本生命財団では、広く一般公募を行う研

究助成として、自然環境保全と人間活動の調和を図る観点から、1979年以降14年次にわたり、環境関係の研究に対する助成を行い、すでに累計405件総額11億1,465万円の助成を実施してきました。本年度も引き続き公募を行います。21世紀の豊かで調和のとれた環境づくりに貢献する独創的な研究、学際的な研究等ユニークな着想にもとづく研究計画をお持ちの研究者・グループのご応募を期待します。

助成対象研究：「人間活動と環境保全との調和に関する研究 - 自然と人間の共生への新しい道を求めて -」の趣旨に沿った研究(自然科学・社会科学・人文科学を問いません)

応募資格：応募資格は問いませんが、意欲的に研究を遂行していただける個人・グループ

助成総額：合計1億円程度

助成期間：1993年10月1日から1994年9月30日までの1年間

応募〆切：1993年5月21日(金)、当日消印有効

助成の決定：当財団選考委員会にて選考の上、9月初めの理事会で決定

応募方法：「応募要項」「申請書」は下記にご請求下さい。  
請求・問い合わせ先：

〒541 大阪市中央区今橋3-1-7  
日本生命今橋ビル4F  
日本生命財団 研究助成部  
tel. 06-204-4012

### トヨタ財団研究助成の公募

下記の研究助成の公募の案内が本学会宛に参りましたのでお知らせいたします。

#### 記

トヨタ財団では「新しい人間社会の探求」を基本テーマとして、研究助成を行います。特に、次の2つの課題に重点をおいて助成いたします。

- 1 高度技術社会への対応
- 2 多文化社会への対応

斬新な発想による研究計画の応募をお待ちしております。

1. 助成の対象  
上記の基本テーマに関する研究で、第1種研究(個人奨励研究)、第2種研究(試行・準備研究)、第3種研究(総合研究)の三つの研究種別があります。

2. 助成金額・期間  
助成金額は合計2億円程度です。  
助成期間は本年11月1日より1~2年間とします。

3. 助成の決定  
研究助成選考委員会(委員長 飯島宗一)にて慎重

厳正に選考の上、9月末の理事会にて決定いたします。

#### 4. 応募期間

応募期間は5月31日（当日消印有効）までとします。

#### 5. 申請用紙の申込み

5月17日までに研究助成係宛お申込み下さい。

#### 6. 申込み、問い合わせ先

〒163-04 東京都新宿区西新宿2-1-1

新宿三井ビル37階私書箱236号

財団法人 トヨタ財団 研究助成係

### 第2回世界閉鎖性海域環境保全会議 （エメックス'93）について

下記の会議の案内が、兵庫県保健環境部環境局より本学会宛に参りましたので、ご紹介いたします。

#### 記

エメックス'93は1990年神戸で開催された第1回に続き、米国で開催されます。会議参加者は、沿岸海域保全のための国際的なネットワークに加わってその将来の方向を定め、焦点をあわせることができます。

#### テーマ1 Governanceと政策

- ・行動と反応のための促成要素
- ・Governanceのための新しい手法
- ・環境管理の目標
- ・科学者とGovernance
- ・沿岸海域のケーススタディー

#### テーマ2 沿岸域科学と政策

- ・閉鎖性海域における科学のための政策
- ・研究の進歩
- ・監視、モデリング、マッピング
- ・生態系経済学とエコ技術
- ・科学と政策実施

#### テーマ3 ステークホルダー（権利保管人）市民と個人 利害関係者

- ・競合する価値観と利害関係
- ・Governanceにおける公的権利
- ・政治的行動
- ・マスコミの役割
- ・沿岸海域の文化

#### 問い合わせ先

EMECS '93 Secretariat

c/o Coastal and Environmental Policy Program

University of Maryland, Box 775,

Cambridge, Maryland 21613 U.S.A.

tel. 1-410-974-5047

fax. 1-301-314-9581

### 教官の公募について

下記の教官公募の案内が、本学会宛に参りましたので、お知らせいたします。

#### 記

担当科目：＜学科目＞環境科学（総合科目）＜授業科目＞地球環境科学

専攻分野：特に限定しませんが、広い視野にたつて総合科目としての「地球環境科学」の講義を担当できる方

公募人員：1名（助教授又は講師）

応募資格：(1) 大学院修士課程を修了した方、又はこれと同等以上の教育・研究歴を有する方（外国籍の応募者の場合は、日本語に堪能な方）

(2) 1951年4月以降生まれの方

応募期限：1993年6月30日（水）必着

採用時期：1994年4月1日（予定）

応募に関する詳細は下記にお問い合わせ下さい。

静岡大学（tel. 054-237-1111）

教養部地学研究室 伊藤通玄（内線 8234）

又は、教養部生物・地学・科学史共同研究室

（内線 8237）

#### 書評

### 西暦2000年の資源地質（資源地質特別号13）

編集者 石原 三、浦辺徹郎、鹿園直建

定価（送料込）2500円、208頁、資源地質学会

「資源地質」は、これまでの日本鉱山地質学会が新たに資源地質学会として再発足したことに合わせて改称された学会誌名であるし、これからの学問分野名でもある。本特別号の目的は、巻頭にも記されているように、日本鉱山地質学会の40年を振り返りつつ、来るべき西暦2000年に資源地質学会が担うべき活動を探ろうとするものである。

全体は大きく5部に分かれ、第I部では、「西暦2000年の資源地質学」と題して、9編の論説が載せられている。ここでは今後、資源地質学の分野で研究すべきテーマとその観点が、それぞれ主張されている。共通するのは、「元素の地球化学サイクル」観がより強く取り入れられていることである。特に、深海底での物質交換・反応が大きく評価されていることが目立つ。これは、陸上での風化が一つの“box”であった過去の“元素の地球化学サイクル”に比べ、鉱床というフィールドに触れるチャンスのあった研究者群の強みであろう。また学問の

流れではあるが、地球システム科学として、地球創世期から未来にわたる物質挙動の研究手法が、ここでも強く提示されている。

第II部は「資源開発と環境」と題し、2編の論文が載せられている。人類のさまざまな社会活動に伴う環境変化が今大きな社会問題となっているが、数十年も以前から“公害”対策として大気、水質などあらゆる問題に先進的に取り組まざるを得ない立場にあったのが、鉱山地質の分野である。地球環境問題が問われている今、この資源地質学会の行き方は、これまでに蓄積した現場の考えを、凡世界的な問題解決の足がかりにしようとの試みと思える。

第III部には、過去と現在の資源供給源の地球科学的解所と、それが21世紀にどのように継がるかを推測する6編の論文が集められている。鉄、銅、亜鉛、貴金属、非金属など資源ごとに、それぞれの専門家が豊富なデータにもとづき書き下ろしている。しかし、この部分は、政治的、経済的な動向と直接に結びついている分野であり、予測の難しいところであろう。

第IV部には天然資源と人工代替素材と題し、スメクタイト、ゼオライト、カオリナイトおよび炭素系素材に関する論文3編が載せられている。ここでは、天然素材の機能開発や人工素材の多様な可能性が述べられている。主に天然資源を扱ってきた資源地質の分野が、どうしてもかわりを持たざるを得ない競争相手（仲間でもあるが）とのせめぎあいを行っている分野であろう。

第V部では、これまでの鉱山地質学会の活動が総括されている。評者の見るところ、鉱山地質学会は名称こそ古めかしい感じがしたもの、地球科学関連学会では最も柔軟性に富んだ学会であった。組織やその活動においても、狭い学問分野にこだわることなく、果敢に新機軸を取り入れてきた。それらがいつ、どのようになされたかが詳述されている。

この本では資源地質分野の個々の研究成果に触れた部分は少ない。もし、この書評の読者が、この分野の研究成果を知りたいければ、たとえば1983年に黒鉱・島弧・縁海（鉱山地質特別号11）、1988年にWall Rock Alteration and Ore Genesis（同上12号）が刊行されており、それらを参照するべきであろう。本書は過去と未来への

総括である。この総括を読み、一つの疑問が生まれた。それは学会の存在意義である。学会は、労働界における労働組合と同じく、学界において学問的な利害を共にする者の集まりであり、執行部は組合費（会費）の見返りとして、組合員（会員）に対する利益を考えねばならない。この学会の創立時には、個々の鉱山における探鉱指針と鉱床学会が会員間でのgive & takeとして回転していたように思える。最近では、テクトニクス関連を含めた鉱床生成理論と行政論理と探鉱指針（海外を含めた）が相互に補い合い、学会を前進させてきたと見える。

さて、これからの資源地質には、地球システム科学としての学問の進むべき道は打ち出されているが、もう一方の輪をどこに求めるかが問題であろう。いや、これもすでに方向が提案されているよう。本書でHedenquist氏によって述べられているように、一つは、アジア・太平洋を中心とする世界の資源開発への環境対策をも含めた総合的な応援と国内でのバックアップ態勢を作ることである。これにより、国内の研究者は先カンブリア代の変動帯を含め、自己の地球史を物語り得る多くのフィールド経験を得ることになろう。その過程で資源地質誌には、従来の国内鉱山からの技術レポートに加え、海外研究者からのレポート（英文）が増えよう。いや増やさなければならぬ。その文脈修正、内容補足などは国内の資源地質研究者にとって一つのロードと映るかもしれない。しかし、学問のODAはこれからの日本の地球科学系諸学会が目向けなければならない方向の一つであり、このgive & takeを最も早く取り入れられるのは、世界にアンテナを持つ資源地質学会ではなからうか。次の40年後、この学会は宇宙をも取り込んだ“地球資源学会（The Society of Planetary Resources）”として発展しているだろう。

本書第I部は、従来の地球化学を越えたいと思っている若い会員に、後半は今での地球化学の進み方に満足を得られなかった中堅に一読を勧めたい。

本書の購入申込みは資源地質学会（tel. 03-3475-5287, fax. 03-3475-0824）である。

（名古屋大学 田中 剛）

「平成5年度文部省科学研究費補助金の申請状況に関するアンケート」の集計結果について

日本地球化学会将来計画委員会

先に、本学会員の皆さんにお願いした、平成5年度文部省科学研究費補助金（通称 科研費）の申請状況に関するアンケートの回答を3月20日で締切り、集計しました。ここに、その結果を報告します。

今回のアンケートのねらいは、平成5年度から新設された細目「地球化学」へ、本学会員から何件の申請があるかを知ることであり、その結果は次の通りです。

|                 |       |
|-----------------|-------|
| アンケートへの回答の総数    | 251   |
| 科研費の申請を行った人     | 177 名 |
| 科研費の申請を行わなかった人  | 74 名  |
| 科研費の延申請件数       | 209 件 |
| 細目「地球化学」への延申請件数 | 97 件  |
| その他の細目への延申請件数   | 112 件 |

この結果は、細目「地球化学」への申請件数が、当初期待した3桁の件数に近いものであり、一応満足すべきものと判断されます。今回のアンケートへの回答からもれたもの、本学会員以外からの申請によるものなどを合わせると、細目「地球化学」への申請件数はこれより

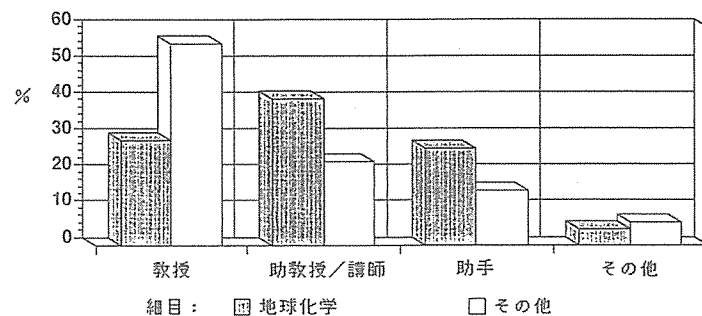


図1 種々の職種による科研費の申請状況

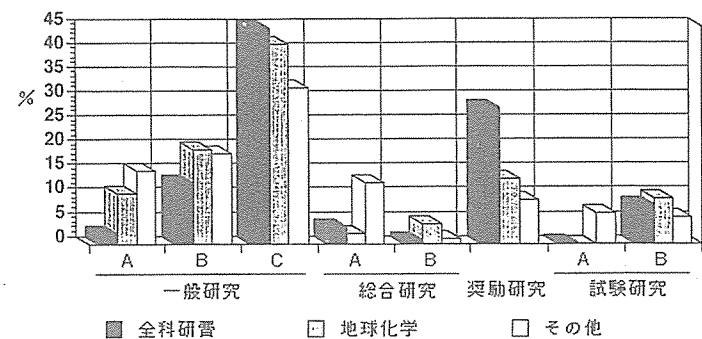


図2 種々の研究種目への科研費の申請状況

約2割程度多くなるものと予想されます。したがって、この数字は、分科「地球化学」における他の細目の申請件数に比べて、少ないものとは考えられません。しかし、予算要求には、「要求があって、はじめて交付がある」と言う鉄則がありますので、より良い研究環境を作るため、引き続き細目「地球化学」への科研費申請件数の増加を促すよう、会員全体で努力して行くことは重要です。

本学会員が細目「地球化学」以外に申請した分科、細目は、「岩石・鉱物・鉱床学」(36件)、環境科学(11件)、地質学(7件)、気象・海洋・陸水学(6件)、分離・精製・検出(6件)、惑星科学(5件)、無機化学(5件)など、17の分科、細目(不明が17件)におよびます。この点は、日本地球化学会が学際的であることを示しているものと理解されます。今回のアンケートのまとめでは、これらの申請件数をひとまとめにして「その他」としています。

今回のアンケートから、申請をした研究者の職種および研究種目について、いろいろな特徴がわかりました。図1は、教授、助教授/講師、助手およびその他の研究機関の研究者などの職種に分けて申請件数を整理したものです。何れも、それぞれの細目あるいは分科・細目における全申請件数に対しての、各職種による申請件数の割合を示したものです。細目「地球化学」では助教授/講師クラスの中堅層が頑張っているのに対して、「その他」では教授層が全申請件数の過半数を占める点が特徴的でした。いわば、教授元気型と言ったところですか。

研究種目による申請件数の分布を図2に示します。細目「地球化学」および「その他」では、互いに大きな差はありませんでした。しかし、平成5年度の各研究種目への科研費申請状況と比べると、細目「地球化学」では、比較的一般研究AおよびBなどの大型研究に集中しており、一般研究Cおよび奨励研究へ申請する割合が低い傾向が認められます。これは、自然を対象にした観測研究を行うため、地球化学の研究には、比較的多額の費用が必要であること、このためには、まとまった額の研究費の取得が不可欠であることを示しています。

最後に、本アンケートへの回答に協力して下さった会員の皆様に感謝します。

1993年度質量分析連合討論会

主催 日本質量分析学会  
共催 日本地球化学会ほか  
会期 1993年5月12日(水)~14日(金)  
会場 岡崎市竜美丘会館 [愛知県岡崎市東明大寺町5-1]

プログラム

第1日(12日)

[口頭発表] (9.00~11.05)

[新しい技術・システムの展開]

- 10-1 フーリエ変換方式小型精密質量分析計の開発(日機装中研) ○山崎博実・常田 誠・高桑保志・本多善久・糠信教司・中川和雄
- 10-2 CCDイメージ検出器を用いるバラボラ型質量分析器の試作(阪大教養) ○有村正名 松村玄悦 吉川要三郎
- 10-3 超高分解能磁場型質量分析計のイオン光学(阪大名誉教授) 松田 久
- 10-4 マトリックス連結導入・液体イオン化昇温分離・質量分析法(横浜国大工) ○土屋正彦・金子竹男・小林利武・橋本雅樹
- 10-5 血中メタロンの微量定量を目指した直接導入型LC/CI-MSインターフェースの改良(東京医歯大) 笠間健嗣
- 10-6 不揮発性移動相による分析のためのLC/MSマルチ導入システムの開発(武田薬品・日立製作所\*) 大西功二・多田憲生・吉村義信○永井伸治\*・加藤義昭\*
- 10-7 LC/APCI, ESI-MSのポストカラムアディクション(日立製作所) ○松村和美・三村忠男・加藤義昭
- 10-8 LC/ESI-MSにおける負イオン検出の高感度化の検出(日立製作所) ○谷川健一・松村和美・加藤義昭

[口頭発表] (11.10~12.10)

[イオン化機構とイオン反応]

- 10-9 電子移動平衡に基づく電子親和力の測定一構造一電子親和力相関(分子研・九大理\*) ○三島正章・HUH Chul・藤尾瑞枝・都野雄甫
- 10-10 特殊材料ガスCF<sub>4</sub>の関与するクラスターイオンの熱力学安定性とその構造(山梨大工) ○那須勝行・藤間 奨・平岡賢三
- 10-11 ホスト・ゲストFABマスマススペクトロメトリー: 気相平衡自由エネルギー(ICRMS)との相関(阪大産研・九大理\*) ○澤田正實・奥村泰男・高井嘉雄・山田 等・高橋成年・三島正章\*・都野雄甫\*
- 10-12 還元性マトリックスから酸化性マトリックスに変えることにより観測された、LSIMSスペクトル中の(M+H)<sup>+</sup>と(M+2H)<sup>+</sup>の割合の変化(M: [RuCl<sub>2</sub>(bpy)<sub>2</sub>]と[Ru(CN)<sub>2</sub>(bpy)<sub>2</sub>]) (日本医大・立教大理工\*) ○田中幹夫・永井 俊・三木瑛一\*・石森達二郎\*

[ポスター発表] (13.20~14.50)

- 1P-1 低加速イオン源のイオン光学的研究(日本電子・阪大教養\*) ○石原盛男・松尾武清\*・桜井 達\*・伊藤啓行\*
- 1P-2 ハイブリットMSの開発と応用(日本電子) ○国広文夫・石原盛男・草井明彦・浅田 透・貫名義裕
- 1P-3 LC/MSにおける精密質量測定(日立計測・日立製作所\*) ○千田直人・坂東智美・高橋利明・零石賢一・加藤義昭
- 1P-4 超音波ブライザー型ESI/LC/MSインターフェース(JEOL USA・日本電子\*) ○田村 淳・J. W. Finch・R. B. Cody・M. D. Musselman・金子恒顕\*

国広文夫\*・野嶋一哲\*・貫名義裕

- 1-P-5 飽和炭化水素の極端紫外光励起によるイオン対生成機構(分子研) ○服部秀夫・吉田啓晃・見附孝一郎
- 1-P-6 FAB-MSのイオン化(VII)-M<sup>+</sup>を与える新しい化合物群-(東邦大薬・東邦大理\*) ○高山光男・岩村道子\*・岩村 透\*\*
- 1-P-7 FT-ICRMSを用いた水酸基負イオン光脱離断面の同位体効果の研究(電通大) ○内藤康秀・上野仁士・平松英治・井上雅夫
- 1-P-8 ESI/MSに溶液化学の常識は通用するか(山梨大工) ○村田亘之介・相澤恵一・平岡賢三
- 1-P-9 水付加硫酸クラスターイオンのCADスペクトルの研究(福井大教育) ○伊佐公男・片岡弘善・岩永英子・渡辺健一
- 1-P-10 キラルFABマスマススペクトロメトリー(阪大産研) 奥村泰 夫・高井嘉雄○山田 等・兼田隆弘・高橋成年・澤田正實
- 1-P-11 C<sub>76</sub>, C<sub>84</sub>フラレーンのLC/MSスペクトルの検討(阪大教養・三重大工\*・日本電子\*\*) ○松尾武清・伊藤啓行・篠原久典\*・斎藤弥八\*・松浦健二\*\*・野嶋一哲\*\*
- 1-P-12 フラレーンの分析について(島津製作所・KRATOS ANALYTICAL\*・動燃東海事業所\*\*) ○久保はるみ・大西正三・竹田武弘・Philip Ireland\*・船坂英之\*\*・高橋武士\*\*・岸本洋一郎\*\*
- 1-P-13 カルボン酸類とそれらのグリシン抱合体のLC-APCI-MSとLC-ESI-MSにおけるフラグメンテーションの比較(神戸学院大薬) ○精谷史代・五十嵐一雄・福井巳芳
- 1-P-14 プロリン含有テトラペプチド誘導体のFABMSにおけるフラグメンテーション(福岡大薬) 恒松英明○花園弘志・堀江健一・福田 司・山本孫兵衛
- 1-P-15 負イオンCADスペクトルの構造解析への応用-Char-gerremote fragmentationのenergeticsに関して(三共分析代謝研・第一生産技術研\*) ○中村健道・高澤智子・丸山康子・木下 武・竹村 哲\*・河崎孝男\*
- 1-P-16 シクログリシリグリシンのフラグメンテーション機構についてのMO計算(6)(奈良女大理・阪市大理\*) ○竹内孝江・樋口紀子・飯田桂子・山本正夫・松下叔夫\*・西本吉助\*
- 1-P-17 有機フッ素化合物のメタステーブル分解(IV) CF<sub>3</sub>CH<sub>2</sub>OH<sup>+</sup>(m/z 99) イオンからのHF脱離機構(群馬高専・群馬大工\*) ○田島 進・白井利幸・荻野和夫・飛田成史\*\*
- 1-P-18 MALD-TOFの高分子化合物への応用(日本電子) ○草井明彦・田中孝治・田中一夫・貫名義裕・野嶋一哲
- 1-P-19 MALDI-TOFMS方法による生体関連物質の分析(島津製作所・KRATOS ANALYTICAL\*) ○田中耕一・大西正三・川畑慎一郎・Steve Davis\*
- 1-P-20 大環状ポリアミンのFAB-MSによる構造解析 第1報 33~35員環ポリアミンのFAB・CADスペクトルの低質量部の解析(理化学研・オルガノ分析センター\*) ○岩森智之\*・江角保明・岩田正彰・浦本昌和
- 1-P-21 超分子メタロアントシアニンのESI法による質量分析(名大農・福山女大生活\*・名大化測機セ\*\*・藤田保衛大総医研\*) ○上田 実・吉田久美\*・近藤忠雄\*\*・磯部 稔・千谷晃一\*・鈴木政美\*
- 1-P-22 液体イオン化質量分析法による過酸化脂質及びその関連化合物の分析(神奈川大工・横浜国大工\*) ○持田由幸・中村茂夫・横濱幸男\*・土屋正彦\*
- 1-P-23 LSIMSによるモノおよびビス硫酸化脂質の構造解析(帝京大医・島津製作所\*・KRATOS ANALYTICAL\*\*・東医歯大機器分析室\*・東医歯大医\*\*) ○只野一有富桂



- 子・久保はるみ\*・P. Ireland\*\*・笠間健嗣\*・飯田静夫\*\*・石塚稲夫
- 1-P-24 イオンスプレー質量分析計によるグリコサミノグリカン糖鎖の構造解析への応用(糖鎖工学研・釧路短大\*・弘前大医\*\*)○児島 薫・加藤郁之進・真島光雄\*・高垣啓一\*\*・遠藤正彦\*\*
- 1-P-25 非濃縮直接呼吸分析へのイオンサイクロトロン共鳴質量分析計 (FT-MS) の応用例 (信州大医・東大生研\*)○星加安之・笠間 進・二木朗江・高井信治\*
- 1-P-26 カラムスイッチング法を用いた LC/MS による非ステロイド抗炎症薬ロルノキシカム代謝物の同時分析 (大正製薬総合研) ○加藤幸治・小勝 順・篠原康郎・小川祐紀・浦野英俊・諏訪俊男
- 1-P-27 熱重量-質量同時分析法による加熱時発生気体の定量 (東レリサーチセンター) ○高井良浩・石切山一彦・十時 稔
- 1-P-28 模擬原始大気実験生成物のマスマスベクトル-アミノ酸前駆体のキャラクタリゼーション(横浜国大工) ○小原雅典・小林利武・青木暢宏・金子竹男・土屋正 彦・小林憲正
- 【ワークショップ】(並列開催15.00~18.00)
- ①粒子衝突によるイオン化と活性化解離-FAB のイオン化機構と MS/MS の基礎- (世話人: 早川滋雄)
- ②フラグメンテーションの新しい考え方-Ion-Neutral Complex- (世話人: 中田 尚男)
- ③マイクロカラムを用いた LC/MS における応用と問題点 (世話人: 武田直仁)

## 第2日 (13日)

【口頭発表】(9.00~11.55)

「イオン化機構とイオン反応」

- 2-O-1 気相 FAB イオン化法の原理 (東邦大薬) 高山光男
- 2-O-2 大気圧スプレー (ASP) 法におけるプロトン付加アミノ酸分子の生成過程 (日立中研・長岡技科大工\*) ○平林 集・高田安章・神原秀記・伊藤治彦・朽津耕三\*
- 2-O-3 CI, FAB, ESI におけるプロトン付加の特性 (愛教大総科) ○中田尚男・荒川直文・植前孝幸・水野里香・赤星茂一
- 2-O-4 リフレクトロン型飛行時間質量分析計を用いた金属原子水和クラスターイオンの光解離過程の研究 (分子研・総研大\*・慶大理工\*\*) ○美奈津文典・實方真臣・塚本恵三・富宅喜代一・岩田末広\*\*
- 2-O-5 金属内包フラーレンのレーザー脱離 TOF 質量分析 (三重大工・名城大理工\*) ○篠原久典・山口裕樹・林 直晋・佐藤博保・稲垣 紀・斎藤弥八・大河内正人\*・安藤義則\*
- 2-O-6 隠れた異性化反応を経るイオン分解: ディストニック・ラジカルカチオン中間体 (アップジョン筑波総研・化技研\*) ○西村俊秀・丹羽吉夫\*
- 2-O-7 o-アセチルアニソール ( $\text{CH}_3\text{COC}_6\text{H}_4\text{OCH}_3$ ; Mw 150) の分解機構 (群馬高専) 田島 進・野口 勉・田中陵二・○荻野和夫
- 2-O-8 有機ケイ素化合物のメタステーブル分解 (IX) ( $\text{CH}_3$ )<sub>2</sub>SiH<sup>+</sup>(m/z 59) イオンからの CH<sub>4</sub> 脱離機構 (信州化学コーポレートリサーチセンター・三共分析代謝研\*・群馬高専\*\*) ○田部井栄一・森 滋・木下 武\*・河添香代子\*・植村 聖\*\*・田島 進\*\*
- 2-O-9 アルキルシラン類のマスマスベクトル (4) プチルメチルシラン, プチルジメチルシラン, プチルトリメチルシラン (奈良女大理) ○村田伯子・竹内孝江・横田佳子・山本正夫

- 2-O-10 ジシラアルカン類のマスマスベクトル (4) (奈良女大理) ○川合みほ・竹内孝江・田中基子・山本正夫
- 2-O-11 ビリジノベンゾアントロン類のフラグメンテーション-MS/MS による解析- (東邦大理・東邦大薬\*・都衛研\*\*・明星大理工\*・ジャスコインターナショナル\*\*) ○ゼベル アブリズ・青木淳治・高山光男\*・親 照雄\*\*・上田豊甫\*・柴田明宏\*\*
- 【日本質量分析学会総会】(13.20~12.25)
- 【ポスター発表】(13.20~14.50)
- 2-P-1 メタステーブルイオン分析用飛行時間型質量分析装置の開発 (阪大教養) ○桜井 達・松尾武清・伊藤啓行
- 2-P-2 FT-ICRMS でのイオンサイクロトロン運動減速操作の軌道計算による最適化 (電通大) ○内藤康秀・関 翔・三浦健児・井上雅夫
- 2-P-3 アレイ検出器を用いた MALDI 磁場型質量分析計 (JEOL USA・日本電子\*) B.D. Musselman・J. W. Finch・J. Tamura・田中孝治・石原盛男\*・国広文夫\*・野嶋一哲\*○貫名義裕\*
- 2-P-4 CE/MS インターフェース開発とアミノ酸変異解析への応用 (日立中研) ○高田安章・中山佳苗・坂入 実・吉田基子・渡辺吉雄・神原秀記
- 2-P-5 多環芳香族炭化水素の1価および2価イオンの低エネルギー解離過程: 出現エネルギー測定による考察 (群馬大工・ベルリン自由大\*・バリ南大\*\*) ○飛田成史・H. W. Jochims\*・E. Illenberger\*・H. Baumgartel\*・S. Leach\*\*
- 2-P-6 Fast Atom Bombardment-induced Fluorescence (東邦大薬・日本電子\*・東邦大理\*\*) ○高山光男・野村太郎・横山 達\*・野嶋一哲\*・箕輪達哉\*\*
- 2-P-7 H<sup>+</sup>とD<sup>+</sup>イオンへのアルカリ金属からの2電子移動によるH<sup>+</sup>, D<sup>+</sup>イオンの生成; 反応断面積と同位体効果 (阪府大総科) ○門村和徳・早川滋雄・藤井敬三・杉浦俊男
- 2-P-8 MS/MS 法を用いた親和力決定に及ぼす試料分子の影響- (1) 試料分子によるアルカリ金属イオンの認識の違いについて- (福井大教育) ○平井香織・伊佐公男・新川正樹・寺井保彦
- 2-P-9 セシウム付加2B金属のクラスター強度分布測定およびクラスターの構造解析 (阪大教養・阪大理\*) ○伊藤啓行・交久瀬五雄\*・市原敏雄\*・桜井 達・松尾武清
- 2-P-10 LC/APCI-MS における立体選択的反応 (京都薬大・田辺製薬\*) 橋本圭二・隅田芳男・寺田俊二・藤原靖弘・岡村公生\*
- 2-P-11 2-オキサソリン誘導体の幾何異性体識別 (愛教大総科・阪大教養\*) 近藤牧子・○小西英之・石小 蘭\*・首博幸\*・井畑敏一
- 2-P-12 イソインドリンのFABMS による構造解析 (1) (福井大教 育・福井大工\*) ○伊佐公男・高橋一朗\*・都築祥生\*・北嶋英彦\*
- 2-P-13 カヤツリグサ科スゲ属のステルベン型化合物のマスマスベクトル (阪府大農・岡山理大理\*・日立計測\*\*) 中山 充○久保田豊・星野卓 二・野崎 浩・千田直人\*\*
- 2-P-14 ペプチド多価イオンの位置選択的衝突解離 (物質工学工技研) ○石川啓一 郎・丹羽吉夫
- 2-P-15 CH<sub>3</sub>SiH<sub>2</sub><sup>+</sup>におけるH<sub>2</sub>脱離機構の分子軌道法による検討 (星薬大・群馬大工\*・群馬高専\*\*) ○鳴原 淳・飛田成史\*・田島 進\*\*
- 2-P-16 シラシクロアルカン類のフラグメンテーション (2) シラシクロブタンとシラシクロペンタンのEI マスマスベクトル (奈良女大理) ○米原直美・竹内孝江・山本正夫
- 2-P-17 安息香酸イソブチルイオンの単水素および二重水素転位

- 反応: MIKE スペクトルと MO 計算による置換基効果の検討 (群馬大工・群馬高専\*・星薬大\*\*) ○飛田成史・田島 進\*・鳴原 淳\*\*
- 1-P-18 シクロデキストリン包接錯体のマスマスベクトロメトリー (電通大) ○黒野 定・平野 啓・辻本和雄・大橋 守
- 1-P-19 FAB CAD スペクトルによるグリバスタチン類デブシペプチドの構造解析 (理化学研) ○江角保明・伊藤由美子・浦本昌和
- 1-P-20 FRIT-FAB LC/MS 法による抱合胆汁酸の分析 (日本電子) ○松浦健二・高橋 豊・野嶋一哲・板垣又丕
- 1-P-21 FAB 質量分析法による直鎖オリゴ糖誘導体の構造解析 (アップジョン筑波総研・長岡大薬\*) ○田原 務・西村俊秀・石淵清孝\*・太田和子\*・藤田佳平衡\*
- 1-P-22 HPLC/FAB-MS による培養おたね人参エキスの酵素糖転移反応物の分析 (日東技術情報センター・日東電工\*) ○堀 正典・伊藤雅章\*・日比野健\*
- 1-P-23 FRIT-FAB LC/MS による医薬品の定性・定量分析 (協和発酵医薬研) 安澤 亨○服部いつ乃・高嶋通雄・山口和夫
- 1-P-24 TSP-LC/MS による Betamethasone 誘導体 TS-410 関連代謝物分析 (大正製薬総研) ○松岡陽子・神宮茂司・小勝 順・長部 亘・荻野敦子・福島清実・諏訪俊男
- 1-P-25 異常プレアルブミンアミロイド蛋白酶消化物の LC/MS による分析 (東大医・東医歯大\*・浜松医大\*\*) ○高橋利枝・笠間健嗣\*・馬場 聡\*\*・清水孝雄
- 1-P-26 肝臓毒 microcystin の FAB および ESIMS と LS/MS への応用 (愛知衛研・名城大薬\*・神奈川衛研\*\*・日立計測\*) ○近藤文雄・猪飼誉友・岡 尚男・石川直久・原田健一\*・島田隆介\*・押方基二\*・鈴木真言\*・辻清美\*\*・加藤陽子\*・零石賢一\*
- 1-P-27 高速有機化合物分子の表面電離質量スペクトル (小山高専・国立環境研\*) ○岸 浩・藤井敏博\*
- 1-P-28 エレクトロスプレー LC/MS による環境汚染物質の測定 (ジャスコインタナショナル・Fisons VG Bittech\*・成蹊大工\*\*) ○柴田明宏・河内早苗・Steve Lows\*・代島茂樹\*\*・飯田芳夫\*\*
- 【奨励賞受賞講演】(15.00~15.50)
- 2-O イオン質量分析法による高精度定量分析の研究 (日本電信電話境界領域研) 本間芳和
- 2-O マスマスベクトロメトリーの有機化合物構造解析への応用に関する研究 (三共分析代謝研) 中村健道
- 【記念講演】(16.00~17.30)
- 日本質量分析学会40周年を迎えて (放送大) 土屋利一
- 質量分析装置の発展と展望 (阪大名誉教授) 松田 久
- 有機マスマスベクトロメトリーの40年 (電通大) 大橋 守
- 【懇談会】(18.00~20.30)

## 第3日 (14日)

【口頭発表】(9.00~11.55)

「バイオサイエンス・環境化学への応用」

- 1-O-1 アニオン系界面活性剤の FRIT-FAB/LC-MS による分析 (東レリサーチセンター) ○尾崎悦男・酒井郁夫
- 1-O-2 大気圧イオン化 (API/ESI) 法を用いた HPLC-四重極型タンデム質量分析の応用 (フィニガン・マッソ) ○金井みち子・馬 丹
- 1-O-3 環状デブシペプチド類の FAB MS/MS による新解析法 (三共分析代謝研) ○木下 武・石川富雄・中村健道
- 1-O-4 発光蛋白質エクオリンのマスマスベクトロメトリー (電通大・理研国際フロンティア\*・大阪バイオサイエンス研\*\*) ○黒野 定・平野 啓・辻本和雄・大橋 守・大橋陽子\*・永井克孝\*・辻フレデリック一朗\*\*・近江

谷克裕\*\*

- 3-O-5 SIMS による硫酸化メチルグリコシド, メチルグルクロン酸の異性体判別 (曾田香料・名大教養\*・電通大\*\*) ○飯 忠司・奥田 聡\*・平野 啓\*\*・辻本和雄\*\*・大橋 守\*\*
- 3-O-6 大きなオリゴ糖および糖脂質の ESI 分析-I 型血球型活性物質の25糖糖鎖と合成中間体-(理研国際フロンティア\*・曾田香料\*\*・理研\*・東大農\*\*) ○大橋陽子・飯 忠司\*\*・松崎祐二\*・小川智也\*\*・永井克孝\*
- 3-O-7 ESI および FAB 法を用いるウシ心筋の脂質の構造解析 (電通大・姫工大\*) 黒野 定○辻本和雄・大橋 守・青山 浩\*・新沢恭子\*・吉川信也\*
- 3-O-8 tRNA 中に含まれる修飾ヌクレオシド類の Frit-FAB LC/MS による一斉分析-(+) イオン検出と (-) イオン検出との比較- (名城大薬) ○武田直仁・中村昌司・吉住秀夫・立松 晃
- 3-O-9 パーキンソン病関連物質である N-メチルノルサルソリノールのラット脳内における生成経路について-microdialysis 法による証明-(名大医・名大医短\*・名城大薬\*\*・名工大\*・藤田保衛大\*\*) ○梶田光春・丹羽利充・丸山和佳子・中原大一郎\*・武田直仁\*\*・吉住秀夫\*\*・立松 晃\*\*・直井 信\*・永津俊治\*\*
- 3-O-10 化学イオン化スペクトルのデータベース化 (成蹊大工・DBS\*・東京家政学院筑波短大\*\*) 飯田芳男○代島茂樹・六車裕孝\*・和知孝宣\*・前田浩五郎\*\*
- 3-O-11 NIST-MSDB における CAS 化合物名の側鎖部分 (その6) 側鎖部分による高速検索 (筑波研究学園専門学校・DBS\*・東京家政学院筑波短大\*\*) ○仲久保正人・仲久保公子・和知孝宣\*・前田浩五郎\*\*
- 【口頭発表】(13.00~14.50)
- 「宇宙科学・マテリアルサイエンスへの応用」
- 3-O-12 新落下球粒隕石「美保関」および「田原」中の希ガス (岡山大地球内部研・国立科学博物館\*) 長尾敬介○島 正子\*
- 3-O-13 本邦に落下した球粒隕石中の希ガス (東大理・岡山大地球内部研\*・国立科学博物館\*\*) ○三浦弥生・長尾敬介\*・島 正子\*\*
- 3-O-14 Li<sub>2</sub>O-ZrO<sub>2</sub> 系化合物の蒸発と熱力学的性質 (京大原研) ○浅野 満・加藤嘉成・佐々木丈・原田敏夫・水谷保男
- 3-O-15 卓上型質量分析計/ダブルショットパイロライザーによるポリマー類の分析 (日本電子) ○小野寺潤・仲山要二・樋口哲夫
- 3-O-16 H<sub>2</sub>O<sub>3</sub> (HOOOH) の存在と検出-2-(国立環境研) ○藤井敏博・佐藤高志
- 3-O-17 APIMS によるモノシランガス中の微量水分の検出 (日立中研・日立東京エレクトロニクス\*) ○入江隆史・三井泰裕・飯島晋平・溝上員章\*
- 3-O-18 金属薄膜の SIMS 分析に於ける表面あれの検討 (フルバックファイ) ○星 孝弘・三好健司

懇 親 会 5月13日(木), 会費 5,000円

参加登録費 一般 6,000円, 学生 3,000円 (要旨集代を含む)。

連 絡 先 〒448 愛知県刈谷市井ヶ谷町

愛知教育大学物質科学 小西英之

tel. 0566-36-6931

fax. 0566-36-4337



## 「アジア学術会議(仮称)」の開催決まる

平成5年3月 日本学術会議広報委員会

「アジア学術会議(仮称)」の開催経費を含む日本学術会議の平成5年度予算が決まりましたので、その概要についてお知らせします。

## 平成5年度日本学術会議予算

日本学術会議の第15期活動計画の大きな柱である「学術研究の国際貢献の重視」の具体的方策の一環として、「アジア学術会議(仮称)」の開催が、平成5年度予算によって実現することとなりました。その内容は、学術研究が環境問題等の諸課題を克服し、人類の繁栄と世界の平和に寄与するとの認識に立って、本年秋に東京で、我が国と地理的・文化的に関係の深いアジア各国を代表する学術研究者が一堂に会して、各国における学術研究の現状、アジア地域

における連携・協力のあり方などに関し意見を交換する場として開催するものです。我が国を含め10か国程度のアジア諸国から、代表者を招へいする予定です。

その他、平成5年度予算では、国際分担金の25団体に対する単価アップが認められ、国際会議の国内開催費については、アジア社会科学、植物科学、太平洋学術、電波科学、純粋・応用物理学、気象・水分、の6国際会議の開催を予定しています。また、世界各地で開催される学術関係国際会議への代表派遣や二国間交流に必要な経費が計上されております。

(単位：千円)

| 事 項             | 前 年 度<br>予 算 額<br>A | 平成5年度<br>予 算 額<br>B | 比 較 増<br>△ 減 額<br>C = B - A | 備 考                                     |
|-----------------|---------------------|---------------------|-----------------------------|-----------------------------------------|
| 日本学術会議の運営に必要な経費 | 1,042,482           | 1,095,827           | 53,345                      | 対前年度比較<br>105.1%                        |
| 審 議 関 係 費       | 248,789             | 265,525             | 16,736                      | ○地球圏-生物圏国際協同研究計画<br>(IGBP)シンポジウム、公開講演会等 |
| 国際学術交流関係費       | 198,514             | 221,254             | 22,740                      |                                         |
| 国 際 分 担 金       | 67,089              | 74,722              | 7,633                       |                                         |
| 国 内 開 催         | 80,596              | 73,543              | △ 7,053                     |                                         |
| 代 表 派 遣         | 44,006              | 44,006              | 0                           |                                         |
| 二 国 間 交 流       | 6,823               | 6,823               | 0                           |                                         |
| アジア学術会議         | -                   | 22,160              | 22,160                      |                                         |
| 会 員 推 薦 関 係 費   | 21,216              | 19,574              | △ 1,642                     |                                         |
| 一 般 事 務 処 理 費   | 573,963             | 589,474             | 15,511                      |                                         |

## 日本学術会議第16期会員の推薦について

日本学術会議の会員は、従来、科学者を有権者とする直接選挙によって選出されていましたが、日本学術会議法の一部を改正する法律(昭和58年法律65号)により、第13期(昭和60年7月22日)から、学術研究団体を基盤とする推薦・任命制に改められました。来年7月で、この推薦制度は三期9年を経過することとなります。

この会員選出制度のあらましは、次のとおりです。

- ① 日本学術会議は、一定の要件を備える学術研究団体を、その申請により登録する。
- ② 登録学術研究団体は、その構成員である科学者のうちから、会員の候補者を選定し、及び会員の推薦に当たる推薦人を指名し、それぞれ、日本学術

会議に届け出る。

- ③ 推薦人は、会員推薦管理会がその資格があると認定した会員の候補者のうちから、会員として推薦すべき者及び補欠の会員として推薦すべき者を決定し、日本学術会議を経由して内閣総理大臣に推薦する。

- ④ 内閣総理大臣は、上記③の推薦に基づいて、会員を任命する。

- ⑤ 学術研究団体の登録、会員の候補者の資格の認定その他会員の推薦に関する所要の事務は、日本学術会議に置かれる会員推薦管理会が行う。

以上の概要を第16期(平成6年7月-平成9年7月)の会員選出日程によると、次表のようになります。これに従って今後の事務処理が行われる予定になっています。

## 日本学術会議第16期会員選出手続日程

|      |                      |                                             |
|------|----------------------|---------------------------------------------|
| 平成5年 | 5月31日(月)まで           | 学術研究団体の登録申請の締切り                             |
|      | 9月上旬                 | 登録審査結果の通知                                   |
|      | 不登録通知を受けた日の翌日から20日以内 | 不登録通知を受けた団体からの異議の申出受付                       |
|      | 9月上旬                 | 関連研究連絡委員会についての意見聴取*                         |
|      | 10月下旬                | 〈団体関係〉異議の申出に対する決定                           |
| 平成6年 | 11月30日(火)まで          | 関連研究連絡委員会の指定*                               |
|      | 12月上旬                | 会員の候補者の選定及び推薦人の指名の依頼                        |
|      | 1月31日(月)まで           | 会員の候補者の届出の締切り                               |
|      | 2月21日(月)まで           | 推薦人(予備者を含む)の届出の締切り                          |
|      | 3月20日(日)まで           | 会員の候補者の資格の認定等の通知                            |
|      | 3月下旬                 | 推薦人に会議開催等の通知発送                              |
|      | 不認定通知を受けた日の翌日から20日以内 | 会員の候補者の資格の不認定通知を受けた学術研究団体又は会員の候補者からの異議の申出受付 |
|      | 4月20日(水)まで           | 〈会員の候補者関係〉異議の申出に対する決定                       |
|      | 5月中旬から6月上旬まで         | 推薦人会議(会員及び補欠の会員として推薦すべき者を決定)                |
|      | 6月中旬                 | 日本学術会議を経由して内閣総理大臣へ推薦                        |
|      | 7月22日(金)             | 第16期日本学術会議会員の任命                             |

注：\*は、日本学術会議会長が意見聴取し、指定する。

## 日学双書の刊行について

日本学術会議主催公開講演会及び公開シンポジウムの記事をもとに編集した、次の日学双書が刊行されました。

日学双書第15刊 「文明の選択-都市と農業・農村の共存を目指して-」

定価1,000円(消費税込み、送料240円)

日学双書第16刊 「子どもの人権を考える」

定価1,000円(消費税込み、送料240円)

日学双書第17刊 「首都機能の一極集中問題」

定価2,000円(消費税込み、送料310円)

(問い合わせ先)

〒106 東京都港区西麻布3-24-20

交通安全教育センター内

財団法人日本学術協力財団

☎03-3403-9788

御意見・お問い合わせ等がありましたら、下記までお寄せください。

〒106 東京都港区六本木7-22-34

日本学術会議広報委員会 電話03(3403)6291

# 会員問題検討用データベースの作成について

—名簿作成カードは全員が返送を—

日本地球化学会の将来を検討するためには、会員の環状把握が重要になっています。これまでもその努力が行われてきましたが、基礎となるデータに空白が多く、正確さに欠けています。主な原因は、古い会員の入会申し込み書が保存されておらず、名簿に記載されなかった項目（たとえば生年月日）が不明となっているためです。会員の現状を明らかにするために、本年度の名簿作成の機会を利用して、データベースを作成致します。項目はこれまでの入会申し込み書に準じ、さらに新項目として専門分野（出身分野、対象）を選択式で、日本地球化学会以外の主な所属学会を記入式で質問します。従いまして、別便で発送の名簿作成カードを全会員が返送して下さるようお願い致します。締切は5月31日（月）です。なお、名簿として公表される項目は従来通りであり、データベースの管理は幹事および評議委員会が責任を持ちます。

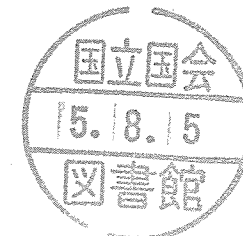
会員問題担当幹事 富樫 茂子

## 日本地球化学会ニュース

No. 134

1993. VII. 20

### 1993年度日本地球化学会年会



主 催：日本地球化学会  
日 時：9月30日（木）～10月2日（土）  
会 場：近畿大学（大阪府東大阪市小若江3-4-1）

会場への交通：本紙2ページをご覧下さい。

プログラム：本紙4～13ページ、時間割が3ページにあります。

参 加 費：会員 1,000円、非会員 2,000円、学生 無料

講演要旨集代：一冊 4,000円

申 込 切：発表申込は切りました。

参加、懇親会、小集会の申込は、9月11日（土）までに、参加申込用紙（本ニュース133号で配布）を、年会準備委員会まで郵送のこと。

送 金 要 領：9月11日（土）までに、郵便為替で御送金下さい。

郵便為替 大阪 8-120400 日本地球化学会1993年会準備委員会

懇 親 会：10月1日（金）18時より

レストラン ノーベンバー（近畿大学構内）

会費 一般 5,000円、学生 3,000円

問い合わせ先：〒577 大阪府東大阪市小若江3-4-1

近畿大学理工学部内

1993年度日本地球化学会年会準備委員会

平 木 敬 三 Tel. 06-721-2332（内線4103）

Fax. 06-730-1320

### 日本地球化学会1994・1995年度役員選挙について

本会会則により1994・1995年度の選挙が行われます。会員各位には必ず投票をお願いいたします。

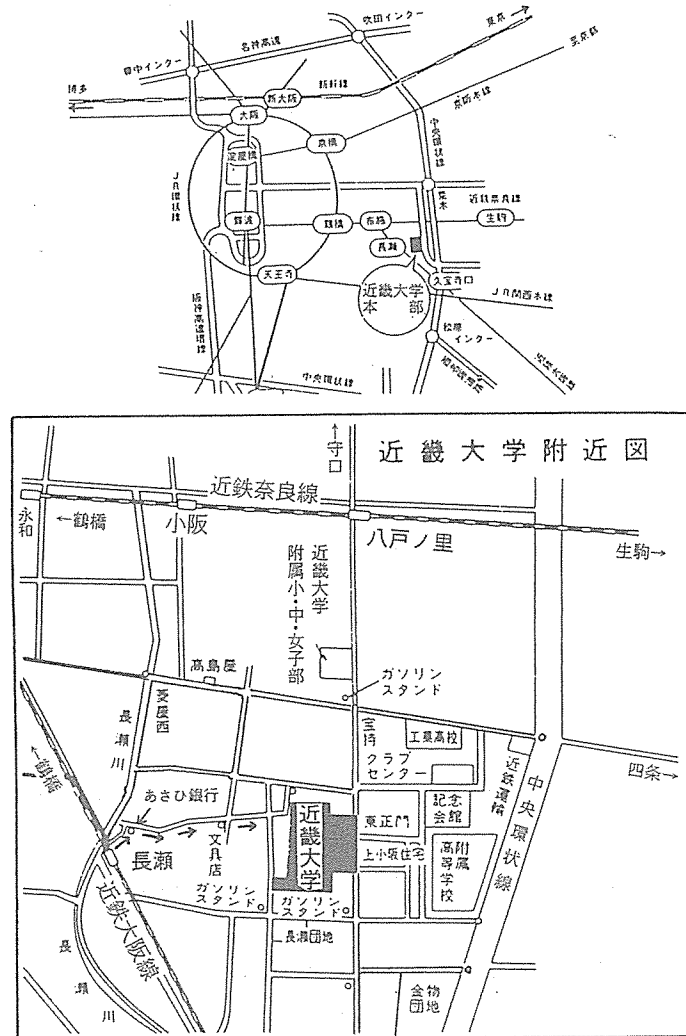
選挙広報・投票用紙・会員名簿発送 8月23日

投票締切 9月20日 必着

選挙結果公表（総会） 10月1日

編集者 野尻幸宏 〒305 つくば市小野川16-2 国立環境研究所、地球環境研究グループ  
電話 0298-51-6111, ファックス 0298-51-4732  
発行者 日本地球化学会 〒113 文京区本駒込5-16-9 学会センター C21  
日本学会事務センター内 電話 03-5814-5801

# 近畿大学所在地



〔JR 新大阪から〕約75分

—JR 利用の場合—

- ①JR 大阪方面行きに乗車、次の“大阪駅”で下車
- ②外回り環状線に乗車、7 駅目の“鶴橋駅”で近鉄大阪線に乗り換
- ③近鉄大阪線各駅停車“国分”または“高安行き”に乗車、4 駅目の“長瀬駅”で下車
- ④徒歩約10分

—地下鉄利用の場合—

- ①地下鉄御堂筋線に乗車、“難波駅”で近鉄奈良線に乗り換、“鶴橋駅”下車
- ②近鉄大阪線各駅停車“国分”または“高安行き”に乗車、4 駅目の“長瀬駅”で下車
- ③徒歩約10分

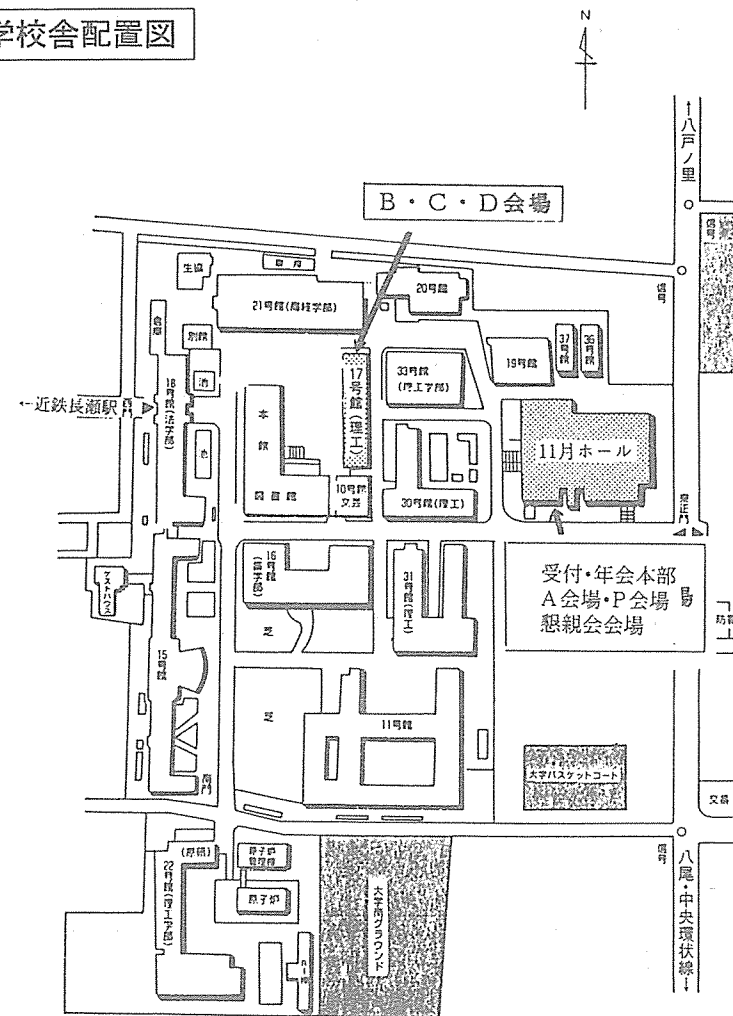
〔大阪空港から〕

エアポートリムジン“難波行き”または“上本町六丁目行き”に乗り、終点で下車し、

- ①難波で下車した場合、近鉄奈良線に乗車し、“鶴橋駅”下車
- ②近鉄大阪線各駅停車“国分”または“高安行き”に乗車、4 駅目の“長瀬駅”で下車。上本町で下車した場合、近鉄大阪線各駅停車“国分”または“高安行き”に乗車、4 駅目の“長瀬駅”で下車

近畿大学本部  
〒577 東大阪市小若江3-4-1  
TEL (06)721-2332(代)

# 近畿大学校舎配置図



1993年度日本地球化学会年会 時間割表

於：近畿大学

|                  | 会場 | 午前<br>8               | 9                | 10  | 11    | 12               | 午後<br>13               | 14  | 15                                       | 16                         | 17                       | 18 |
|------------------|----|-----------------------|------------------|-----|-------|------------------|------------------------|-----|------------------------------------------|----------------------------|--------------------------|----|
| 9月<br>30日<br>(木) | A  | 受付                    | 岩石・地殻            |     |       | 課題：地球大気          | 課題：地球大気・海洋の形成、脱ガス史を見直す |     |                                          | 夜間集会<br>地球化学の<br>将来計画<br>他 |                          |    |
|                  | B  |                       | 課題：メタンの地球化学と地球環境 |     |       | 課題：メタンの地球化学と地球環境 |                        |     |                                          |                            |                          |    |
|                  | C  |                       | 海 洋              |     |       | 海 洋              |                        | 熱 水 |                                          |                            |                          |    |
|                  | D  |                       | 土 壤              |     | 大気・降水 |                  | 大気・降水                  |     |                                          |                            |                          |    |
| 10月<br>1日<br>(金) | A  |                       | 地球外物質            |     |       |                  | 地球外物質                  |     | 学会賞<br>記念講演<br>(A会場)                     | 総会<br>(A会場)                | 懇親会<br>(レストラン<br>ノーベンバー) |    |
|                  | B  | 課題：メタンの地球化学と地球環境      |                  |     |       | ポスター<br>(P会場)    |                        |     |                                          |                            |                          |    |
|                  | C  | 課題：沿岸域における微量成分の生物地球化学 |                  |     |       | 堆積物              |                        |     |                                          |                            |                          |    |
|                  | D  | 堆積物                   |                  |     |       |                  |                        |     |                                          |                            |                          |    |
| 10月<br>2日<br>(土) | A  |                       | 岩石・地殻            |     |       |                  | 岩石・地殻                  |     | 会主催<br>中学校高校生及び<br>一般向け講演会<br>(－地球環境と海－) |                            |                          |    |
|                  | B  | 温 泉                   |                  |     |       | 火 山              |                        |     |                                          |                            |                          |    |
|                  | C  | 鉱 床                   |                  | 有機物 |       |                  | 有機物                    |     |                                          |                            |                          |    |
|                  | D  | 陸 水                   |                  |     |       | 陸 水              |                        |     |                                          |                            |                          |    |
|                  | 会場 | 8                     | 9                | 10  | 11    | 12               | 13                     | 14  | 15                                       | 16                         | 17                       | 18 |

講演時間(討論時間含む) 一般講演 15分、課題講演 20分



1993年度日本地球化学会年会  
プログラム

座長は一部交渉中の方を含みます。

第1日(9月30日)

A会場

一般講演[岩石・地殻]

(9:00~10:00) 座長 蒲生俊敬

1A01 島弧ソレライトの金の挙動(地調)○富樫茂子・寺島 滋

1A02 西南日本弧の下部地殻の進化(岡山地球研・山口大理・島根大理・岡山大教養)○加々美寛雄・大和田正明・飯泉 滋・瀧木輝一

1A03 希土類元素組成から見たマリアナ前弧海山中の塩基片岩塩の起源(神戸大理・名大理・名大教養)○山本綱志・浅原良浩・前川寛和・杉谷健一郎

1A04 伊那領家帯, 勝間石英閃緑岩の冷却史(岡山地球研)○柚原雅樹・加々美寛雄

(10:00~11:00) 座長 山本綱志

1A05 北大東島第四紀ドロマイト岩中のフッ素含量と生成環境との関係(群馬大工)○相沢省一・赤岩英夫

1A06 四国東部四万十帯の泥質堆積岩の水素同位体比(大阪市大理)○中島英夫・益田晴恵

1A07 西オーストラリア, ハマースレーグループの堆積岩類の化学組成(名大教養・名大理)○杉谷健一郎・杉崎隆一・足立 崋

1A08 初期続成作用による鉱物形成における間隙水組成の重要性(大阪市大理・東大海洋研)○益田晴恵・蒲生俊敬

課題講演[地球大気・海洋の形成, 脱ガス史を見直す]

(11:00~12:10) 座長 松原佳代・五十嵐丈二

課題講演[地球大気・海洋の形成, 脱ガス史を見直す]を始めるにあたって(阪大理・東大理)松原佳代・比屋根肇

1A09 MORB ガラス中の  $N_2/^{40}Ar$  比から見た窒素とアルゴンの脱ガス史(東大理)○宮崎明子・比屋根肇・杉浦直治

1A10 希ガス元素存在度から考える脱ガスモデル(阪大理)○和田直子・小嶋 稔

1A11 Xe 同位体比異常に基づく地球と火星のカタストロフィック脱ガスモデル(東大理)○五十嵐丈二

(13:00~15:20) 座長 橋爪 光・植田千秋

1A12 隕石希ガスホストとしてのバブル(九大理・岡山地球研)○高岡宣雄・本村慶信・尾崎幸大・長尾敬介

1A13 微惑星の熱史とその中の窒素の挙動について(阪大理)○橋爪 光

1A14 コアーマントル分離における希ガスの挙動(阪大理・京大理)○松田准一・周藤正史・小嶋 稔

1A15 高压下でのシリケイトと金属への希ガスの溶解度実験(阪大理・東工大理)○柴田智郎・高橋栄一・小嶋 稔

1A16 希ガスと水の衝突脱ガス・脱ガス条件とメカニズム(東大理・名大理・東北大金材研)○吾妻瞬一・比屋根肇・飯島祐一・庄野彦彦

1A17 地球一次大気ならびに木星型惑星大気中の低分子炭化水素存在度の実験的研究(名大理)○三村耕一・加藤 学・杉崎隆一

1A18 同位体分別から見た地球表層の脱イオン過程(阪大教養)○植田千秋・土山 明

(15:30~17:30) 座長 佐野有司・比屋根肇

1A19 マントルの Water reservoir としての造岩鉱物(岡山地球研・筑波地球)○黒澤正紀・坂本尚義

1A20 スーパーブルームによる始源的揮発性元素の脱ガス:カーボナタイト中の希ガスからの示唆(東大理・静岡大理・都立大理・東工大理・宇宙科学研)○佐々田俊夫・比屋根肇・和田秀樹・海老原充・丸山茂徳・水谷 仁

1A21 蛇紋岩交代マグネサイトの成因と沈み込み炭素のゆくえ(静大理)○和田秀樹・野田典広

1A22 サブダクションゾーンでのマントルカーボンのフラックスについて(広大理・アリゾナ大)○佐野有司・S. N. Williams

1A23 島弧の深部ガス特性・火山性気体と非火山性気体の比較研究(秋田大鉱山・福岡大理・岡山地球研・三菱マテリアル中研)○北 逸郎・荒屋敷龍一・長谷川英尚・滝沢英夫・田口幸洋・長尾敬介・上田 晃

1A24 揮発性元素(S, C, As)の地殻・マントル内物質循環と海洋組成(慶応大理)○鹿園直建

(17:30~18:00) 座長 比屋根肇・松原佳代

総合討論「地球大気・海洋の形成, 脱ガス史を見直す」=問題の整理=

第2日(10月1日)

A会場

一般講演[地球外物質]

(9:00~10:00) 座長 橋爪 光

2A01 熱分解実験によるマーチソン炭素質隕石の有機物の研究(地調・筑波大化)○古宮正利・下山 晃

2A02 衝撃圧によるグラファイトの構造変化と隕石中のケロジェン様有機物の形式(九大理)○村江達士

2A03 始源的隕石中のナノ・ダイヤモンドの起源(阪大

理)○小嶋 稔・望月圭子

2A04 ESCA, GDMS による鉄隕石中のトロイライト, グラファイトの分析(北里大衛生・地調・丸文(株))○島村 匡・平田岳史・高橋隆子・坂本文孝

(10:00~11:00) 座長 比屋根肇

2A05 Acuna 鉄隕石中の希ガス(阪大理・岡山地球研・ウィーン自然史博物館)○松田准一・長尾敬介・Gero Kurat

2A06 ガスリッチコンドライト中の窒素(東大理)○杉浦直治・清田 肇・座主繁男

2A07 ユークライト隕石(Millbillillie, Camel Donga)の $^{39}Ar$ - $^{40}Ar$ 年代測定(東大理・東大地震研・関東学園大・岡山地球研)○三浦弥生・兼岡一郎・瀧上 豊・長尾敬介・杉浦直治

2A08 コンドリュール前駆物質とCAIs(極地研・京大理・神戸大理・筑波地球科学)○三澤啓司・藤田 隆・北村雅夫・中村 昇・坂本尚義

(11:00~12:00) 座長 中村 昇

2A09 アレンデ隕石白色包有物中の酸素同位体分布(筑波地球・学習院大化学)○坂本尚義・長沢 宏

2A10 アレンデ隕石白色包有物中のMg 同位体分布(筑波地球・学習院大化学)○小池 修・坂本尚義・長沢 宏

2A11 始源宇宙物質中の同位体分析と星の核合成過程に関する研究(東大宇宙線研)○狩野直樹・山越和雄・松崎浩之

2A12 本邦に落下した隕石の化学組成(都立大理・科学博)○海老原充・日高 洋・島 正子

(13:00~14:00) 座長 坂本尚義

2A13 ICP-MS 法による隕石試料中のランタノイド, アクテノイドの定量(都立大理)○篠塚一典・日高 洋・海老原充・中原弘道

2A14 Yamato-793321 (CM2) コンドリュールの希土類元素存在度(神戸大自然科学・神戸大理)○井上睦夫・中村 昇

2A15 南極産非平衡オーディナリコンドライト中の難揮発性親鉄元素存在度:非南極隕石との比較(都立大理)○尾崎大真・海老原充・中原弘道

2A16 始源的エコンドライトの化学組成とその起源(神戸大理)○森川徳敏・中村 昇

第3日(10月2日)

A会場

一般講演[岩石・地殻]

(9:00~10:30) 座長 益田晴恵

3A01 島弧火山岩中に包有される灰長石巨晶のSr 同位体組成(埼玉大教育・筑波地球科学)○荒川洋

二・木股三善

3A02 西南日本弧下部地殻源グラニュライトのSm-Nd 鉱物年代(岡山地球研・山口大理)○大石祥之・永尾隆志・加々美寛雄

3A03 北フィジー海盆三重点玄武岩のSr, Nd 同位体比及びREE 特性(地調・東大理・ORSTOM)○野原昌人・広瀬 敬・J. P. Eissen

3A04 上麻生礫岩中の先カンブリア紀片麻岩礫のCe・Nd 同位体比及び希土類元素パターン(熊本大理・KIGAM・電通大・名大理)○清水 洋・李 承求・増田彰正・足立 守

3A05 混酸による岩石試料溶液化に伴う問題点とその解決法-残渣による軽希土類元素の分別-(熊大理)○山本 茂・横瀬久芳

3A06 幌満かんらん岩体中のフロゴパイトの $^{40}Ar$ - $^{39}Ar$ 年代とその成因との関連(東大地震研・金沢大理・東大理)○兼岡一郎・荒井章司・高橋奈津子

(10:30~12:00) 座長 清水 洋

3A07 信楽および鈴鹿周辺地域の花コウ岩質岩石・土壌の蛍光X線分析(京都府警科捜研)○平岡義博

3A08 グリーンタフ地域における天然ガスの希ガス同位体組成(東大理)○坂本 稔・中井俊一・脇田 宏

3A09 マリアナトラフ南部から得られた海底火山中の揮発性成分の挙動(大阪市大理・岡山地球研)○松本哲志・益田晴恵・日下部実

3A10 坑道内における地殻起因二酸化炭素及びラドンの連続測定(原研・気象庁地震観測所・弘前大理)○天野 光・小林義威・檜皮久義・成戸建治・本間直樹・佐藤魂夫・見付啓義

3A11 ESR を用いたアラゴナイトにおける $\alpha$ 線欠陥生成効率測定(阪大理・関西学院大理・大阪工試)○河野日出夫・池谷元伺・山中千博・池田すみ子・堀野裕治

3A12 長石の照射効果のESR による研究(阪大理)○笹岡秀紀・山中千博・池谷元伺

(13:00~14:15) 座長 和田秀樹

3A13 化学的2層構造を持つ単結晶の合成と拡散定数の測定: $Ni\ 01./Co\ 01.-Fe$ 系(学習院大理・東大RIセ)○長沢 宏・林 孝・森岡正名

3A14  $LnF_3$ における構造変化と格子エネルギー(名大理)○川辺岩夫

3A15 石英中の酸素空格子の生成過程:ウラン鉱床産石英中の酸素空格子について(阪大理・筑波地球科学・動燃)○豊田 新・小室光世・池谷元伺・佐藤和彦

3A16 キュービックダイヤモンド中の包有ガスの組成及びその炭素同位体比(東京農工大工・電通大自然)

○赤木 右・増田彰正

3A17 水晶中の微量元素の分布(武蔵工大・原研)○長沢裕二・鈴木章悟・岡田往子・平井昭司

(14:15~15:30) 座長 赤木 右

3A18 湖成層産ジプサム結晶のESR被曝線量の2次元分布画像(阪大理)○小村哲司・池田すみ子・池谷元伺

3A19 反射電子像を用いた拡散定数の測定(学習院大理・筑波大地球科学)○長沢 宏・秋本尚義

3A20 メリライト(ゲーレナイト)中の陽イオン拡散(東大RIセ・学習院大理)○森岡正名・鎌田有紀子・長沢 宏

3A21 天然グラファイトのラマンスペクトルに見られる異常なふるまい(筑波大物質工学・理研・静岡大理)○鍵 裕之・土田 錠・若槻雅男・高橋和也・上村奈央・和田秀樹

3A22 ブラジル産カーボナタイトの起源とデューバル異常について(東大理・大阪市大理・姫路工大理・岡山大地球研)○豊田和弘・堀内弘之・小澤 徹・床次正安・湊 秀雄・相川信之・芳賀信彦・J. Nakashima・中村栄三

第1日(9月30日)

B会場

課題講演[メタンの地球化学と地球環境]

(9:00~10:40) 座長 坂田 将

1B01 岩石圈のメタンの挙動と起源について(名大理)○清棲保弘

1B02 鉱物、岩石中の流体包有物の $\text{CH}_4$ 、 $\text{CO}_2$ (1)ー金属鉱床鉱物:主に菱刈金鉱山の例ー(名大理)○飯田 洋・杉崎隆一

1B03 鉱物、岩石中の流体包有物の $\text{CH}_4$ 、 $\text{CO}_2$ (2)ーチャートの堆積環境ー(名大理)○三村耕一・杉崎隆一

1B04 海底からのメタンの放出と湧昇の起源ー相模湾初島南東沖冷水湧の場合ー(東大理・東大海洋研・名大大気水圏研・東水大)○角皆 潤・石橋純一郎・脇田 宏・蒲生俊敬・中塚 武・中村岳史

1B05 サンゴ礁の海底熱水活動に由来するメタンの地球化学(琉球大理・名大理・東大理・山形大理)○大森 保・棚原 朗・平良初男・清棲保弘・石橋純一郎・酒田 均

(10:40~12:00) 座長 野尻幸宏

1B06 永久凍土の地下水に含まれる気泡中の $\text{CH}_4$ 濃度変化(北大低温研)○福田正己

1B07 泥炭地におけるメタンの安定同位体比と生成放出機構(京大生態学研セ)○杉本敦子

1B08 湿原におけるメタン生成プロセス1 気体分析から示される窒素同定との関連性について(農環研・名大大気水圏研)○揚 宋興・戸田任重・竹内誠・寺井久慈・坂本 充

1B09 森林土壌による大気中メタンの吸収(阪大理)○筈谷泰行・依田恭二

(13:00~14:40) 座長 杉本敦子

1B10 湖沼からのメタン発生の季節変化と支配因子(名大大気水圏研)○滝田まさ子・坂本 充

1B11 湖沼のメタン濃度とその決定要因(国立環境研・東水大)○野尻幸宏・中村岳史・大槻 晃

1B12 水田からのメタン発生:その変動要因とグローバルな発生量推定の問題点(農環研)○八木一行・鶴田治雄・陽 捷行

1B13 水田からの $\text{CH}_4$ フラックスの季節変化と土壌水中の $\text{CH}_4$ 濃度、水稲バイオマス、気温との関係およびそれらのモデル化(農環研)○野内 勇

1B14 水田土壌における嫌氣的メタン酸化とその機構(名大農)○村瀬 潤・木村真人

(14:40~16:20) 座長 吉田尚弘

1B15 GC/C/MSによるメタンの同位体分析とその応用(国立環境研・大阪府大工)○曾 毅強・野尻幸宏・向井人史・坂東 博

1B16 湿原におけるメタン生成プロセス2  $\text{CH}_4$ 、 $\text{CO}_2$ 炭素安定同位体比による解析(農環研・名大大気水圏研・国立環境研)○揚 宋興・寺井久慈・坂本 充・曾 毅強・野尻幸宏

1B17 湖沼底泥のメタンの炭素安定同位体比(東水大・国立環境研)○中村岳史・野尻幸宏・曾 毅強・大槻 晃

1B18 大気中メタンの炭素安定同位体比測定(Ⅱ)(名大工・南地球科学研究所)○森泉 純・永峰康一郎・飯田孝夫・池田幸正・中井信之

1B19 大気中メタンの発生源と吸収源ーわが国の発生量の推定ー(農環研)○陽 捷行

(16:20~17:00) 座長 野尻幸宏

統合討論「メタンの発生源研究の動向と諸問題」

第2日(10月1日)

B会場

課題講演[メタンの地球化学と地球環境]

(9:00~10:20) 座長 松枝秀和

2B01 メタンの水平分布にもとづく放出率の推定(東大理)○遠嶋康徳・脇田 宏

2B02 都市大気中微量温室効果ガスの連続モニタリング(第9報)ーメタンと非メタン炭化水素の動態ー(名大工)○藍川昌秀・芳川一宏・胡文志・原

口絃丞

2B03 一般環境大気測定局データ中のメタン濃度の解析ー東京湾周辺の解析ー(大阪府大工・国立公衆衛生院・国立環境研)○坂東 博・溝口次夫・野尻幸宏・温室効果ガス情報ネットワーク研究会

2B04 日本における大気中のメタン濃度の長期変動と季節変化(農環研)○鶴田治雄

(10:20~12:00) 座長 坂東 博

2B05 シベリア低地におけるメタン発生(国立環境研, CAO)○井上 元・内山政弘・泉 克幸・S. Maksyutov・N. Vinnichenko・A. Postonov

2B06 西部太平洋洋上大気中のメタンと二酸化炭素の緯度分布と季節変化(国際地球人間環境フォーラム・南グリーンブルー・国立環境研)○野尻知子・竹内義治・田野中武志・野尻幸宏・井上 元

2B07 太平洋上における大気中メタン濃度について(気象研)○松枝秀和・井上久幸

2B08 太平洋上における大気中メタン濃度の分布と挙動(東北大大理・東北大大気環境セ)中澤高浩・菅原 敏・田中正之

(11:40~12:15) 座長 坂東 博・松枝秀和

統合討論「大気メタンの観測研究の動向と諸問題」

第3日(10月2日)

B会場

一般講演[温泉]

(9:00~10:00) 座長 杉崎隆一

3B01 群馬県中央部の温泉(中央温泉研)○佐藤幸二

3B02 鹿児島県の温泉水中のヒ素とアンチモン含有量(鹿児島大理)坂元隼雄・○鎮守雅一・富安卓滋・米原範伸

3B03 指宿市およびその周辺の温泉水の化学組成(鹿児島大理)○坂元隼雄・松本敦子・富安卓滋・米原範伸

3B04 指宿温泉水中のホウ素同位体組成(上智大理工・玉川大農)○池田久太郎・大井隆夫・小坂丈予・小坂知子・中野摩紀子・向田政男

(10:00~11:00) 座長 中井俊一

3B05 Stable isotopes, water and gas chemistry of soda springs along the Cameroon Volcanic Line(岡山大地球研・国立環境研・秋田大鉱山)G. Tanyileke・日下部実・野尻幸宏・北 逸郎

3B06 岩石過剰の条件における火山岩と塩酸水溶液の相互作用(東工大理)○横田博之・吉田 稔

3B07 地下水貯留層としての断層系と地下水の地球潮汐

応答(名大理)○川辺岩夫

3B08 地震に伴う地下流体の挙動(1)ー深井戸湧水量の変化ー(名大工・名大理)○永峰康一郎・伊藤貴盛・杉崎隆一

(11:00~12:15) 座長 川辺岩夫

3B09 地震に伴う地下流体の挙動(2)ー温泉ガス湧出量とガス組成の変化ー(名大理・名大工)○伊藤貴盛・永峰康一郎・杉崎隆一

3B10 北海道濁川温泉の硫酸塩の同位体組成(日重化)○吉田 裕・佐藤敬二

3B11 中国騰冲火山性地熱地域の温泉ガスのヘリウム同位体組成(東大理)○徐 勝・中井俊一・脇田 宏

3B12 西表島群発地震と高那温泉の水質変動(琉球大理)○大森 保・棚原 朗・宮城保大・平良初男

3B13 地下水、非火山性温泉、火山性温泉のホウ素ー塩素による分類とその意味(神奈川温地研)○石坂信之

一般講演[火山]

(13:00~14:00) 座長 松葉谷治

3B14 低温噴気帯における火山ガスの測定(武蔵高日私教研・陸自少工校・桐朋女子高)○高江洲螢・原久雄・梶野 正

3B15 雲仙岳の高温火山ガス(東工大草津白根火山観測所)○大場 武・平林順一

3B16 メルトインクルージョンを用いた噴火前マグマの揮発性物質濃度測定(地調)○斎藤元治

3B17 那須火山の火山ガス中の水素の挙動について(名大理)○清棲保弘・岡元康紀

(14:00~15:00) 座長 大場 武

3B18 FTIRによる火山ガラス中の水の定量法の検討と富士山1707年および864年噴出物への応用(岡山大地球研・東工大理・広大総科)○北村俊博・日下部実・宮城磯治・佐藤博明

3B19 マグマ性 $\text{N}_2$ ガスと海洋性堆積物中の窒素同位体比(秋田大鉱山・三菱マテリアル中研・地調・福岡大理)○長谷川英尚・北 逸郎・滝沢英夫・上田 晃・川幡穂高・田口幸洋

3B20 日本列島のマグマ性Heの同位体比の分布と挙動(秋田大鉱山・福岡大理・岡山大地球研)○滝沢英夫・北 逸郎・長谷川英尚・後藤雅俊・田口幸洋・長尾敬介

3B21 寒風火山の酸素およびストロンチウム同位体比の研究(秋田大鉱山)○山崎 充・松葉谷治

第1日(9月30日)

C会場

一般[海洋]

(9:00~10:00) 座長 山崎秀夫

1C01 沿岸域における溶存物質の沈殿除掃作用—複合水酸化物担体による沈殿除掃—(近畿大理工)○梅内一芳・中口 譲・小池祐一・平木敬三

1C02 伊豆小笠原海溝底堆積物の化学的特徴と堆積速度(東大海洋研・日大文理)○野崎義行・太田洋一

1C03 北西太平洋海盆の海底境界層におけるSiのフラックス(北海道東海大工・東海大海洋)○南 秀樹・加藤義久

1C04 Sr同位体からみた西太平洋深海堆積物の供給源(名大・地調・(株)総環境セ)○浅原良浩・田中剛・上岡 晃・西村 昭・池原 研・井岡 昇・中塚 武

(10:00~11:00) 座長 中山英一郎

1C05 太平洋赤道地域における海水中の<sup>20</sup>Po及び<sup>210</sup>Pbの分布(東大海洋研)○張 勁・野崎義行

1C06 二酸化チタンの光触媒作用による天然水中含チッ素溶存有機物の分解(広大総科)○竹田一彦・藤原祺多夫

1C07 造礁サンゴ骨格の炭素・酸素同位体比の変動(名大大気水 圏研・AIMS)○阿部 理・松本英二・Peter Isdale

1C08 サンゴによるCO<sub>2</sub>の取り込みと有機無機炭素生産(琉球大理)○藤村弘行・大森 保・山本 薫・平良初男

(11:00~12:00) 座長 杉山雅人

1C09 西部北太平洋における溶存無機炭素のδ<sup>13</sup>C値の鉛直変化(北大水産・岡山地球研)渡辺修一・○奥田耕三・角皆静男・日下部実

1C10 中部熱帯太平洋における大気・海洋間のCO<sub>2</sub>フラックス(1990年9月~11月)(気象研)○石井雅男・井上久幸

1C11 ベンガル湾の有機物について(東大海洋研・東海大海洋)○石塚明男・広田 亮・豊田恵聖

1C12 東京湾口沈降粒子の有機物組成から見た有機物の湾外への輸送(創価大教育・都立大理)○山本修一・石渡良志

(13:00~14:00) 座長 増澤敏行

1C13 カロリン海盆における沈降粒子の挙動(地調・(株)総環境セ)○川幡穂高・山室真澄・西村 昭・太田秀和

1C14 赤道太平洋における生物起源無機粒子の沈降粒子束(北大水産・資環研)乗木新一郎・○嶋本晶文・角皆静男・原田 晃

1C15 沈降粒子窒素同位体比の空間分布からみた粒子状窒素の水平輸送(名大大気水圏研)○中塚 武・半田暢彦・今泉茂巳

1C16 日本海溝深層における金属元素の除去と再生(国立環境研・東大海洋研)○斎藤千鶴・野尻幸宏・児玉幸雄・野崎義行

(14:00~15:15) 座長 成田尚史

1C17 西太平洋における微量無機セレンの化学形態別濃度分布(慶応 大理)○スリ ジュアリ サントサ・和田 敏・佐藤憲行・田中 茂

1C18 西部南太平洋における表層水中の鉄(Ⅱ), 鉄(Ⅲ)の分布と挙動(京大化研・京大理・高知女子大・海洋化学研)○小畑 元・中山英一郎・一色健司・紀本岳志

1C19 西部南太平洋における大気、海水中的鉄、マンガンの分布と挙動(京大理・京大化研・高知女子大・海洋化学研)○中山英一郎・小畑 元・一色健司・紀本岳志

1C20 海水関連物質中の希土類元素の定量(上智大理工・武蔵工大原研)○萩原康司・小坂知子・大井隆夫・向田政男・本多照幸

1C21 Rare earth elements in the South Atlantic(名大大気水圏研・Univ. of Cambridge・MIT)○増澤敏行・C. R. German・H. Elderfield・M. J. Greavs・J. M. Edmond

一般講演[熱水]

(15:15~16:15) 座長 蒲生俊敬

1C22 (Au, Ag)-H<sub>2</sub>SO<sub>4</sub>水溶液系での水熱反応(東京学芸大教育・慶応大理)○大沢正人・中田正隆・鹿園直建・本間久英

1C23 Ni-NaHS水溶液系での水熱反応(東京学芸大教育・慶応大理)○中田正隆・中川 洋・鹿園直建・本間久英・堀口隆士・大沢正人

1C24 なぜ高塩濃度と低塩濃度の熱水系が存在するのか(地調)○高橋正明

1C25 フィリピンのパコン—マント地熱地帯の地球化学的特徴(大阪市大理・Inst. Geol. Nuclear Sci.・PNOC-EDC・岡山地球研)○益田晴恵・G. Reyes・R. P. Solis・中村正和・日下部実

(16:15~17:15) 座長 高橋正明

1C26 流紋岩類の熱水変質過程における希土類元素などの挙動(神戸大発達・海技大・京大原子炉)○寺門靖高・藤谷達也・高田実弥

1C27 水曜海山海底熱水系の主要化学成分組成(東大理・国立環境研・海上保安庁水路部)○石橋純一郎・角皆 潤・脇田 宏・野尻幸宏・渡辺一樹・梶村 徹

1C28 潜水艇「しんかい2000」で採集された沖縄トラフ海底熱水鉱床の地球化学的研究(琉球大理)○小泉宝之・大森 保・棚原 朗・平良初男

1C29 沖縄トラフその他の海底熱水活動—溶存気体成分と炭素同位体比—(山形大理・九大理・東大理・東大海洋研)○金山晋司・酒井 均・中島和夫・千葉 仁・石橋純一郎・角皆 潤・脇田 宏・蒲生俊敬

第2日(10月1日)

C会場

課題3[沿岸域における微量成分の生物地球化学]

司会 中山英一郎・鈴木 款

(9:00~10:20) 座長 一色健司

2C01 天然水中の有機形金属化合物の存在状態とその起源に関する研究(近畿大理工)○小池祐一・中口 譲・北村 将・杉原 宏・平木敬三

2C02 プラクトン中の有機形金属化合物の分子種分画、定量及びその挙動について(近畿大理工)○北村将・小池祐一・中口 譲・木村宗人・平木敬三

2C03 田辺湾における赤潮発生原因としての隆起源物質の影響(近畿大理工)○中口 譲・小池祐一・斎藤仁宏・平木敬三

2C04 天然水中の微量元素の分子量分画分布に関する研究(名大 工)○伊藤彰英・岩瀬雄一・猿渡英之・原口紘丞

(10:20~12:00) 座長 原口紘丞

2C05 沿岸域における植物プランクトンの増殖にともなうクロム溶存形の変化(高知女子家政・京大理)○一色健司・大西裕美子・木村裕美・紅露瑞代・田中庸子・中山英一郎

2C06 閉鎖性海域(瀬戸内海・ペルシャ湾)における海水中的ヒ素化合物の濃度分布(慶応大理・国立環境研)○田中 茂・スリ ジュアリ サントサ・和田 敏・佐藤憲行・原島 省

2C07 沿岸域海水中におけるセレンとテルルの挙動の違い(静大理)○鈴木 款

2C08 沿岸海域における溶存態発光性有機物質の起源(近畿大理工・近畿大環境研・(株)総環境セ)○福井俊生・竹安章江・平山 宏・中口 譲・小池祐一・平木敬三・坪田博行

[総合討論]

第3日(10月2日)

C会場

一般講演[鉱床]

(9:00~9:45) 座長 高橋和也

3C01 雄阿寒「湯の滝」における酸化マンガン堆積物と

微生物(地調・工技院生命研・北工大)○三田直樹・丸山明彦・臼井 朗・中嶋 健・金井 豊・東原孝規・針谷 宥

3C02 マグマから放出される熱水の組成進化: 気液二相分離の影響(地調)○篠原宏志

3C03 海底熱水性鉱床生成のダイナミクス(慶応大理工)○鹿園直健

(9:45~10:30) 座長 丸山明彦

3C04 ホウ素鉱物の生成に伴うホウ素同位体分別(上智大理工)服部章子・大井隆夫・小坂知子・向田政男・○垣花秀武

3C05 オクロ鉱床におけるZr同位体組成の変動からみた<sup>86</sup>Srの地球化学的挙動(都立大理・フランス原子力庁カダラッシュ研)○杉山 武・日高 洋・海老原充・中原弘道・P. Holliger

3C06 モリブデナイトのRe-Os年代: 変成による年代変化(東大教養・筑波大物工・電通大自然)○鈴木勝彦・鍵 裕之・増田彰正

一般講演[有機物]

(10:30~11:15) 座長 寺島美南子

3C07 空気中の軽質炭化水素の測定(地調)○猪狩俊一郎・伊藤司郎・坂田 将

3C08 石油クラッキングの室内実験(石油資源開発・石油公団)○武田信従・南館 有・鈴木 優・町原 勉

3C09 レーザー励起水和電子測定による天然水中溶存有機物解析の試み(広大総科)○熊本雄一郎・王 俊・藤原祺多夫

(11:15~12:00) 座長 藤原祺多夫

3C10 フミン酸の錯生成能の評価へのマルチトレーサー法の応用(東大理・理研)○薬袋佳孝・高橋嘉夫・石橋美絵・太田知子・安部静子・小林義男・大久保嘉高・岩本正子・矢野倉実・前田はるか・竹松 伸・安部文敏・富永 健

3C11 油砂岩中のニッケル及びバナジウムポリフィリン錯体の分離同定(近畿大理工)○河合範夫・山内幹人・倉谷 聡・西川泰治

3C12 堆積物中のクロロフィル類の初期続成作用(地調)○寺島美南子・井内美郎

(13:00~13:45) 座長 町原 勉

3C13 GC/炭素同位体分析法による脂肪酸の分析と堆積物への応用(都立大理)○奈良岡浩・山田桂太・石渡良志

3C14 溶存有機物に吸着した疎水性有機化合物とその河口域での挙動(農工大農)○高田秀重

3C15 西赤道太平洋域の深海堆積物コア中の有機物の深



度分布 (予報) (都立大理) ○石丸 圭・奈良岡  
浩・石渡良志

(13:45~14:45) 座長 高田秀重

3C16 日本海堆積物中の CuO 分解生成物 (ヒドロキシ  
酸) (都立大理) ○矢田 隆・奈良岡浩・平川善  
行・石渡良志

3C17 東京湾表層堆積物中のタンパク様物質中のアミノ  
酸について (筑波大化・都立大理) ○平野聡同・  
下山 晃・石渡良志

3C18 東京湾表層堆積物中のヌクレオンドについて (筑  
波大化・都立大理) ○奥田早希子・下山 晃・石  
渡良志

3C19 新庄盆地新第三系堆積岩中のメチルナフタレンの  
異性体について (筑波大化) ○萩原正義・下山 晃

第1日 (9月30日)

D 会場

一般講演 [土壌その他]

(9:00~10:00) 座長 増田彰正

1D01 水溶液中の無定形アルミノケイ酸塩と亜鉛イオン  
との間の表面錯形成反応 (東大教養・弘前大理)  
○宮崎あかね・松尾基之・鶴見 実

1D02 三宅島土壌の酸中和能と化学組成 (東大教養) 大  
島直子・○松尾基之・綿拔邦彦

1D03 ICP-MS を用いた農耕地および森林土壌中の微  
量元素の分析 (放医研) ○吉田 聡・松村康行・  
田上恵子・内田滋夫

1D04 塩類水溶液における水和圏内外の水の水素同位体  
分別 (学習院大理) ○垣内正久・鈴木利夫

(10:00~11:00) 座長 松尾基之

1D05 水-岩石反応により形成されたアルノーゲン:  
Al<sub>2</sub>(SO<sub>4</sub>)<sub>3</sub>・17H<sub>2</sub>O の産状及び生成過程 (東京学  
芸大学教育・慶応大理工) ○堀口隆士・中田正隆・  
鹿園直建・本間久英

1D06 新潟県内における自然放射線分布状況調査 (新潟県衛公  
研) ○米田和広・殿内重政・葉葦久尚・鈴木 斉

1D07 Zr-96 の二重ベータ壊変の半減期の測定 (電通大・  
東大理・理研) ○増田彰正・川島敦道・高橋和也

1D08 本邦白亜紀花崗岩類のカリ長石の <sup>40</sup>Ar/<sup>39</sup>Ar 年  
代 (名大理・東大地震研・地調) ○柴田 賢・兼  
岡一郎・内海 茂

一般講演 [大気・降水]

(11:00~12:00) 座長 植松光夫

1D09 Atmospheric aromatic hydrocarbons measured  
at Norikura Mountain site (名大大気水圏研)  
○A. Thapa・大田啓一

1D10 重力場の中の気体の熱平衡状態について (学習院  
大理) ○木越邦彦

1D11 九州山岳地帯の樹木中微量成分 (福岡保健研・産  
業医大) ○永淵 修・須田隆一・原 京子

1D12 降水化学パラメーターのわが国における空間分布  
パターン (国立公衆衛生院・東大先端研) ○原  
宏・秋元 肇

(13:00~14:15) 座長 太田啓一

1D13 北海道日本海沿岸域における降水及び沢水中の主  
要イオン (北海道東海大工) 植松光夫・○駒井信  
晴・村田洋哉

1D14 分別採水した雨水中の成分と pH の関係 (東邦大  
理・日本工業用水協会) ○大森禎子・吉池雄蔵・  
岡村 忍・岩崎岩次

1D15 降雨中の酸起因物質 (1992, 横浜) (横浜国大教  
育) ○村山治太

1D16 天然放射性核種を用いた降水除去機構の解明 (北  
海道東海大工) ○植松光夫

1D17 ラドン娘核種を利用した降水中硫酸化物の発生  
源の推定 (名大工・島根県衛公研) ○前田憲一郎・  
永峰康一郎・吉岡勝広・飯田孝夫・池辺幸正

(14:15~15:30) 座長 河村公隆

1D18 都市域における大気降下物中の炭化水素類 (桐蔭  
横浜大工) ○森永茂生・小林隆男・紅野美保

1D19 大気中イソブレンおよびその反応生成物の連続  
CG/MS 測定 (国立環境研) ○横内陽子

1D20 西部太平洋低緯度地域への大気汚染物質の輸送と  
その海洋大気へ及ぼす影響 (慶応大理工) ○石  
川 恒・村松宏信・田中 茂

1D21 我が国における対流圏オゾンー過去と現在ー (東  
大先端研) ○秋元 肇

1D22 対流圏オゾンの動態 (国立公衆衛生院・国立環境  
研) ○溝口次夫・須賀伸介

(15:30~16:45) 座長 井上久幸

1D23 臭化メチルによる土壌くん蒸とオゾン層破壊 (農  
環研・Univ. of California, Irvine) ○八木一  
行・Jody Williams・王 嫩玉・Ralph. J.  
Cicerone

1D24 海洋エアロゾルおよび降水中の低分子ジカルボン  
酸類の分布 (都立大理) ○河村公隆・Richard  
Sempere

1D25 北極圏アラートにおけるエアロゾル試料中の低  
分子ジカルボン酸類の季節変化 (都立大理・  
Environ. Canada) ○春日部英輝・河村公隆・  
L. A. Barrie

1D26 外洋域における大気エアロゾル中の脂肪酸類の分  
布と特徴 (都立大理) ○田中毅一郎・河村公隆

1D27 大気 CO<sub>2</sub> の濃度異常と熱帯雨林生産の変動 (名  
大大気水圏研) ○加藤喜久男

(16:45~17:45) 座長 田中 茂

1D28 つくばにおける大気中の CO<sub>2</sub> 濃度について (気  
象研) ○井上久幸・松枝秀和

1D29 中国における都市浮遊塵の T1 存在度と起源 (室  
蘭工大) 尹 松・○白幡浩志

1D30 中国における都市浮遊塵の鉛同位体比 (室蘭工大・  
北京大) ○白幡浩志・尹 松・陳静生

1D31 大気中の微量金属化合物の存在状態に関する研究  
(近畿大理工・和泉市役所) ○鈴木康弘・中口  
譲・小池祐一・平木敬三・藤原一也

第2日 (10月1日)

D 会場

一般講演 [堆積物]

(9:00~10:00) 座長 加藤義久

2D01 深海底堆積物に含まれる長鎖不飽和ケトンからみ  
た水温変動 (名大大気水圏研) ○原田尚美・半田  
暢彦

2D02 西赤道太平洋でえられた深海底堆積物の脂質分析  
(その1-ケトン) (東大海洋研・都立大理) ○大  
河内直彦・河村公隆・石渡良志・平 朝彦

2D03 カロリン海盆における粒子沈積の変遷 (地調・東  
大海洋研・琉大) ○川幡穂高・阿波根直一・鈴  
木 淳・氏家 宏

2D04 沿岸堆積物中の脂質成分の分布について 6 厚岸  
湖, 厚岸湾 (長崎大教育・都立大理・創価大教育)  
○近藤 寛・石渡良志・山本修一

(10:00~11:00) 座長 半田暢彦

2D05 沖縄トラフ海底熱水域で採集された柱状堆積物の  
地球化学的研究 (琉球大理) ○申 元範・大森  
保・棚原 朗・平良初男

2D06 干潟の環境と有機化合物の存在状態 (九大理) 村  
江達士・○山中寿朗・相原安津夫

2D07 中海完新世堆積物の有機炭素濃度の鉛直変化とそ  
の要因 (島根大理・名大大気水圏研) ○三瓶良和・  
松本英二・徳岡隆夫

2D08 湖沼堆積有機物の環境指標性Ⅲ 水月湖柱状試料  
における脂質成分と安定炭素同位体比の特徴 (都  
立大理) ○上村 仁・山田桂太・奈良岡浩・石渡  
良志

(11:00~12:00) 座長 松本英二

2D09 GC/炭素同位体分析法の地球化学への応用Ⅲ  
湖沼堆積物中の n-アルカン (都立大理) ○山田  
桂太・上村 仁・奈良岡浩・石渡良志

2D10 バイカル湖沼堆積物中の有機物: コア解析結果と  
解釈 (都立大理・創価大教育) ○石渡良志・鶴崎  
実・山田桂太・上村 仁・山本修一・奈良岡浩

2D11 バイカル湖における有機成分の地球化学的特徴  
(大妻女大社会情報・Limnol. Inst. Russia)  
○松本源喜・E. B. Karabanov

2D12 猪苗代湖における物質の堆積過程 (原研・東海大

海洋) ○長尾誠也・神山秀雄・加藤義久

(13:00~14:00) 座長 平良初男

2D13 塩湖析出鉱物 (Evaporites) の ESR 年代測定  
の基礎研究 (阪大理) 高木俊二・古田 寛・岡  
俊英・○池谷元伺

2D14 レジナイトの統成変成と化学構造の変化 (九大理)  
村江達士・○下川修司・相原安津夫

2D15 芦別地域の古第三系堆積物中の硫黄・炭素含有量  
(地調・地調北) ○粕 武・横田節哉

2D16 脂肪族炭化水素組成からみた四万十帯層状チャー  
トの堆積環境 (神戸大理・名大理) ○岡田 崇・  
山本鋼志・三村耕一

(14:00~14:45) 座長 相原安津夫

2D17 静岡県相良地区炭酸塩岩中の微量重金属元素 (地  
調) ○岡井貴司

2D18 琉球列島産鍾乳石の成長速度についてーその2  
(琉球大理) ○安里博子・棚原 朗・平良初男・  
大森 保

2D19 先カンブリア紀の堆積岩中における希土類元  
素 (都立大理・国立環境研・静大理・東工大理)  
○内野智功・日高 洋・海老原充・古田直紀・増  
田俊明・丸山茂徳

第3日 (10月2日)

D 会場

一般講演 [陸水]

(9:00~10:00) 座長 今橋正征

3D01 河川水における人工有機化合物の分布 (名大大気  
水圏研) ○彭 彪・半田暢彦・浜 健夫

3D02 久慈川流域における <sup>210</sup>Pb 及び <sup>7</sup>Be の流出挙動  
(原研) ○松永 武・天野 光・上野 隆・柳瀬  
信之・小林義威

3D03 都市河川の浄化に関する研究 (琉球大理) ○渡久  
山章・平良綾子

3D04 熱帯都市域と舞鶴湾周辺における社会地球化学的  
研究 (舞鶴高専自然科学) ○宮崎明仁

(10:00~11:00) 座長 吉村和久

3D05 千葉県印旛沼周辺の湧水の臭化物イオン含量およ  
び Br/Cl 比 (東邦大理・千葉敬愛短大) ○今橋  
正征・高松信樹・堀田和弘

3D06 北多摩小集水域におけるフッ化物イオン (農工大  
農) ○高 春心・小倉紀雄

3D07 富士山麓湧水の微量元素分析 (北里大衛生) 岩下  
正人・○島村 匡

3D08 土壌水の酸素・水素同位体比について (秋田大鉱  
山) ○川原谷浩・松葉谷治

(11:00~12:00) 座長 渡久山章

3D09 安定同位体を用いた斜面の地下水の研究 (秋田大  
鉱山) ○松田英裕・川原谷浩・松葉谷治

3D10 天山山脈・タクラマカン砂漠天然水の安定同位体  
組成について (南地球科学研究所) ○長谷川一宏・  
浅井和見・加藤勇治・中井信之

3D11 秋芳洞カルスト地下水中のトリチウム濃度の洪水

- 時応答 (九大教養・九大理・大分高専・九大農)  
○吉村和久・百島則幸・加治俊夫・井倉洋二
- 3D12 富士川流域における雨水・河川水の水素・酸素同位体比 (青学大理工・岡山大地球研) ○原川裕章・矢板 毅・斎藤裕子・木村 幹・日下部実
- (13: 00~14: 15) 座長 吉岡龍馬
- 3D13 トリチウム-ヘリウム-3法による地下水の年代測定 (広大理・電中研・地下水研) ○高畑直人・佐野有司・馬原保典・安池慎治・鶴巻道二
- 3D14 二酸化マンガンで表面処理したイオン交換樹脂による Ra 同位体の濃縮法 (琉球大理) ○棚原 朗・武村盛久・平良初男・大森 保
- 3D15 琉球石灰岩地域地下水中のラドン濃度についてその 2 (琉球大理) ○武村盛久・棚原 朗・平良初男・大森 保
- 3D16 水圏における無機及びメチルヒ素 (Ⅲ, V) の挙動 (高知大理・京大化研・滋賀大教) ○長谷川浩・宗林由樹・松井正和・川嶋宗継・北條正司
- 3D17 キレート樹脂カラムを用いた湖水、海水のパナジウム (Ⅳ, V) の自動分離分析法の開発 (京大理・京大化研・京大総合) ○岡村 慶・小畑 元・中山英一郎・杉山雅人
- (14: 15~15: 15) 座長 大森 保
- 3D18 本邦の中緯度に酸性化した湖沼の地球化学 (中間まとめ) (信州大理・都立大理) ○福島和夫・石川理恵・上村 仁・小椋和子・林 秀剛
- 3D19 釧路湿原からの還元性ガスの発散 (名大大気水圏研) ○大田啓一・寺井久慈・坂本 充
- 3D20 山体トンネル湧水の水質からみた雨水の浸透過程 (京大防災研・大同工大工) ○吉岡龍馬・下島栄一
- 3D21 黒部川扇状地の地下水の流動解析 (大妻女大社会情報・山梨医大 RI・大阪教育大自然) ○堀内公子・石井 忠・小林正雄

#### P 会場

##### ポスターセッション

(13: 00~15: 00)

- 2P01 東北地方の降雨・降雪に含まれる硫酸のイオウ同位体比の季節変化 (山形大理・三菱マテリアル中研・新庄農高・酒田商高・大船渡高・東豊高) 柳沢文学・○大日方裕・伊藤 博・上田 晃・菅原吉利・菅沢宏昭・千葉弘一・山田なつみ
- 2P02 中国タクラマカン砂漠における砂質試料の化学組成 (第3報) (地調・山口大・中国科学院新疆生物土壤沙漠研) ○金井 豊・寺島 滋・石井武政・磯部一洋・水野清秀・宮田雄一郎・銭亦兵
- 2P03 琵琶湖におけるバリウムの動態・富栄養化との関連 (京大総合人間) ○杉山雅人・堀 智孝
- 2P04 澄川地熱坑井 S-2 コアの同位体地球化学的研究 (三菱マテリアル中研・岡山大) ○上田 晃・西

垣文貴・山本雅弘・窪田康宏

- 2P05 能登半島周辺海域における海底堆積物中の各種微量元素の広域分布特性 (地調) ○今井 登・寺島 滋・片山 肇・中島 健・池原 研
- 2P06 ICP-MS を用いた雨水中の微量元素の定量 (放医研) ○松村康行・吉田 聡
- 2P07 西表群発地震に関連した竹富海底温泉および付随ガス中の  $^{227}\text{Rn}$ ,  $^{210}\text{Pb}$  および  $^{210}\text{Po}$  濃度 (琉球大理) ○棚原 朗・大森 保・平良初男・熊本 明
- 2P08 新生代海成炭酸塩中のストロンチウム同位体比 (地調・名大理) ○上岡 晃・柴田 賢
- 2P09 レーザー・アブレーション ICP-MS 法による地球化学的試料の研究 (琉球大理) ○平良初男・大森 保・棚原 朗・宮山博弥
- 2P10 微量元素からみた花崗岩地帯湧水の起源 (1) (東邦大医・東邦大理・日本分析) ○加藤尚之・高松信樹・荒木 匡・今橋正征・相川嘉正
- 2P11 黄砂・黄土に含まれる硫酸のイオウ同位体比 (山形大理・三菱マテリアル中研) ○柳沢文学・上田 晃・鈴木利孝
- 2P12 東北地方の降雨・降雪の化学的特徴 (山形大理・新庄農高・酒田商高・大船渡高) 柳沢文学・大日方裕・○伊藤 博・菅原吉利・菅沢宏昭・千葉弘一
- 2P13 ウラン鉱床基底風化花崗岩におけるウラン系列核種の挙動 (地調・動燃中部) ○金井 豊・奥山康子・坂巻幸雄・瀬尾俊弘
- 2P14 微気候領域の表面土壌層水収支 (放医研) ○宮本露子・小林葉子
- 2P15 沖縄トラフ熱水性シロウリガイ殻の炭素・酸素同位体比 (山形大理・東大) ○河合真理也・酒井均・太田 秀
- 2P16 酸性土流入が海洋環境に及ぼす影響 (琉球大理) ○松尾英和・渡久山章
- 2P17 マリ・セミアチク火山 (カムチャッカ) 火口湖の活動 (東大教養・東邦大医・カムチャッカ火山研究所) ○高野穆一郎・松尾基之・鈴木勝彦・杉森賢司・加藤尚之・S. M. Fazlullin・A. B. Csipenko
- 2P18 ICP-MS による地熱熱水中の金の定量 (九大教養・九大工) ○横山拓史・林 秀・井沢英二
- 2P19 流域岩石の化学組成からみた多摩川堆積物の重金属濃縮度 (東水大) 前田 勝・○高橋昌史・鎌谷明善
- 2P20 つくばにおける降水・降下塵の主要イオン成分について (気象研) ○五十嵐康人・羽鳥真紀子・広瀬勝己
- 2P21 サンゴ礁における二酸化炭素の挙動と収支に関する研究 (琉球大理) ○大森 保・藤村弘行・上江州朝秀・平良初男
- 2P22 東シナ海堆積物の化学成分と堆積環境 (近畿大理工) ○山崎秀夫・合田四郎

#### 日本地球化学会

##### 1992年度第3回評議員会議事録

日 時: 1992年9月30日 16: 00-19: 00

場 所: 東京農工大学福利厚生センター2階第2会議室

出席者: 脇田 宏会長, 半田暢彦副会長, 一國雅巳監事, 安部喜也, 石渡良志, 海老原 充, 大隅多加志, 北 逸郎, 日下部 実, 佐野有司, 清水 洋, 下山 晃, 杉崎隆一, 鈴木徳行, 高岡宣雄, 立川 涼, 富樫茂子, 中井俊一, 長尾敬介, 野尻幸宏, 乗木新一郎, 平木敬三, 綿抜邦彦 (以上評議員)

1. 近畿大学平木敬三会員を会長委嘱の評議員とすることが承認された。

2. 前回議事録を了承した。

3. 報告事項

3-1 庶務 (清水評議員)

学会賞等受賞者選考委員会の選考結果に対する承認の投票結果が報告された。文部省出版助成補助金140万円の交付が決定された。X線マイクロアナライザー講習会, 1993年日中砂漠化機構解明研究シンポジウムの共催協賛を承認した。女性科学者に明るい未来をの会, 日本科学協会から研究助成の募集があった。「猿橋賞」, 「秩父宮記念学術賞」の推薦依頼があった。研究集会開催助成の募集があった。献本が一冊あった。学術会議第2常置委員会「女性研究者の実態調査」に解答した。第4回IAHS-第6回IAMAP 連合科学会会議の準備・運営に関する合意書に署名した。科研費審査員候補者の投票結果上位20名が報告された。

3-2 幹事会 (清水評議員)

9月26日16時より東京大学理学部において開催。出席者は脇田会長, 半田副会長, 海老原, 清水, 中井, 野尻各幹事, 松久 GJ 編集長で第3回評議員会の議題内容について整理した。

3-3 編集

(1) Geochemical Journal (松久評議員からのメモ) Vol. 26, No. 1 は出版済み。No. 2, No. 3 は印刷中。G. J. の出版体制の問題点について報告があり, 出版社への委託も含め検討することとする。

(2) 地球化学 (田中編集長からのメモ)

Vol. 26, No. 1 は配布済み。No. 2 は編集中。

3-4 ニュース (野尻評議員)

No. 130 は配布済み。No. 131 は11月発行予定。

3-5 行事

(1) 1992年度東京年会 (安部評議員)

講演件数は250件。年会初日に開催される夜間集会について脇田会長から説明, 意見交換があった。

(2) 1993年度春季シンポジウム (海老原評議員)

1993年度春季シンポジウムは, 3月19日-22日に東京都立大学で開催される地球惑星科学関連学会1993年合同大会に参加する形で行われる。予稿集の合本化について意見の交換があり, 決定された場合, 地球化学会も協力することとした。

(3) 1993年度大阪年会 (平木評議員)

1993年9月30日-10月2日まで近畿大学理工学部で開催予定。

3-6 名誉会員推薦委員会 (半田副会長)

委員会を2回開き, 今年度は名誉会員の推薦を見送ることとした。

3-7 学術会議

(1) 地球化学・宇宙化学研連 (石渡評議員)

7月13日に委員会が開かれ, 科研費審査員候補者を決定した。将来計画をどう進めるかについて意見の交換があった。

(2) 陸水研連 (安部評議員)

9月26日に委員会が開かれ, IAHS に関する合意書が取り交わされた。

(3) 海洋研連 (半田副会長)

委員会が開かれ, GOOS への対応について意見の交換があった。

3-8 その他

学会賞等受賞者選考委員会綿抜委員長より学会賞受賞者の報告があった。本会の学会賞等の性格づけについての意見の交換があった。

4. 審議事項

4-1 入退会の承認

1992年5月1日から7月31日までの入会退会は以下の通り承認された。

入会 (12名-すべて正会員): 上野 隆, 小池裕子, 杉本敦子, 濱 克宏, 塚原弘昭, 根山敦史, 楊 宗興, (以下学生) 南 雅代, 滝沢英夫, 長谷川英尚, 高畑直人, 鈴木昌弘

退会 (6名): (正会員) 松尾禎士 (逝去), 島口たけみ, 福島美智子, (以下学生) 安藤隆丸, (賛助会員) 鶴見精機

また, その他の異動は, 以下の通りである。

学生→一般 (4名): 新田恒造, 小野寺毅, 中塚武, 石井暁

海外→国内 (1名): 新垣武

この結果, 会員数は以下になった。

|            | 正会員 | 賛助会員 | 名誉会員 | 計   |
|------------|-----|------|------|-----|
| 1992年4月30日 | 934 | 18   | 6    | 958 |
| 入 会        | 12  | 0    | 0    | 12  |
| 退 会        | -4  | -1   | 0    | -5  |
| 1992年7月31日 | 942 | 17   | 6    | 965 |

学生 72名, 在外 30名を含む

4-2 1993年度学会賞等受賞者選考委員会の委員選出  
5名連記の投票の結果, 高岡宣雄, 半田暢彦, 一國雅巳, 酒井 均, 石渡良志の各氏が選出され高岡氏が委員長に指名された。次点は日下部 実氏だった。

#### 4-3 幹事の追加

会員問題担当の幹事をもうけることが承認された。

#### 4-4 1992年度総会議事次第, および総会に提出される案件

幹事会が提出した総会議事次第が承認された。総会に提出される1991年度事業報告, 1992年度事業中間報告, 1993年度事業計画, 1991年度会計報告(第2回評議員会にて承認済み), 1992年度会計中間報告, 1993年度予算案が審議され, 原案通り承認された。

編集の手違いで先号のニュースに掲載すべき議事録が一号遅れてしまいました。会員各位に深くお詫びいたします。

## 日本地球化学会

### 1993年度第1回評議員会議事録

日 時: 1993年2月13日 16:00-19:00

場 所: 東京大学山上会館

出席者: 脇田宏会長, 半田暢彦副会長, 一國雅巳監事, 安部喜也, 石渡良志, 海老原允, 北逸郎, 日下部実, 清水 洋, 鈴木徳行, 高岡宣雄, 富樫茂子, 中井俊一, 野尻幸宏, 平木敬三, 藤原祺多夫, 松田准一, 松久幸敬(以上評議員)

1. 前回議事録を了承した。

#### 2. 報告事項

##### 2-1 庶務(清水評議員)

1994年度文部省出版助成補助金の計画調書を提出した。

学術会議「学術団体支援策検討のための学術団体調査票」に回答した。質量分析学会「質量分析連合討論会」, 日本アイソトープ協会「第30回理工学における同位元素研究発表会」, 日本化学会「1995年環太平洋国際化学会議」, 電力中央研究所「第2回 CO<sub>2</sub>と海洋とのかかわりに関するワークショップ」の共催協賛を承認した。研究

会プログラム8件が回覧された。東大海洋研から研究公募があった。ビデオ映像文化振興財団, 朝日国際奨励金から研究助成の募集があった。研究集会開催助成の募集があった。

#### 2-2 幹事会(清水評議員)

2月6日16時より東京大学理学部において開催。出席者は脇田会長, 半田副会長, 海老原, 清水, 中井, 野尻各幹事, 松久 GJ 編集長で第1回評議員会の議題内容について整理した。

#### 2-3 編集

##### (1) Geochemical Journal(松久評議員)

Vol. 26, No. 1, No. 2, No. 3は出版済み。No. 4, No.5は印刷中。No. 6は編集終了。G. J. の出版編集体制の問題の解決方法について出版社への委託も含め検討しているが, その中間報告があった。

##### (2) 地球化学(田中編集長からのメモ)

Vol. 26, No. 1は配布済み。No. 2は印刷中。Vol. 27, No. 1は炭酸塩の特集号で編集集中。

#### 2-4 ニュース(野尻評議員)

No. 131は配布済み。No. 132は2月発行予定。

#### 2-5 行事

##### (1) 1992年度東京年会(安部評議員)

1992年10月1-3日東京農工大学で開催された。参加者は420名, 講演申込件数は250件だった。

##### (2) 1993年度春季シンポジウム(海老原評議員)

1993年度春季シンポジウムは, 東京都立大学で開催される地球惑星科学関連学会1993年合同大会に参加する形で3月19日に行われる。発表申込件数は22件。

1994年合同大会は1994年3月20日-23日に東北大学で開催の予定である。

##### (3) 1993年度大阪年会(平木評議員)

1993年9月30日-10月2日まで近畿大学理工学部で開催予定。

#### 2-6 委員会

##### (1) 将来計画委員会(半田副会長)

学術会議の地球化学・宇宙化学研究連絡委員会との連携のもとに将来計画の検討を進めると報告があった。将来計画検討のため科研費申請状況のアンケートをニュース No. 132にはさむ。

##### (2) 学会賞等受賞者選考委員会(高岡委員長)

1月末に今年度の学会賞の推薦を締め切った。

#### 2-7 学術会議

##### (1) 地球化学・宇宙化学研連(石渡評議員)

研究連絡会組織の見直しが検討されている。地球化学の振興について対外報告の作業にはいる。

##### (2) 陸水研連(安部評議員)

2月5日に委員会が開かれ, IAHS の準備状況の報告

があった。

#### (3) 海洋研連(半田副会長)

委員会が開かれ, GOOS への対応について意見の交換があった。

#### 3. 審議事項

##### 3-1 入退会の承認

1992年8月1日から12月31日までの入退会は以下の通り承認された。

入会(24名-すべて正会員): 北村守次, 大淵 聡, 油井三和, 立川和代, 松尾基之, 青木延浩, 秋元肇, 岩元和正, 白石寛明, 中林成人, 坂東 博, 横瀬久芳, 金原五月, 清田由美, 中井雄吉, 大堀基己, 原川裕章, 井関和夫, CHOI, Seon-Gyu(以下学生) 堀川信夫, 早川和秀, 田代 豊, 山本 茂, 伊勢 明広

退会(8名): (正会員) 石井次郎(逝去), 露木利貞(逝去), 藤貫正, 那須義和(逝去), 園田和彦(逝去), 竹内富二夫(逝去), SAMEISHIMA, Teruhiko(逝去), (賛助会員) 多摩化学工業(株)

また, その他の異動は, 以下の通りである。

学生→一般(3名): 西岡澄濃, 永峰康一郎, 山口 学

海外→国内(1名): 日下部正志

国内→海外(2名): 米田成一, 新垣 武

この結果, 会員数は以下のようになった。

|             | 正会員 | 賛助会員 | 名誉会員 | 計   |
|-------------|-----|------|------|-----|
| 1992年7月31日  | 942 | 17   | 6    | 965 |
| 入 会         | 24  | 0    | 0    | 24  |
| 退 会         | -7  | -1   | 0    | -8  |
| 1992年12月31日 | 959 | 16   | 6    | 981 |

学生 74名, 在外 32名を含む

3-2 1994-1995年度役員選出のため選挙管理委員会の委員の選出

下山 晃, 海老原允, 清水 洋の3評議員が選出され, 委員長には下山評議員があたること了承された。

#### 3-3 Goldschmidt Conference への対応

1994年8月24日-9月2日にイギリス Edinburgh 大学で開催される V. M. Goldschmidt Conference の準備委員会から, 共催と財政的援助の申入れがあった。

意見の交換があり, 学会として Supporting organization になることを了承した。

#### 3-4 会則の変更

学会事務センターの住所変更に伴い, 本会会則の一部改正を評議員会として了承した。改正点は以下の通りである。

|      | 改正前                                   | 改正後                                    |
|------|---------------------------------------|----------------------------------------|
| 第15条 | 本会の事務所は東京都文京区弥生2-4-16 日本学会事務センター内におく。 | 本会の事務所は東京都文京区本駒込5-16-9 日本学会事務センター内におく。 |

#### 3-5 会員問題担当幹事の追加

富樫茂子評議員が会員問題担当の幹事となることが了承され, 会員問題検討用データベースの作成の目的, 運用, 入力項目等について意見交換があった。

### 1993年度第2回評議員会議事録要旨

1993年度第2回評議員会は, 6月12日15時より東京大学山上会館で開かれ, 出席者は脇田会長を始め21名であった。正式の議事録は, 次回評議員会で承認されたのち, ニュースに掲載の予定である

1. 庶務, 編集, 行事, 会員問題に関する報告があった。地球惑星科学関連会1994年合同大会は, 3月20日-23日の日程で東北大学川内北キャンパスで開催される。1994年度日本地球化学会年会は, 名古屋大学で10月開催の予定である。

2. 将来計画委員会から, 「科研費補助金の申請状況に関するアンケート」の集計結果(ニュース133号に掲載)の報告, 並びに「地球化学の研究・教育に関するアンケート」を実施中との報告があった。会員問題検討委員会, 選挙管理委員会の報告があった。

3. 学術会議の地球化学・宇宙化学研連, 陸水研連, 海洋研連, 鉱物研連鉱床学専門委員会の報告があった。学術会議が研連の見直しを検討中である。

4. 1993年1月1日から4月30日までの入会13名(正会員12名, 賛助会員1名), 退会18名(すべて正会員)が承認された。この結果1993年4月30日現在, 正会員953名(学生70名, 在外32名を含む), 賛助会員17名, 名誉会員6名, 合計976名となった。

5. 1992年度会計決算報告案が提出され, 了承された。

6. 学会賞等受賞者選考委員会(高岡委員長)から1993年度の受賞者の選考結果が報告され, 以下の通り授賞を決定した。

日本地球化学会賞:

田中 剛(名古屋大学理学部教授)

「La-Ce 年代測定法の確立と希土類元素宇宙地化学の研究」

日本地球化学会奨励賞:

五十嵐丈二(東京大学理学部助手)

「地震予知の基礎に関する地球化学的研究」



日高 洋 (東京都立大学理学部助手)

「核分裂生成物の地球化学的研究」

7. 名誉会員推薦委員会 (半田委員長) から推薦のあった3名の会員について、名誉会員推薦を本年度の総会へ提案することが決まった。

【新入会員紹介】 (1993. 1. 1~4. 30)

正会員 (12名)

山名 智 動力炉核燃料開発事業団

永瀬 廣江 米子工業高等専門学校

松田 敏二 西日本技術開発㈱

千葉 光史 岩手県立不来方高校

梅津 芳生 岩手大学工学部応用分子化学科

中森 亨 東北大学理学部地圏環境科学科

可部谷哲治 ㈱関西総合環境センター

小室 光世 筑波大学地球科学系

深津 弘子 ㈱日本分析センター

S奥田 耕三 北海道大学水産学部水産化学科

S佐々田俊夫 東京大学理学部地球惑星物理学教室

S小埜 恒夫 北海道大学水産学部

(Sは学生会員)

賛助会員 (1口)

新エネルギー産業技術総合開発機構 NEDO 情報センター情報管理課

## 地球惑星科学関連学会1993年合同大会

### 1993年度日本地球化学会

#### 春季シンポジウム報告

1993年の地球惑星科学関連学会合同大会は3月19日(金)~22日(月)の間、東京都立大学教養部に於いて開催されました。本年度のセッション参加学会は、地震学会、日本火山学会、日本測地学会、日本地球化学会、日本惑星科学会、地球電磁気・地球惑星圏学会の6学会で、昨年より1学会増え、シンポジウム共催学会としても、日本海洋学会、日本気象学会、日本鉱物学会、日本地質学会、日本天文学会、日本岩石鉱物鉱床学会の6学会が参加し、昨年の3学会から倍増しました。参加者は、一般1206名、学生596名、計1802名と昨年の1599名を約200人程上回り、過去最高の参加者を記録しました。参加者の数が1990年が約1200人、1991年が約1400人、1992年が約1600人、そして本年1993年が約1800人と年200人ずつ増えているのが特徴的です。発表件数は口頭発表が690件、ポスター発表が260件の合計950件で、ポスターでの発表の比重を増やしたのが今年の特徴でした。

今回の合同学会からいくつかの点で新しい試みがなされました。一つはプログラム発送の統一化で、従来のよ

うに複数学会に所属する人のもとに各学会から同じプログラム冊子が送付されるということが避けられました。また予稿集が合本化され、シンポジウム、共通セッション、固有セッションとも1冊の予稿集にまとめられました。地球化学会は昨年まで固有に春季シンポジウム講演予稿集を印刷・販売しましたが、今年度はこれが廃止されました。更に予稿集の販売や懇親会の参加を原則的に予約制にし、合同大会初日の受付の混雑を緩和する措置が取られました。これらは概ね好意的に受けとめられたと判断のもとに、次年度以降も踏襲される見込みです。なお会計収支は約85万円の黒字となり、何らかの形で次年度以降に繰り越される予定です。

日本地球化学会春季シンポジウムは、合同大会の固有セッションとして大会初日の3月19日に開催されました。本年度は21件の講演(内ポスター4件)があり、ここ数年漸減の状態にあります。共催セッションとしては本年度惑星科学会とともに「primitive achondrites」を企画し、11件の講演発表がありました。固有セッションでの発表件数が少ないのは、必ずしも地球化学会員の春季シンポジウムへの関心の低さを物語るのではなく、合同学会の性格上、共通セッションやシンポジウムの発表の場を積極的に求めている結果であるとも解釈されます。

来年度の合同大会は1994年3月20日~23日の間、東北大学川内北キャンパスで開催される予定です。なお、詳細は地球惑星科学関連学会連絡会ニュースNo. 5をご覧ください。(行事担当幹事 海老原 充 都立大理)

### Geochemical Journal 誌について

本学会欧文論文誌「Geochemical Journal」の出版には、文部省の助成金を受けています。ここ数年のページ数の増加を受けて、交付申請ページ数を増やし、本年度から助成金が増額されることとなりました。従って今後は、増加したページ数を維持し、さらに拡大してゆかなくてはなりません。日本地球化学会では会員諸氏からの多くの投稿を望みます。

### Geochemical Journalに“Note”欄の復活のお知らせ

Geochemical Journalでは、世に言う“Note”は不完全な論文の安直な逃げ道となる傾向があるという観点から、“Note”欄を設けず、論文は長さにかかわらず“Article”として仕上げるという方針でやってきましたが、投稿者や査読者からは、あいかわらず“Note”として掲載したいというご希望や助言がありました。なかにはもっともなご意見やご指摘もあり、“Note”即ち不完全な論文というわけでもなく、“Note”欄の必要性は一方では確かにあります。そこで、6月12日の評議員会

で皆さんのご意見をうかがったところ、“Note”欄を支持する声がありましたので、編集長として前言をひるがえし、“Note”欄を復活させることにいたしました。地球化学の研究に益するデータの呈示を中心とした報告ないし論文を“Note”として掲載いたしますので、今後ふろってご投稿下さい。

(Geochemical Journal 編集長 松久幸敬)

### 学術シンポジウム「放射性廃棄物処分—地質科学からの展望」

表記関連学会が開催されますのでお知らせいたします。

記

日本学術会議の地質科学総合研究連絡委員会地質学研究連絡委員会は、地質科学の発展とその社会的貢献を目指した活動の一環として、現在大きな社会問題ともなっている放射性廃棄物についての学術シンポジウムを開催することと致しました。多数の皆様のご参加、御討論を期待しております。

主催 学術会議、地質科学総合研究連絡委員会、地質学研究連絡委員会

後援 日本地質学会、日本応用地質学会

期日 1993年9月3日(金) 9:30~19:00

場所 日本学術会議大ホール(東京都港区六本木 7-22-34、地下鉄千代田線乃木坂駅より徒歩1分)、参加自由

### プログラム

- 1) 地質学と放射性廃棄物処分：課題と学問的波及効果  
北村 信(環境地学北村研究室)
- 2) 日本列島のテクトニクス
  - 1) 日本列島の地質特性と地層処分—諸外国との対比：水谷伸治郎(名大理)
  - 2) 活断層の浅〜深部地下構造：伊藤谷生(千葉大理)
  - 3) リソスフェアのレオロジーと地殻応力問題：嶋本利彦(東大震研)
- 3) 地層処分に関係する岩盤割目の性質と解析：渡辺邦夫(埼玉大工)
- 4) 地下水流動
  - 1) 表層に於ける地下水流動：新藤静夫(千葉大理)
  - 2) 深層を含む広域地下水流動調査研究：柳澤孝一(動燃)
- 5) 岩石・水・元素相互作用
  - 1) 岩石中の物質移動と元素／鉱物反応機構：中嶋 悟(東大理)
  - 2) 岩盤割目のセルフシーリング：千木良雅弘(電中研)
  - 3) 岩石・水の反応に於ける熱水系の温度構造の効果：竹野直人(地調)

[6] 地層処分研究の現状：山川 稔(動燃)

[7] 総合討論：研究課題と研究方法—地質科学の発展を目指して

指名討論：小出 仁(地調)、鹿園直建(慶応大)、秋山雅彦(信大理)

☆シンポジウムに関する問い合わせ先(Fax か郵便で)

〒113 東京都文京区本郷 7-3-1

東京大学理学部地質学教室 吉田 鎮男

FAX 03-3815-9490

### 「温室効果気体に関する国際会議」

表記関連国際学会が開催されますのでお知らせいたします。

記

会場 仙台国際会議場

期日 1994年3月7-11日

主催 東北大学

二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素、対流圏オゾン、フロン等の温室効果気体の濃度が、産業革命以降、人間活動によって急速に増加しており、近い将来の気候が大きく変化すると懸念されています。この問題にとって、個々の気体の増加原因について定量的な理解を得ることが重要であります。現状の知識は未だ不十分と言わざるを得ません。そこで、地球表層における温室効果気体の循環について多方面から総合的に討議し、解決の糸口を見いだすために、国際会議を東北大学田中正之教授を組織委員長として開催致します。本会議におきましては、

1. 温室効果気体の濃度および同位体比の時間的・空間的変動の測定と解釈
2. 温室効果気体の発生・消滅過程とその量の推定
3. 温室効果気体の循環モデル
4. 過去および将来における温室効果気体濃度の変化等について幅広く討議を行いますので、多数の方のご出席を期待致します。

本会議にご興味のある方は、1993年8月末までに

〒980 仙台市青葉区荒巻字青葉

東北大学理学部大気海洋変動観測研究センター

中澤 高清

(電話：022-222-1800 内線 3588)

FAX：022-262-3357) までご連絡下さい。

### Western Pacific Geophysics Meeting

表記共催学会が開催されますので、お知らせいたします。

記

Sponsor

The American Geophysical Union is proud to announce its third Western Pacific Geophysics

Meeting (WPGM). It will be held July 25-29, 1994 in Hong Kong.

#### Cosponsors

The Geochemical Society of Japan and other societies.

#### Who should attend?

This meeting is intended particularly to serve the needs of geophysicists interested in problems being studied in the Western Pacific region. All disciplines of AGU will be organizing programs similar in concept to those offered at each of AGU's annual meetings held in the U.S. This meeting is open to geophysicists worldwide without regard to nationality or society membership.

#### Scientific program

The program will be designed to serve the needs of geophysical scientists working in or interested in the Western Pacific area. However, papers on all related aspects of geophysics are welcomed. Special session ideas are being solicited and should be sent to AGU or a program committee member immediately.

#### Program committee

Chairman Kiyoshi Suyehiro, Ocean Research Institute, University of Tokyo, 1-15-1 Minamidai, Nakano-ku, Tokyo 164, Japan, tel. 03-5351-6439, fax. 03-5351-6438.

#### Call for papers

The call for papers announcing preliminary sessions and the abstract deadline will be published in August 1993. Watch for this information in Eos.

#### For further information

To be placed on a mailing list to receive future information on WPGM '94, contact AGU Meetings Department, 2000 Florida Avenue, N.W., Washington, D.C. 20009, tel. 202-462-6900, fax. 202-328-0566, or e-mail: sbell@kosmos.agu.org.

#### 「朝日賞」候補者推薦のお願い

表記の推薦依頼が財団法人朝日新聞文化財団より本学会宛にまいりましたのでお知らせいたします。

#### 記

このたびは1993年度「朝日賞」の受賞候補者をご推薦いただきたく、お願いを差し上げました。この賞は、1992(昭和47)年に朝日新聞創刊50周年を記念して創設し、わが国のさまざまな分野で傑出した業績をあげ、文化、社会の発展、向上に貢献をされた個人または団体にお贈りしてまいりました。受賞者のなかからは後年、ノーベル賞や文化勲章をお受けになった方も数多く出ておられます。

今年も、広く各界の皆様に受賞候補者の推薦をお願いし、さらに他のいろいろな方のご意見を伺ったうえ、朝日賞選考委員会で慎重に審議し、受賞者を決定いたしま

す。趣旨、意義をお汲み取りいただき、候補者のご推薦をよろしくお願い申し上げます。

推薦票は下記に請求の上、9月6日(月)までに、お送り下さい。受賞者は1994年元日の朝日新聞紙上で発表し、1月下旬、朝日新聞東京本社で贈呈式を行います。お問い合わせなどは、下記で承ります。

朝日新聞文化企画局企画第二部「朝日賞」係

〒104-11 東京都中央区築地 5-3-2

電話 03-3545-0131 (内線54216)

FAX 03-3543-3280

#### 1994年度「女性科学者に明るい未来をの会・

猿橋賞」の受賞候補者及び研究助成候補者の推薦依頼について

表記の推薦依頼が女性科学者に明るい未来をの会より本学会宛にまいりましたのでお知らせいたします。

#### 記

「女性科学者に明るい未来をの会」(1980年創立)は、自然科学の分野で、顕著な研究業績を収めた女性科学者に、毎年、賞(猿橋賞)を贈呈してまいりました。1990年度からは、さらに、海外のシンポジウム等に出席し、論文を発表する若手の女性研究者に対し、研究助成することにいたしました。賞金と助成金は、1990年3月に本会を母体として新設された、公益信託「女性自然科学者研究支援基金」(受託者 東洋信託銀行株式会社)から支出されます。

つきましては、下記の要領により受賞候補者と研究助成候補者の推薦をお願いいたします。

#### 猿橋賞

- 1 本賞は自然科学の分野で、顕著な研究業績を収めた女性科学者(ただし、下記の推薦締切日で50才未満)に贈呈します。
- 2 本賞は賞状とし、副賞として賞金(30万円)をそえます。
- 3 本賞の贈呈は1年1件(1名)です。
- 4 所定の用紙に受賞候補者の推薦対象となる研究題目、推薦理由(400字程度)、略歴、主な業績リスト、主な論文別刷10編程度を、本会事務局までお送り下さい。
- 5 締切は1993年11月30日(必着)。
- 6 第13回の賞贈呈式は、1994年5月、東京において行う予定です。

なお、最近3年間の猿橋賞受賞者は次の通りです。

- |            |                       |
|------------|-----------------------|
| 第11回(1991) | 北海道大学薬学部教授 森 美和子博士    |
| 第12回(1992) | 国立核融合科学研究所助教授 加藤 隆子博士 |
| 第13回(1993) | 東京大学教養学部教授 黒田 玲子博士    |
- 研究助成

- 1 海外のシンポジウム等に出席し、論文を発表する女

性研究者に対し、研究助成をいたします。

- 2 助成金は1件10万円とし、年に数件とします。

- 3 所定の用紙に推薦対象者(各締切日において満40才未満)の略歴、研究業績、国際会議名(主催団体、開催場所、年月日)、発表論文題目、推薦理由等を記入して、本会事務局までお送り下さい。

- 4 締切は1993年11月末日と、1994年4月末日の2回。

なお、1992年度の研究助成金受給者は8名でした。

#### 問い合わせ先

女性科学者に明るい未来をの会

〒166 東京都杉並区高円寺北 4-29-2-217

電話 03-3330-2455 (FAX 兼用)

#### 東京大学教官の公募

表記公募の案内が本学会宛にまいりましたのでお知らせいたします。

#### 記

東京大学大学院理学系研究科 地球惑星物理学教室

#### 1. 公募の対象

- |                                |               |
|--------------------------------|---------------|
| (1) 固体地球物理学を専門とするもの            | 教授 1名         |
| (2) 大気海洋物理学(主として海洋物理学)を専門とするもの | 教授 1名<br>計 2名 |

#### 2. 着任時期

- (1)については平成5年度内(決定後なるべく早い時期)を予定。(2)については平成6年4月を予定。

3. 応募・推薦締切 平成5年8月31日(火) 必着

#### 4. 書類問い合わせ先

〒113 東京都文京区弥生 2-11-16

東京大学大学院理学系研究科

地球惑星物理学教室 主任 浜野 洋三

Tel 03-3812-2111 内線 4293

Fax 03-3818-3247

#### 東京水産大学教官の公募

表記公募の案内が本学会宛にまいりましたのでお知らせいたします。

#### 記

募集人数: 助教授 1名

所属: 海洋生産学科海洋環境学講座環境保全学分野  
専門分野: 水圏の有機環境化学、海洋天然物化学、及びその関連分野

担当科目: 環境化学、環境化学実験、海洋学実習、4年生及び大学院博士前後期課程学生教育・研究指導

応募資格: 博士の学位を有し、年齢35-45歳ぐらいまで

の方。ただし、外国籍の場合、日本語で講義が出来る方。(講座の性格上、調査船によるフィールド調査に興味があり、GC・MS等の利用経験者が望ましい。)

応募書類: 下記に問い合わせのこと。

応募締切: 平成5年9月30日必着。

選考方法: 締切後、応募者の中から適任者数名を選び、当研究室の見学と面接を行い候補者1名を決定する。

着任時期: 決定後、平成5年度の出来るだけ早い時期。

問い合わせ先:

〒108 東京都港区港南 4-5-7

東京水産大学海洋生産学科 大槻 晃

電話: 03-3471-1251 内線 248

#### 研究助成の募集案内について

表記の募集が本学会までまいりましたのでお知らせします。

#### 記

来る9月1日から10月末日までの間、平成6年度笹川科学研究助成を募集いたします。

本研究助成は、萌芽性、新規性及び独創性のある内容をもった研究を奨励し、若手研究者の育成と、その研究に対して助成することを目的としております。

本件についてのお問い合わせは、下記へご連絡願います。

〒105 東京都港区虎ノ門2丁目9番16号

日本消防会館内

財団法人日本科学協会 笹川科学研究助成係

電話 03-3502-1931

FAX 03-3580-8157

#### 地質汚染シンポジウムの案内

—汚染の治療効果をみる—

表記の案内が本学会までまいりましたのでお知らせします。

#### 記

日時: 1993年9月24日(金) 10:00~17:00

場所: 北とぴあ 東京都北区王子1-11-1

(JR 王子駅北口徒歩2分)

主催: 日本地質学会関東支部

問い合わせ先(担当幹事)

〒340 埼玉県八潮市松ノ木 30-2

TEL 0489-96-2880

明治コンサルタント(株) 東京支店 気付

上砂 正一

## 「学術分野における国際貢献についての基本的提言」を採択

平成5年5月 日本学術会議広報委員会

日本学術会議は、去る4月21日から23日まで第116回総会を開催しました。今回の日本学術会議だよりでは、同総会の議事内容及び同総会で採択された「学術分野における国際貢献についての基本的提言」等についてお知らせいたします。

### 日本学術会議第116回総会報告

日本学術会議第116回総会（第15期・第5回）が、4月21日～23日の3日間にわたって開催された。

総会の初日の午前には、会長からの前回総会以降の経過報告に続いて、各部、各委員会等の報告が行われた。次いで、今回総会に提案されている2案件について、それぞれ提案説明がなされた後、質疑応答が行われた。

午後からも提案案件に対する質疑応答が行われた後、引き続き各部会が開催され、午前中に提案説明された総会提案案件の審議が行われた。

総会2日目の午前には、前日提案された2案件及び緊急に提案された1案件の審議・採決が順次行われた。

まず、「国際対応委員会の改組について(申合せ)」が採択された。これは、学術の国際化の急速な進展に伴い、国際学術団体及び国際学術協力事業への対応の重要性がますます増大してきており、日本学術会議としてもその職務を遂行する上で、学術の国際化に関する状況の迅速かつ的確な把握が不可欠であるという観点から、より広範囲にわたる国際学術情報の収集と、それに基づく適切な対応ができるよう、国際対応組織の充実強化を図るために、必要な措置を講じたものである。

次いで、「学術分野における国際貢献についての基本的提言」が採択された。本件については、日本学術会第15期活動計画の中の重点目標として掲げられており、また、一昨年秋の第113回総会において内閣官房長官から、「学術研究の分野で我が国がどのような国際的貢献をなすべきかについて全学問領域から総合的に検討し、意見を出すよう」求められ、以来、日本学術会議における重要案件として鋭意審議してきたものである。

提言は、1. 学術分野における国際貢献の意義、2. 学術分野における国際貢献の在り方、3. 学術分野における国際貢献を進めるための提案という構成内容になっており、日本学術会議は、今後とも、本提言に基づき、具体的な諸課題について検討していくこととしている。

最後に、上記の提言に基づき、日本学術会議は、国際貢献のための新しいシステムを構築するための具体的方策を直ちに検討し、その速やかな推進を図るという内容の「学術分野における国際貢献についての基本的提言に関する附帯決議」が採択された。

また、「学術分野における国際貢献についての基本的提言」に関する会長談話を22日付けで発表した。

午後からは、現在、常置委員会、特別委員会で審議されている懸案事項について、自由討議が行われた。

総会3日目は、午前は各特別委員会、午後は各常置委員会・国際対応委員会がそれぞれ開催された。

なお、近藤会長が、4月22日に河野内閣官房長官と、また、同27日に宮澤内閣総理大臣とそれぞれ会見し、「学術分野における国際貢献についての基本的提言」を手渡すとともに、同提言について報告した。

### 学術分野における国際貢献についての基本的提言（抜粋）

（前文略）

#### 1. 学術分野における国際貢献の意義

（本文略）

#### 2. 学術分野における国際貢献の在り方

（本文略。項目のみ）

- (1) 対等・互惠の原則に基づいた国際学術協力の強化
- (2) 国際学術協力の積極的発議等
- (3) 人材育成への協力による国際貢献の推進
- (4) 我が国の学術情報の提供・紹介の促進
- (5) 学術に関する国際団体への対応強化

#### 3. 学術分野における国際貢献を進めるための提案

前節で述べた我が国の学術分野における国際貢献の在り方を踏まえ、これを推進していくために、以下の事項を提案する。

##### (1) 我が国からの情報提供機能等の充実・強化

###### ① 学会の支援・育成

我が国の学会は、高等教育研究機関や産業界の研究成果の発表の場として重要な役割を果たしてきた。また、研究者相互の活発な国際交流等を通じて、情報の提供に努めているところである。しかしながら、ほとんどの学会は、資金の不足から、必要な活動も十分にできない状況にある。

学術分野における国際貢献という観点において、非政府機関（NGO）としての学会の果たす役割は極めて大きく、それらが有する情報提供機能を最大限に発揮できるよう、学会の支援・育成を図る必要がある。

###### ② アジア地域における学術研究に関する連携の強化

我が国と地理的・歴史的・文化的な関係の深いアジア地域の学術の発展に資するため、アジア地域の科学者や学術研究機関の間の学術研究ネットワークを拡充・強化することが必要である。また、将来的には、アジアの学術振興のための国際的な組織の在り方について、関係各国の科学者と協議していく必要

がある。

##### (2) 国際学術交流のための支援の充実

###### ① 学術研究機関の整備等

新しい知識の創造と発展は、優れた研究者が集い、切磋琢磨するところから生まれるものであり、研究者の未知への挑戦に対して最も適切な施設・資金・支援システムなどの研究環境を提供することが必要である。したがって、全世界の研究者が日本で研究することに魅力を感じ、充実した研究生生活を送れるように、学術研究機関の整備及び適切な運営を図るべきである。

###### ② 来日研究者・留学生への支援の充実

学術分野における国際貢献の第一歩として、各国の人材育成への協力、とりわけ来日研究者・留学生の支援に十分な配慮がなされなければならない。したがって、内外における日本語教育の充実や、来日研究者・留学生の住居、日本人研究者・学生や地域の人々との交流を可能とする交流施設など生活・文化施設の整備・充実を早急に図るべきである。

###### ③ 海外派遣研究者への支援の拡充

国際学術交流は、相手国の国情に応じた総合的配慮の下に行われる必要がある。したがって、その国の研究者との恒常的な連携・協力を維持するとともに我が国からの海外派遣研究者が必要とする各種情報の提供や連絡・調整などもできる人材の当該国への配置など、海外派遣研究者の支援体制の拡充を検討する必要がある。

##### (3) 学術分野における国際貢献のための新しいシステムの構築

国際的な学術協力については、我が国においても、既に多くの機関がその努力を重ねているところである。しかしながら、投入されている資金等そのための支援は、質・量ともに、未だ国際的な要求に応える水準にまで達しているとは言えない。しかも、現在個別に推進されている学術協力の相互の連絡・調整は、必ずしも十分ではなく、我が国の総力を挙げてこれを推進しているとは言えない状態にある。

また、今後ますます増えていくと思われる各種の国際的な学術協力プロジェクトの立案や協力、参加、推進については、これまで以上に、科学者の総意を反映しつつ、総合的かつ適切な判断を機動的になし得る場を確保しなければならない。

さらに、我が国が国際的な学術協力のための諸施策を強力に推進するためには、科学者の力のみならず、政府・産業界の協力、更には国民の理解等総合的な支援が必要である。

これらの問題点を改善し、学術分野において国際社会の期待に応える貢献をなし得るように、国民の理解の下に、諸課題の整理；必要な資金の確保・配分等を行う新しいシステム（例えば「学術協力機構」）を構築するなど、今後真剣に検討を進める必要がある。

終わりに

日本学術会議は、人類共通の資産としての学術の発展こそが人類の繁栄と世界の平和の礎となるとの見地から、本提言を取りまとめたものである。

なお、日本学術会議は、今後とも、本提言に基づき、内外の科学者を始め、広く関係各方面の意見を聴きながら、具体的な諸課題について引き続き検討していくことを付言したい。

### 平成5年(1993年)度共同主催国際会議

日本学術会議では、我が国において開催される学術関係国際会議のうち毎年おおむね6件について、学・協会と共同主催している。

本年もまた、6件の国際会議を共同主催することとしており、その概要は、次のとおりである。

#### ◆第7回太平洋学術中間会議(6月27日～7月3日)

太平洋地域の住民の繁栄と福祉に直接関わる学術上の問題に関する研究を進展させるため、討論を行い、最新の研究情報を交換することを目的として宜野湾市(沖縄コンベンションセンター、沖縄都ホテル、メルパルク沖縄)において開催される。

参加予定人数500人(国外300人、国内200人)参加予定国数29か国。

#### ◆第6回国際気象学・大気物理学協会科学会議及び第4回国際水文科学協会科学会議合同国際会議(7月11日～23日)

気象学、大気物理学及び陸水・水文科学に関する研究を進展させるため、討論を行い、最新の研究情報を交換することを目的として横浜市(横浜国際平和会議場)において開催される。

参加予定人数1,500人(国外700人、国内800人)参加予定国数68か国。

#### ◆第15回国際植物科学会議(8月23日～9月3日)

植物科学に関する研究を進展させるため、討論を行い、最新の研究情報を交換することを目的として横浜市(横浜国際平和会議場)において開催される。

参加予定人数4,000人(国外1,500人、国内2,500人)参加予定国数81か国。

#### ◆第24回国際電波科学連合総会(8月23日～9月3日)

電波科学に関する研究を進展させるため、討論を行い、最新の研究情報を交換することを目的として京都市(国立京都国際会館)において開催される。

参加予定人数1,200人(国外800人、国内400人)参加予定国数49か国。

#### ◆アジア社会科学研究協議会連盟第10回総会

(9月5日～11日)

アジア・太平洋地域における社会科学の教育、研究、訓練及び普及を促進するため、討論を行い、最新の研究情報を交換することを目的として川崎市(かながわサイエンスパーク)において開催される。

参加予定人数120人(国外60人、国内60人)参加予定国数17か国。

#### ◆第21回国際純粋・応用物理学連合総会(9月20日～25日)

物理学を進展させるため、討論を行い、最新の研究情報を交換することを目的として奈良市(奈良県新公会堂)において開催される。

参加予定人数300人(国外150人、国内150人)参加予定国数41か国。

御意見・お問い合わせ等がありましたら、下記までお寄せください。

〒106 東京都港区六本木7-22-34

日本学術会議広報委員会 電話03(3403)6291(代)



『科学研究費の基礎知識—文部省の制度・運営・審査を複眼でみる—』

飯田 益雄 著

定価3,800円, 253ページ, 科学新聞社出版局

大学の研究者にとって、文部省科学研究費（科研費）補助金を獲得できるか、できないかは重大事である。採択されるには、2割強という率からみても、余程よく考えられた申請書でなければならない。このため、十分に時間をかけて説得力のある研究計画を練り上げることが重要となる。

せっかく練り上げた研究計画は、なんとかして採択されなくてはならない。それには、科研費の仕組みを理解していることが必要である。科研費にはどんな種目があって、それぞれどのような研究を対象としているのか。また、それらはどのように審査されるのか。さらに、応募件数や採択率、平均の交付金などについても知りたいことである。

ひとりの審査員が審査する数を数えれば、読みにくい申請書ですむわけがない。研究計画では、究明する問題点が明確で分かりやすいことが求められている。研究の推進に当たっては、どこに独創性や先駆性があるのか、

そして、実現への具体的方策を強調する。簡潔な文章で、全体を理路整然とまとめられることが必要である。

こうした科研費の仕組みや申請書の書き方の要点、各種の統計資料など、研究者が知りたいと思っていることを網羅した本が世に出た。競争相手には知らせず、自分だけでひそかに読みたいような本である。

「特別推進研究」、新プログラム方式による「創成的基礎研究費」、「重点領域研究」、「特別研究」、「特定研究」、「試験研究」、「国際学術研究」などの解説、また、交付決定後に外国旅費に支出を申請できる種目のあることなど、役にたつ知識が豊富に盛られている。

著者は文部省学術国際局主任学術調査官を務められ、多年学術行政、とくに科研費関係に携わり、科研費補助金に精通した人物である。本書には、著者の蓄積した知識が順序正しく、わかり易く解説されている。本書は著者の出身（北大理学部化学科）、経歴（米子工業高等専門学校校長）、人柄などを反映して、視点が研究者の側にもむけられていて、行政からの視野との複眼で記述されていることも特徴である。

平成5年度から、科研費の分科・細目について大幅な見直しが行われ、新たに分科「地球科学」が、そしてその中に細目「地球化学」が新設されている。科研費を勉強する最適の書である。（脇田 宏（東大理））

編集者 野尻幸宏 〒305 つくば市小野川16-2 国立環境研究所、地球環境研究グループ  
電話 0298-51-6111, ファックス 0298-51-4732  
発行者 日本地球化学会 〒113 文京区本駒込5-16-9 学会センター C21  
日本学会事務センター内 電話 03-5814-5801

# 日本地球化学会ニュース

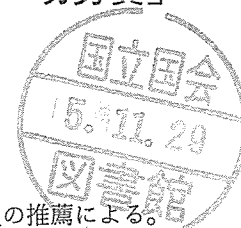
No. 135

1993. XI. 9

## 日本地球化学会「柴田賞・学会賞・奨励賞・功労賞」

### 1994年度受賞候補者推薦の募集

応募期限 1994年1月31日（月）



日本地球化学会授賞規程により、柴田賞、学会賞、奨励賞、功労賞受賞候補者の推薦を募集いたします。

つきましては、下記ご参照のうえ、会員各位の御関係で適当と思われる受賞候補者を、自薦他薦を問わずご推薦下さるようお願いいたします。

候補者の資格：

- （柴田賞） 地球化学の発展に関し、学術上顕著な功績のあった者。
- （学会賞） 地球化学の分野で特に優秀な業績を収めた本会会員。
- （奨励賞） 1959年4月2日以降に生まれた本会正会員（学生会員を含む）で、地球化学の進歩に寄与する秀れた研究をなし、なお将来の発展を期待しうる者。
- （功労賞） 我が国の地球化学あるいは本会の発展に関し特に寄与のあった者。

募集の方法：本会会員の推薦による。

推薦の方法：所定用紙に記載した推薦書を、1月31日（月）までに学会事務局へ（当日消印有効）。

提出先：〒113 文京区本駒込5-16-9  
日本学会事務センター内  
日本地球化学会受賞者選考委員会

推薦書は本号添付の用紙、もしくはこれを複写したものをご使用下さい。なお、この件についてのお問い合わせは本会庶務担当幹事（下記）まで。

〒860 熊本市黒髪2-39-1

熊本大学理学部地球科学教室

清水 洋

tel. 096-344-2111 (内)3419

fax. 096-345-4196

## 日本地球化学会春季シンポジウム開催のお知らせ

上記シンポジウムが、1994年地球惑星科学関連学会合同大会の固有セッションとして開催されます。日本地球化学会では春季シンポジウムにおける講演を広く募集いたします。日程は合同大会のプログラム編成が終了するまで確定しませんが、講演数に応じて会期中1~2日間の予定で行われます。地球化学会の春季シンポジウムは、毎年どおり一般講演を中心として構成されます。春季シンポジウムの講演申し込み、問い合わせ先は以下のとおりです。

〒192-03 東京都八王子市南大沢1-1

東京都立大学理学部化学科

海老原 充

tel. 0426-77-2553

fax. 0426-77-2525

講演申し込み締切りは1994年1月7日です。期限を厳守してください。講演申し込み用紙は本ニュースと一緒に郵送される「地球惑星科学関連学会連絡ニュース（合同大会特集号）No. 6」に刷り込みの申し込み用紙をお

使ってください。講演申し込みの詳細は同連絡会ニュースをご覧ください。ファクシミリでの申し込みはできません。なお、共通セッションの講演申し込み先は東北大学理学部のプログラム委員会です。

## 日本地球化学会

### 1993年度第2回評議員会議事録

日 時：1993年6月12日 16：00-19：00

場 所：東京大学山上会館

出席者：脇田宏会長、半田暢彦副会長、一國雅巳監事、安部喜也、石渡良志、海老原 充、北 逸郎、日下部 実、佐野有司、下山 晃、清水 洋、鈴木徳行、高岡宣雄、富樫茂子、中井俊一、野崎義行、野尻幸宏、平木敬三、藤原祺多夫、松田准一、松久幸敬（以上評議員）

1. 前回議事録を了承した。
2. 報告事項

2-1 庶務（清水評議員）1993年度文部省出版助成補助金の報告書を提出した。

1994年度文部省出版助成補助金の交付申請書を提出した。学術会議に学術研究団体登録申請をした。特許庁指定学術団体活動状況報告書を提出した。ESR 応用計測研究会「第9回ESR 応用計測研究会」の協賛を承認した。研究会プログラム2件が回覧された。静岡大学教養部、東京工業大学理学部から教官公募があった。地球化学研究協会学術賞「三宅賞」の候補者推薦依頼があった。地球化学研究協会、日本生命財団、トヨタ財団から研究助成の募集があった。献本が一冊あった。

2-2 幹事会（清水評議員）

6月5日16時より東京大学理学部において開催。出席者は脇田会長、半田副会長、清水、富樫、中井、野尻各幹事、松久GJ編集長で第2回評議員会の議題内容について整理した。

2-3 編集

(1) Geochemical Journal（松久評議員）

Vol. 26はNo. 6まで出版済み。Vol. 27はNo. 1, No. 2が印刷中、No. 3, No. 4が編集中。G. J. の特集号の印刷費をどう扱うかについて意見の交換があった。G. J. の出版編集体制の問題の解決方法について出版社への委託も検討しているが、その中間報告があった。

(2) 地球化学（田中編集長からのメモ）

Vol. 27, No. 1は6月下旬配布予定。No. 2はまもなく印刷。

2-4 ニュース（野尻評議員）

No. 132, No. 133は配布済み。

2-5 行事

(1) 1993年度春季シンポジウム（海老原評議員）

3月19日から3月22日に東京都立大学で行われた1993年度春季シンポジウムの報告があった。1994年合同大会は1994年3月20日-23日に東北大学で開催の予定である。

(2) 地球惑星科学関連学会連絡会（海老原評議員）

4月20日に連絡会が開かれた。資源地質学会が新たに加入した。日本火山学会が幹事学会となる。合同大会を秋に開催することについて、地球化学会の対応に関して意見の交換があった。

(3) 1993年度大阪年会（平木評議員）

1993年9月30日-10月2日まで近畿大学理工学部で開催予定。

2-6 会員問題（富樫評議員）

会員名簿の調査葉書を5月30日に締め切った。

2-7 委員会

(1) 将来計画委員会（半田副会長）

委員会を3月17日に開催した。科研費申請状況のアンケートの結果をニュースNo. 133にはさんだ。地球化学の教育研究に関するアンケートを地球科学、化学系の学科に送付した。これらのアンケートの結果をもとに地球化学の将来計画について対外報告の原案を作成する。この報告に関するシンポジウムを学会で開催する予定である。

(2) 選挙管理委員会（下山委員長）

7月23日に1994-1995年度役員候補の推薦を締め切る。8月23日に候補者リストを会員名簿と共に発送する予定である。

2-8 学術会議

(1) 地球化学・宇宙化学研連（石渡評議員）

3月17日に委員会が開かれ、地球化学の振興策について意見の交換があった。研連と学会の将来計画委員会で合同シンポジウムを開くことを検討している。対外報告の内容を整理している。研連の見直しについてアンケートが来ている。

(2) 陸水研連（安部評議員）

IAHSの準備状況の報告があった。研連の見直しについて意見の交換があった。

(3) 海洋研連（半田副会長）

研連の見直しについて意見の交換があった。

(4) 鉱物研連鉱床学専門委員会（松久評議員）

研連の見直しに関して意見の交換があった。

2-9 1994年度年会

1994年度年会は10月12日-14日の期間に名古屋大学で開催される。

## 日本地球化学会（学会賞等）受賞候補者推薦用紙

日本地球化学会授賞規程により、下記の者を日本地球化学会（柴田賞、学会賞、奨励賞、功労賞）受賞候補者として推薦します。

年 月 日

推薦者

氏名

印

記

1. 候補者氏名、生年月日、略歴（わかる範囲でお書き下さい）

2. 受賞の対象となる業績等の題目

3. 推薦理由

### 3. 審議事項

#### 3-1 入退会の承認

1993年1月1日から4月30日までの入会退会は以下の通り承認された。

入会 (13名) : (正会員) 山名 智, 永瀬廣江, 松田鮎二, 千葉光史, 梅津芳生, 中森 亨, 可部谷哲治, 小室光世, 深津弘子 (以下学生) 奥田耕三, 佐々田俊夫, 小埜恒夫, (賛助会員) 新エネルギー産業技術総合開発機構 NEDO 情報センター情報管理課

退会 (18名) : (すべて正会員) 秋葉 力, 石川秀雄, 熊丸尚宏, 橋本芳一, 太田富雄, 白石直典, 渡辺啓一, OSVALDO M. Rabbia, 松田俊治 (逝去), 中谷周 (逝去), 阪上正信, 徳岡麻比古, 志方比呂基, 服部 仁, 八野祐二, 辻 正彦 (以下学生) 渡辺孝志, 小谷祐二

また, その他の異動は, 以下の通りである。

学生 → 一般 (6 名) : 大沢信二, 田中里志, 永本浩之, 小方 靖, 川端一史, 大和田淳子

一般 → 学生 (1 名) : 金原五月

この結果, 会員数は以下になった。

|             | 正会員 | 賛助会員 | 名誉会員 | 計   |
|-------------|-----|------|------|-----|
| 1992年12月31日 | 959 | 16   | 6    | 981 |
| 入 会         | 12  | 1    | 0    | 13  |
| 退 会         | -18 | 0    | 0    | -18 |
| 1993年4月30日  | 953 | 17   | 6    | 976 |

学生 70 名, 在外 32 名を含む。

#### 3-2 1992年度会計決算報告

一國監事の監査を受けた1992年度会計決算報告案が提出され, 審議の上, 了承された。

#### 3-3 学会賞等受賞者選考委員会の選考結果の報告および受賞者の決定

学会賞受賞者選考委員会 (高岡委員長) から1993年度の受賞者の選考結果が報告され, 以下の通り受賞を決定した。

日本地球化学会賞 :

田中 剛 (名古屋大学理学部教授)

「La-Ce 年代測定法の確立と希土類元素宇宙地球化学の研究」

日本地球化学会奨励賞 :

五十嵐文二 (東京大学理学部助手)

「地震予知の基礎に関する地球化学的研究」

日高 洋 (東京都立大学理学部助手)

「核分裂生成物の地球化学的研究」

#### 3-4 名誉会員推薦委員会の報告および名誉会員の推薦

名誉会員推薦委員会 (半田委員長) から推薦のあった,

木越邦彦会員, 半谷高久会員, 本田雅健会員について, 名誉会員推薦を本年度の総会に提案することが承認された。

3-5 平成6年度科研費審査員候補者の選出に関して 地球化学・宇宙化学研連から, 平成6年度科研費審査員候補者の推薦依頼が届いていない。候補者の選出に関しては, 研連から依頼があった時点で検討する。

### 1993年度第3回評議員会議事録要旨

1993年度第3回評議員会は, 9月29日16時より近畿大学ゲストハウス会議室で開かれ, 出席者は脇田会長を始め21名であった。以下に議事の概要をまとめる。正式の議事録は, 次回評議員会で承認されたのち, ニュースに掲載の予定である。

1. 庶務, 会計, 編集, 行事, 会員問題に関する報告があった。

2. 1994-1995年度役員選挙結果が報告された (詳細は本号のニュースに掲載)。

3. 地球化学宇宙化学研究連絡委員会の報告があった。科研費の細目「地球化学」の1段審査委員候補者及び分科「地球科学」の2段審査委員候補者は, 17学協会から研連への推薦をもとにして, 研連から学術会議第4常置委員会へ推薦を行なったことが報告された。本学会は郵送による投票を行ない, その上位21名の中から, 専門分野も考慮して, 会長, 副会長が, 審査委員候補者を研連へ推薦した。この上位21名の発表があった。

4. 1993年5月1日から7月31日までの入会14名 (すべて正会員), 退会6名 (正会員5名, 賛助会員1名) が承認された。この結果1993年7月31日現在, 正会員962名 (学生55名, 在外31名を含む), 賛助会員16名, 名誉会員6名, 合計984名となった。

5. 会費長期滞納者の取り扱いについて審議し, 7年以上の滞納者を除籍することとした。

6. 1994年度学会賞等受賞者選考委員会委員5名を投票により選出した。

7. 1993年度総会議事次第, および総会に提出される案件が審議された。なお, この件は本号のニュースに「総会報告」として掲載されている。また, 総会に引き続き「学会賞受賞講演」を行ない, その後に懇談会「日本地球化学会の現状を語る」を行なうこととした。

8. 鳥居鉄也名誉会員から学会へ寄付金があったことが報告された。委員会を設置し, 有効な活用方法を検討する。

9. 日本化学会から要望のあった, 日本地球化学会年会要旨集のデータベース化について意見の交換を行なった。また, 日本化学会の「化学と工業」誌への講演募集とプログラムの掲載の有料化に伴う問題についても意見



の交換を行なった。

## 1993年度日本地球化学会総会報告

1993年度日本地球化学会総会は、1993年10月1日15時より、近畿大学において、下記の総会次第に従って行なわれた。

### 総会議事次第

- 開会宣言
- 議長選出 議長には杉崎隆一評議員（名古屋大学）が選出された。
- 会長挨拶 脇田宏会長（東京大学）
- 年会実行委員会代表挨拶 平木敬三評議員（近畿大学）
- 議事
  - 1992年度事業報告ならびに決算報告
  - 監査報告
  - 1993年度事業中間報告ならびに会計中間報告
  - 1994年度事業計画ならびに予算案
  - 規約改正（第15条、住所変更）
  - 1994-1995年度役員選挙結果報告
  - 名誉会員の推挙
  - その他
- 名誉会員証の贈呈
- 学会賞等受賞式
  - 日本地球化学会奨励賞受賞式
  - 日本地球化学会賞受賞式
- 閉会宣言

総会において承認された1992年度事業報告、1992年度決算報告、1993年度事業中間報告、1993年度会計中間報告、1994年度事業計画、1994年度予算案を以下に順次示す。

総会に引き続き日本地球化学会賞受賞講演（田中剛会員；名古屋大学）が行なわれた。その後に談話会「日本地球化学会の現状を語る」が開かれ、科学研究費の現状についての報告があり、それをもとに科学研究費についての意見の交換があった。

### 1992年度事業報告

| 1. 会員状況     |    | 正会員 | 賛助会員 | 名誉会員 | 計   |
|-------------|----|-----|------|------|-----|
| 1992年1月1日   | 入会 | 929 | 19   | 6    | 954 |
|             | 退会 | 46  | 0    | 0    | 46  |
|             |    | -16 | -3   | 0    | -19 |
| 1992年12月31日 |    | 959 | 16   | 6    | 981 |

- 年会、委員会等開催数  
年会1回（10/1-3：府中）、総会1回（10/2：

府中）、評議員会3回（2/15、6/20、9/30）、幹事会3回（2/8、6/13、9/26）、編集委員会4回、春季シンポジウム1回（4/9-10：京都、地球惑星科学関連学会1992年合同大会に参加）、学会賞等受賞者選考委員会2回、会員問題検討委員会1回、名誉会員推薦委員会2回、将来計画委員会1回

- 会誌発行  
Geochemical Journal Vol. 26 (1-6)、地球化学 Vol. 26 (1, 2)
- ニュース発行 Nos. 128, 129, 130, 131
- 学会賞等の授与（日本地球化学会賞1件、日本地球化学会功労賞1件、日本地球化学会奨励賞2件）
- 学会共催、協賛
  - 第29回理工学における同位元素研究発表会（共催）
  - 1992年度質量分析連合討論会（共催）
  - 日本宇宙生物科学会第6回大会（協賛）
  - Goldschmitt Conference
  - Western Pacific Geophysical Meeting
  - 29th International Geological Congress

### 1992年度決算報告

収支決算書（自1992年1月1日 至1992年12月31日）

#### [収入の部]

| 科 目             | 収入額(円)     | (予算額, 円)     |
|-----------------|------------|--------------|
| 1. 会費収入         | 7,502,000  | ( 7,500,000) |
| 1.1. 正会員        | 6,552,000  |              |
| 1.2. 学生会員       | 366,000    |              |
| 1.3. 賛助会員       | 390,000    |              |
| 1.4. 海外会員       | 118,000    |              |
| 1.5. 入会金        | 76,000     |              |
| 2. 刊行物売上        | 4,796,126  | ( 4,600,000) |
| 2.1. 別刷         | 449,906    |              |
| 2.2. Back No.   | 4,346,220  |              |
| 3. 広告料          | 284,500    | ( 200,000)   |
| 4. 助成金          | 1,400,000  | ( 1,400,000) |
| 5. 雑収入*         | 1,212,645  | ( 300,000)   |
| 6. 前年度名簿積立金     | 0          | ( 0)         |
| 7. 前年度基本財産充当引当金 | 2,000,000  | ( 2,000,000) |
| 8. 前年度繰越金       | 12,765,410 | (11,500,000) |
| 収入合計            | 29,960,681 | (27,500,000) |

(注) 雑収入には、黒田和夫氏よりの寄付40万円、故松尾祐士氏遺族よりの寄付50万円、銀行預金利息289,174円を含む。

#### [支出の部]

| 科 目          | 支出額(円)      | (予算額, 円)     |
|--------------|-------------|--------------|
| 1. 事業費       | 12,557,143  | (13,450,000) |
| 1.1. 出版費     | 9,793,151   | (10,400,000) |
| 1.1.1. 編集    | (1,200,000) | ( 1,200,000) |
| 1.1.1.1. 印刷  | (7,142,034) | ( 8,200,000) |
| 1.1.1.2. 発送  | (1,454,117) | ( 1,000,000) |
| 1.2. 行事費     | 497,730     | ( 500,000)   |
| 1.3. 学会賞経費   | 48,894      | ( 50,000)    |
| 1.4. 委員会活動費  | 179,500     | ( 300,000)   |
| 1.5. 名簿積立金   | 400,000     | ( 400,000)   |
| 1.6. 名簿作成費   | 0           | ( 0)         |
| 1.7. 事務委託費   | 1,554,888   | ( 1,600,000) |
| 1.8. 会員業務郵税  | 79,980      | ( 200,000)   |
| 2. 管理費       | 1,442,231   | ( 1,650,000) |
| 2.1. 庶務費     | 200,000     | ( 200,000)   |
| 2.2. 会議費     | 130,563     | ( 300,000)   |
| 2.3. 通信費     | 19,620      | ( 30,000)    |
| 2.4. 旅費      | 744,000     | ( 800,000)   |
| 2.5. 選挙費     | 0           | ( 0)         |
| 2.6. 雑費      | 129,648     | ( 100,000)   |
| 2.7. 会誌保管料   | 218,400     | ( 220,000)   |
| 3. 予備費       | 0           | ( 500,000)   |
| 4. 基本財産充当引当金 | 3,400,000   | ( 2,000,000) |
| 5. 次年度繰越金    | 12,561,307  | ( 9,900,000) |
| 支出合計         | 29,960,681  | (27,550,000) |

(注) 次年度繰越金には1992年度発行出版物の出版費未払い分約400万円を含む。

#### 貸借対照表（1992年12月31日現在）

| 資 産 の 部   | (円)        |
|-----------|------------|
| 現 金       | 17,177     |
| 普 通 預 金   | 9,492,290  |
| 定 期 預 金   | 11,267,182 |
| 学会事務センター  | 27,658     |
| 計         | 20,804,307 |
| 負債・正味財産の部 | (円)        |
| 前 受 会 費   | 4,443,000  |
| 名 簿 積 立 金 | 400,000    |
| 基本財産充当引当金 | 3,400,000  |
| 正 味 財 産   | 12,561,307 |
| 計         | 20,804,307 |

### 1993年度事業中間報告

| 1. 会員状況    |    | 正会員 | 賛助会員 | 名誉会員 | 計   |
|------------|----|-----|------|------|-----|
| 1993年1月1日  | 入会 | 959 | 16   | 6    | 981 |
|            | 退会 | 26  | 1    | 0    | 27  |
|            |    | -23 | -1   | 0    | -24 |
| 1993年7月31日 |    | 962 | 16   | 6    | 984 |

- 年会、委員会等開催数

年会1回（9/30-10/2：東大阪）、総会1回（10/1：東大阪）、評議員会3回（2/13、6/12、9/29）、幹事会3回（2/6、6/5、9/25）、編集委員会4回、春季シンポジウム1回（3/19-22：八王子、地球惑星科学関連学会1993年合同大会に参加）、学会賞等受賞者選考委員会3回、会員問題検討委員会1回、名誉会員推薦委員会2回、将来計画委員会1回、選挙管理委員会2回

- 会誌発行  
Geochemical Journal Vol. 27 (1)、地球化学 Vol. 27 (1)
- ニュース発行 Nos. 132, 133, 134
- 会員名簿発行
- 学会賞等の授与（日本地球化学会賞1件、日本地球化学会奨励賞2件）
- 1994-1995年度役員選挙
- 学会共催、協賛
  - 第30回理工学における同位元素研究発表会（共催）
  - 1993年度質量分析連合討論会（共催）
  - 第2回CO<sub>2</sub>と海洋とのかかわりに関するワークショップ（協賛）
  - 1993日中砂漠化機構解明研究シンポジウム（後援）
  - 第4回国際水文科学協会科学会議（共催）
  - 第9回ESR応用計測研究会（協賛）

### 1993年度中間決算報告

収支決算書（自1993年1月1日 至1993年6月30日）

#### [収入の部]

| 科 目              | 収入額(円)     | (予算額, 円)     |
|------------------|------------|--------------|
| 1. 会費収入          | 7,322,673  | ( 7,500,000) |
| 1.1. 正会員         | 6,314,000  |              |
| 1.2. 学生会員        | 330,000    |              |
| 1.3. 賛助会員        | 375,000    |              |
| 1.4. 海外会員        | 243,673    |              |
| 1.5. 入会金         | 60,000     |              |
| 2. 刊行物売上         | 2,252,980  | ( 4,600,000) |
| 2.1. 別刷り代        | 88,200     |              |
| 2.2. Back No. 収入 | 1,964,780  |              |
| 3. 広告料           | 285,000    | ( 200,000)   |
| 4. 助成金           | 0          | ( 1,400,000) |
| 5. 雑収入           | 160,236    | ( 300,000)   |
| 6. 前年度名簿積立金      | 400,000    | ( 400,000)   |
| 7. 前年度基本財産充当引当金  | 3,400,000  | ( 2,000,000) |
| 8. 前年度繰越金        | 12,561,307 | (11,000,000) |
| (収入合計)           | 26,182,196 | (27,400,000) |

[支出の部]

|             | 支出額(円)      | (予算額, 円)     |
|-------------|-------------|--------------|
| 1. 事業費      | 4,641,662   | (15,550,000) |
| 1.1 出版費     | 3,238,540   | (11,700,000) |
| 編 集         | (1,500,000) | (1,500,000)  |
| 印 刷         | (1,228,069) | (8,500,000)  |
| 発 送         | ( 510,471)  | (1,700,000)  |
| 1.2 行事費     | 378,000     | ( 700,000)   |
| 1.3 学会賞経費   | 0           | ( 50,000)    |
| 1.4 委員会活動費  | 172,000     | ( 300,000)   |
| 1.5 名簿積立金   | 0           | ( 0)         |
| 1.6 名簿作成費   | 56,568      | (1,000,000)  |
| 1.7 事務委託費   | 780,000     | (1,600,000)  |
| 1.8 会員業務郵税  | 16,554      | ( 200,000)   |
| 2. 管理費      | 1,139,211   | (1,870,000)  |
| 2.1 庶務費     | 200,000     | ( 200,000)   |
| 2.2 会議費     | 90,135      | ( 300,000)   |
| 2.3 通信費     | 16,766      | ( 50,000)    |
| 2.4 旅費      | 820,000     | ( 900,000)   |
| 2.5 選挙費     | 0           | ( 100,000)   |
| 2.6 雑費      | 12,310      | ( 100,000)   |
| 2.7 会誌保管料   | 0           | ( 220,000)   |
| 3 予備費       | 0           | ( 500,000)   |
| 4 基本財産充当引当金 | 0           | (2,000,000)  |
| 5 次年度繰越金    | 0           | (7,480,000)  |
| (支出合計)      | 5,780,873   | (27,400,000) |

1994年度事業計画

- 年会 (名古屋大学)
- 総会 (名古屋大学)
- 春季シンポジウム: 地球惑星科学関連学会1994年合同大会 (東北大学)
- 評議員会3回
- 幹事会3回
- 会誌発行  
Geochemical Journal Vol. 28 (1-6), 地球化学 Vol. 28 (1, 2)
- ニュース発行 Nos. 136, 137, 138, 139
- 学会賞等受賞者の選考
- 学会共催, 協賛  
第31回理工学における同位元素研究発表会

1994年度予算

[収入の部]

| 科 目             | 1994年(円)   | 1993年(円)     | 増 減        |
|-----------------|------------|--------------|------------|
| 1. 会費収入         | 8,000,000  | ( 7,500,000) | 500,000    |
| 2. 刊行物売上        | 4,600,000  | ( 4,600,000) | 0          |
| 3. 広告料          | 400,000    | ( 200,000)   | 200,000    |
| 4. 助成金          | 1,550,000  | (1,400,000)  | 150,000    |
| 5. 雑収入          | 300,000    | ( 300,000)   | 0          |
| 6. 前年度名簿積立金     | 0          | ( 400,000)   | △400,000   |
| 7. 前年度基本財産充当引当金 | 3,400,000  | (2,000,000)  | 1,400,000  |
| 8. 前年度繰越金       | 9,800,000  | (11,000,000) | △1,200,000 |
| (収入合計)          | 28,050,000 | (27,400,000) | 650,000    |

[支出の部]

| 科 目          | 1994年(円)   | 1993年(円)     | 増 減        |
|--------------|------------|--------------|------------|
| 1. 事業費       | 15,890,000 | (15,550,000) | 340,000    |
| 1.1 出版費      | 12,700,000 | (11,700,000) | 1,000,000  |
| 編 集          | 1,500,000  | (1,500,000)  | 0          |
| 印 刷          | 9,500,000  | (8,500,000)  | 1,000,000  |
| 発 送          | 1,700,000  | (1,700,000)  | 0          |
| 1.2 行事費      | 500,000    | ( 700,000)   | △200,000   |
| 1.3 学会賞経費    | 50,000     | ( 50,000)    | 0          |
| 1.4 委員会活動費   | 300,000    | ( 300,000)   | 0          |
| 1.5 名簿積立金    | 400,000    | ( 0)         | 400,000    |
| 1.6 名簿作成費    | 0          | (1,000,000)  | △1,000,000 |
| 1.7 事務委託費    | 1,700,000  | (1,600,000)  | 100,000    |
| 1.8 会員業務郵税   | 240,000    | ( 200,000)   | 40,000     |
| 2. 管理費       | 1,810,000  | (1,870,000)  | △60,000    |
| 2.1 庶務費      | 200,000    | ( 200,000)   | 0          |
| 2.2 会議費      | 300,000    | ( 300,000)   | 0          |
| 2.3 通信費      | 60,000     | ( 50,000)    | 10,000     |
| 2.4 旅費       | 900,000    | ( 900,000)   | 0          |
| 2.5 選挙費      | 0          | ( 100,000)   | △100,000   |
| 2.6 雑費       | 100,000    | ( 100,000)   | 0          |
| 2.7 会誌保管料    | 250,000    | ( 220,000)   | 30,000     |
| 3. 予備費       | 500,000    | ( 500,000)   | 0          |
| 4. 基本財産充当引当金 | 3,400,000  | (2,000,000)  | 1,400,000  |
| 5. 次年度繰越金    | 6,450,000  | (7,480,000)  | △1,030,000 |
| (支出合計)       | 28,050,000 | (27,400,000) | 650,000    |

1994-1995年度

日本地球化学会役員選挙結果報告

|               |            |           |       |
|---------------|------------|-----------|-------|
|               |            | 選挙管理委員会   | 下山 晃  |
|               |            | 委員        | 海老原 充 |
|               |            |           | 清水 洋  |
| 投票総数          | 157, 有効投票数 | 157       |       |
| 1. 会 長        | 当選         | 半 田 暢 彦   | 146   |
|               | 次点         | 角 皆 静 男   | 2     |
|               |            | (1票 5名)   |       |
| 2. 副会長        | 当選         | 高 岡 宣 雄   | 89    |
|               | 次点         | 角 皆 静 男   | 63    |
|               |            | (1票 4名)   |       |
| 3. 監 事        | 当選         | 一 國 雅 巳   | 149   |
|               |            | (1票 3名)   |       |
| 4. 評議員        | 当選         | 田 中 剛     | 131   |
|               | 当選         | 野 津 憲 治   | 124   |
|               | 当選         | 石 渡 良 志   | 118   |
|               | 当選         | 兼 岡 一 郎   | 115   |
|               | 当選         | 植 松 光 夫   | 115   |
|               | 当選         | 富 樫 茂 子   | 114   |
|               | 当選         | 野 尻 幸 宏   | 113   |
|               | 当選         | 齋 藤 和 男   | 104   |
|               | 当選         | 鈴 木 徳 行   | 104   |
|               | 当選         | 千 葉 仁     | 104   |
|               | 当選         | 増 澤 敏 行   | 104   |
|               | 当選         | 赤 木 右     | 101   |
|               | 当選         | 中 村 俊 夫   | 101   |
|               | 当選         | 中 井 俊 一   | 99    |
|               | 当選         | 池 谷 元 伺   | 96    |
|               | 当選         | 福 島 和 夫   | 92    |
|               | 当選         | 安 部 喜 也   | 90    |
|               | 当選         | 村 江 達 士   | 84    |
|               | 当選         | 坂 田 将     | 83    |
|               | 当選         | 日 下 部 実   | 36    |
|               | 次点         | 大 隈 多 加 志 | 26    |
|               |            | 綿 拔 邦 彦   | 20    |
|               |            | 平 木 敬 三   | 19    |
|               |            | 杉 崎 隆 一   | 18    |
|               |            | 乗 木 新 一 郎 | 16    |
|               |            | 角 皆 静 男   | 15    |
|               |            | 小 倉 紀 雄   | 14    |
|               |            | 蒲 生 俊 敬   | 11    |
|               |            | 脇 田 宏     | 10    |
| (他161人, 303票) |            |           |       |
|               | 無          | 効         | 4     |

1994年会は名古屋大学で開催

日時: 1994年10月12日 (水)~10月14日 (金)

場所: 名古屋大学シンポジオンホール, 豊田講堂, 古川資料館講堂

課題講演: 惑星系における有機合成, 最新年代測定法とその展開, 海洋フラックス (いずれも仮題) などを検討中。

エキスカージョン: 東濃鉱山実験坑道 (水-岩石反応, 地下水の挙動など放射性廃棄物管理関連研究フィールド), 白狐温泉地震予知観測システムと泉源, 微小重力研究落下立て坑, 地球回廊 (博物館) などの見学を予定。

白狐温泉泊。14日 (金) 夕方, バスで出発, 15日 (土) 夕方解散予定。

連絡先: 〒464-01 名古屋市中種区不老町

名古屋大学理学部地球惑星科学科

日本地球化学会1994年会実行委員会

杉崎 隆一

tel. 052-781-5111 (内線 2524)

fax. 052-782-7091

[新入会員紹介] (1993.5.1~7.31)

正会員 (14名)

石崎 裕之 日重開発工業(株)

石原 千晶 ジオサイエンス(株)

長谷川 浩 高知大学理学部化学教室

新 麻里子 日本原子力研究所

井上 元 国立環境研究所

ELSENHEIMER, Donald W. 地質調査所

菱田 元 金属鉱業事業団

瀬戸 浩二 島根大学理学部地質学教室

S小畑 元 京都大学理学部化学教室

S岡村 慶 京都大学理学部機器分析センター

S松本 哲志 大阪市立大学理学部地球科学科

S小牧 香織 熊本大学理学部地学科

S武井 直子 北海道大学水産学部

S嶋本 晶文 北海道大学水産学部

(S は学生会員)

## 1993年度学会賞

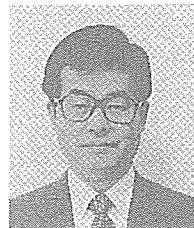
### 各賞受賞者のプロフィール

以下の方々が本年度の日本地球化学会賞および奨励賞を受賞されました。心からお慶びを申し上げますとともに、今後の一層の研究のご発展をお祈りいたします。

#### 日本地球化学会賞：田中 剛会員

(名古屋大学理学部)

受賞課題「La-Ce年代測定法の確立と希土類元素宇宙・地球化学的研究」



田中 剛さんは、1969年名古屋大学理学部地球科学科を卒業し、同大学院修士課程を経て、1971年地質調査所に入所されました。以来、主として、今回受賞の対象となりました希土類元素の宇宙・地球化学の研究にたずさわる一方、1989年4月からは、同位体地学課長として地質調査所における同位体研究グループを指導してきましたが、1990年12月名古屋大学に移られ、現在、同理学部地球惑星科学科教授の任にあります。

田中さんは、Ce同位体比の精密測定技術を開発し、世界で最初にLa-Ce放射年代測定法を確立し、Ce同位体の地球科学・宇宙科学への利用に成功しました。 $^{138}\text{La}$ は、電子捕獲により $^{138}\text{Ba}$ に、 $\beta^-$ 放出により $^{138}\text{Ce}$ に壊変します。 $^{138}\text{La}$ - $^{138}\text{Ce}$ 壊変系列は、 $^{147}\text{Sm}$ - $^{143}\text{Nd}$ 壊変系列同様、放射性親・娘核種ともに希土類元素であることから、安定した、信頼のおける放射年代を提供すると考えられます。しかしながら、 $^{138}\text{La}$ - $^{138}\text{Ce}$ の壊変定数が正確に求まりにくいことや、Ce中の $^{138}\text{Ce}$ の存在度が著しく低いことから、La-Ce年代測定法は確立されないうでした。田中さんは、これらの問題を克服し、Bushveldはんれい岩から分離した長石、輝石、および全岩試料についてLa-Ce鉱物アイソクロン年代( $T=2.39\pm0.48\text{Ga}$ )を求め、その結果を、同時に求めたSm-Nd鉱物アイソクロン年代( $T=2.05\pm0.09\text{Ga}$ )と対比することによって、La-Ce年代測定法の有用性を示しました。希土類元素存在度パターンの中で、La/Ce比は、Nd/Sm比と異なる分別を示すことが多く、鉱物によっては、La/Ce分別の方がNd/Sm分別より大きいものがあります。また、Ceは酸素分圧によって他の希土類元素とは異なる挙動を示し、いわゆるCe異常を示すことがあります。田中さんは、Ce同位体の宇宙・地球化学への応用として、Ce異常を持つ

隕石試料の $^{138}\text{Ce}/^{142}\text{Ce}$ 比を測ることにより、異常が隕石生成時に生じたものか、隕石が地上に落下してから生じたものかを判別したり、コンドライト様始源物質(CHUR)を基準にして岩石の $^{138}\text{Ce}/^{142}\text{Ce}$ 同位体進化を論じることを試みています。すなわち、現在のCHURの $^{138}\text{Ce}/^{142}\text{Ce}$ 比を基準にした $\epsilon$ 値で岩石の $^{138}\text{Ce}/^{142}\text{Ce}$ 比を表すと、変成岩や堆積岩のように、地殻を構成し、よりLaに富む岩石(鉱物でいえば斜長石)は正の $\epsilon$ 値を持ち、逆に、相対的にLaに乏しい玄武岩やマントル物質(鉱物でいえば輝石)は負の $\epsilon$ 値を持ちますが、田中さんは、このことをSm-Ndの $\epsilon$ 値と組み合わせることによって $\epsilon_{\text{Ce}}-\epsilon_{\text{Nd}}$ ダイアグラムを作り、マントル-地殻における希土類元素同位体の進化と、それにもとづく岩石の成因を論じました。これらの業績は希土類元素地球化学の新しい地平を拓くものであり、世界をリードする独創的研究といえます。

以上の研究は、田中さんの最近10年間の業績ですが、これに先だって田中さんは、希土類元素にもとづいた宇宙化学・地球化学の研究に多くの業績を上げています。その主要なものとして、日本列島のいわゆる古生代地向斜を形成する玄武岩類の希土類元素存在度パターンを解析して、古生代の海底火成作用の特徴と、マグマの生成環境を明らかにした一連の研究と、Allende隕石のマトリックス、インクルージョン、コンドリュールの希土類元素等を分析して、太陽系形成初期に元素の大きな分別があったことを示した研究がありますが、いずれの研究も、その後さかんになったマントル・ダイナミクスと玄武岩マグマの成因的研究や、太陽系形成過程における元素や同位体の不均質さの研究のさきがけとなるもので、その先見性と独創性は高く評価されます。田中さんの今後の研究のますますの発展を期待すると同時に、常に何か新しいことを試みようとする彼の姿勢は、大学の教育の場でも、若い人達に必ずやよい影響を与えるものと確信します。松久幸敬(地質調査所)

#### 日本地球化学会奨励賞：五十嵐丈二会員

(広島大学理学部)

受賞課題「地震予知の基礎に関する地球化学的研究」



五十嵐氏は1988年1月に東京大学理学部付属地殻化学実験施設に採用されて以来、地下水中のラドン濃度や水位の変化による地震予知の研究を行ってきました。五十嵐氏は、学部では天文学を学び、大学院では希ガス同位体を用いて大気の起源や地球の脱ガスに関する研究を行っていま

したので、異なる分野のバックグラウンドを生かして、地震予知研究に新しい息吹を吹き込むことができました。地球化学的な地震予知研究は歴史が浅く、1988年当時、測定された時系列データから潮汐、気象要素などを除き、地震の発生に関連した変化を抽出する手法が確立されていませんでした。五十嵐氏は、従来の観測方法を改善してデータの質の向上をはかった上で、得られたデータについては最新の統計学的手法を駆使して、地震に関連した変化を識別する方法を開発しました。たとえば、鹿児島観測点(福島県)のラドン濃度測定では、時系列データをトレンド成分、水温応答成分、不規則成分に分解すると、トレンド成分には地震時に変化が現れることを見つけました。いままで曖昧なままであったラドン異常と地震の規模、震源距離、発生地帯など地震の性質との関係、ラドン異常と帯水層の物理的性質との関係、ラドン異常と地震発生との関係の統計学的有意性を初めて明らかにし、地下水中のラドン濃度変化の地球化学的および地震学的な基礎を確立しました。一連の研究の中で、前兆的な変化をとらえることにも成功し、地震予知に有用であることを示しました。鎌倉観測点(神奈川県)の水位観測でも、同様の統計的手法を用いることにより、トレンド成分に地震時の変化が現れること、それが地震時の地殻の歪量に対応していることを明らかにし、前兆的な変化をとらえることにも成功しました。

五十嵐氏は、1993年8月から新天地広島大学に移りました。また、新しい分野の研究を精力的に切り開いていくものと、大いに期待しています。

野津憲治(東京大学理学部)

#### 日本地球化学会奨励賞：日高 洋会員

(東京都立大学理学部)

受賞課題「核分裂生成物の地球化学的研究」



日高氏は、東京大学理学部化学教室増田研究室で「元素同位体組成に基づく天然原子炉オクロ鉱床の地球化学的研究」に着手され、現在に至るまで一貫してオクロのウラン鉱床を用いた地球化学的研究を行ってきました。日高氏は同試料中の数多くの元素についてその同位体比を精密に測定し、鉱床内で起こった核反応の規模の推定や生成した核分裂生成物の地球環境中における化学的挙動に関する研究を行ってきました。その結果、現在ではフランス原子力庁が中心となってEC諸国により組織された「放射性核種の挙動解明のためのオクロ研究プロジェクト」の主要メンバーとして迎えられ、引き続き精力的な研究を

行っています。

オクロ鉱床の研究以外にも、同位体化学の見地からウランの自発核分裂の解明にも取り組んでいます。従来、ウランの自発核分裂生成物を元素同位体比からとらえた例としては希ガスに関するデータが報告されていましたが、日高氏はルテニウムやテルルにおいても自発核分裂起源と思われる同位体異常を見い出しました。さらに、最近ではウラン鉱床そのものを研究対象に据えて、主としてその成因を同位体地球化学的に解明しようとの意欲も見られます。

日高氏は、以上述べたように核化学の要素を取り入れた同位体化学的アプローチにより、地球化学の分野において新しい一面を切り開きつつあると言っても過言ではないでしょう。日高氏は1992年4月より東京都立大学理学部に転任され、隕石試料中の元素や同位体存在度に関する研究にも着手されはじめており、今後も地球化学・宇宙化学の分野で益々活躍されるものと期待されます。

海老原 充(東京都立大学理学部)

#### 1993年度名誉会員推荐者のプロフィール

さる10月1日の1993年度日本地球化学会総会におきまして、名誉会員に推荐されました3名の会員の方々をご紹介します。

#### 名誉会員 木越 邦彦先生



木越邦彦先生は、1942年9月東京帝国大学理学部化学科をご卒業になり、理化学研究所仁科研究室で研究生活をはじめられました。その後、気象研究所三宅研究室を経て、1950年に学習院大学理学部助教授として着任された。1954年には教授に昇任され、1990年3月退職なさるまでの40年間、同大学で教育と研究にあたられた。現在も名誉教授として学内で研究を続けられておられる。

これまで木越先生がなさった研究はウランの同位体分離のための合成実験や、溶液中のイオンの存在状態、拡散定数の測定など、化学の基礎的な問題から、地球化学・宇宙化学の本質的な課題にわたっている。とくに、放射化分析法によるいん石中の揮発性微量元素の定量に関する研究は高く評価されている。またライフワークとなった炭素14法による年代測定の研究から数多くの成果を挙げられ、日本地球化学会ばかりでなく周辺領域に大きな貢献をされている。また、この研究を通じて、多くの国々との交流関係を築いておられる。さらに学生の教育にはとくに力を入れられ、「放射体化学」、「年代測定法」な



ど多数の著書を識るしておられる。

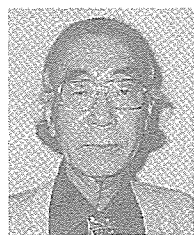
これらの業績によって、木越先生は1970年12月仁科賞、1975年12月地球化学研究協会学術賞（三宅賞）、および1990年3月安部賞（学術賞）を受賞され、1993年5月、勲三等瑞宝章の叙勲を受けられた。

木越先生は研究活動のほか、学会活動にも尽力された。多年、日本地球化学会の評議員をつとめられ、1980-1981年には会長として、また、1972年12月からの2年間はGeochemical Journalの編集長として、また、第四紀学会でも評議員、会長をつとめられるなど学会の発展に多大の努力を払われた。

先生は、若い頃は数学者を志向されたこともあると伺っているが、非常に論理的な思考をなさる方である。また、大変実験の上手な方で、工作もお好きである。第2次大戦の最中に大学を卒業され、薬品も容器も欠乏し、実験室まで疎開するという環境の中で、研究生生活を始められたことによるのかもしれないが、生来、ご器用な方なのであろう。ガラス細工などはいかに及ばず、放射線カウンターや研究に用いるほとんどの装置を自作してしまう程である。また、金属とガラスをつなぐ方法など、数々の秘伝の技法をお持ちになっておられる。

最近、木越先生は多少髪が白くなられた様と思うが、20~30年前とほとんど同じ風貌でおられる。今後もお好きなご研究を続けられることを願って、紹介の記事いたします。 脇田 宏（東京大学理学部）

#### 名誉会員 半谷 高久先生



半谷高久先生は本会創立以来の会員であり、1996~1971年および1974~1975年にわたり評議員、1978~1979年に会長を務められるなど、本会ならびに地球化学の発展に尽力されました。先生は1942年東京帝国大学理学部を卒業され、1946年名古屋大学理学部助手、1950年東京都立大学理学部助教授を経て、1961年同大学教授に昇任されました。1984年同大学を停年退官され、東京都立大学名誉教授の称号を受けられました。この間、地球化学の研究と教育を通じて、多数の著書、研究論文を発表されるとともに、多くの後継者を育成され、この分野の進歩に大きく貢献されました。

半谷先生の主な研究分野は陸水の地球化学であります。1950年代に発表された統計的手法を駆使したユニークな研究はその当時の研究者に大きな影響を与えました。1960年に初版が刊行された「水質調査法」は単なる調査指導書にとどまらず、水質化学の基礎も織り込んだ総合

的解説書として高い評価を受けました。

先生の実績の中でも、地球化学における人間活動の重要性に着目された社会地球化学という新分野の確立は特筆に値します。現在のようなグローバルな環境問題に人々が気付くはるか以前に、地球化学と社会科学を融合させることの必要性を主張されたことは、まさに卓見と申し上げてよいでしょう。社会地球化学の基本的な考え方は、安部喜也教授との共著として1966年に刊行された「社会地球化学」に詳しく述べられています。当然のことながら都市問題も先生にとっては重要な研究課題で、1978~1979年、東京都立大学都市研究センター長を務められながら、人間-都市-物質の関係を研究されました。

先生の業績として忘れてならないものに教科書、啓蒙書の執筆があります。先生は1954年にMasonの教科書を翻訳され、「地球化学概論」として出版されました。これに引き続いて1964年には菅原健先生と共編の「地球化学入門」、さらに1988年には先生の編著として内容を一新した「地球化学入門」を刊行されました。これらの教科書が地球化学の普及に大きく寄与したことは多言を要しません。

先生は1984年にはMV (Matter and Value) 研究所を設立され、現在でも社会地球化学の一層の発展に努力しておられます。これからもお元気でご研究を続けられることをお祈りいたします。

一國雅巳（埼玉大学工学部）

#### 名誉会員 本田 雅健先生



本田雅健先生は1920年8月28日に東京生まれ、1940年に府立高校、1942年に東京帝国大学理学部化学科をそれぞれ卒業された。その後、1949年まで三井化学工業黒研究所に勤務された後、立教大学理学部（助教授）、東京大学理学部（助教授）、東京大学物性研究所（教授）、日本大学文理学部（教授）と教育・研究活動を続けられて来られた。この間、1955年から1962年の間、スイス、アメリカ合衆国で研究生生活を送られ、また東京大学退官時に東京大学名誉教授に推薦された。1991年に日本大学を退職された後も、国立科学博物館客員研究員として研究活動を続けられている。

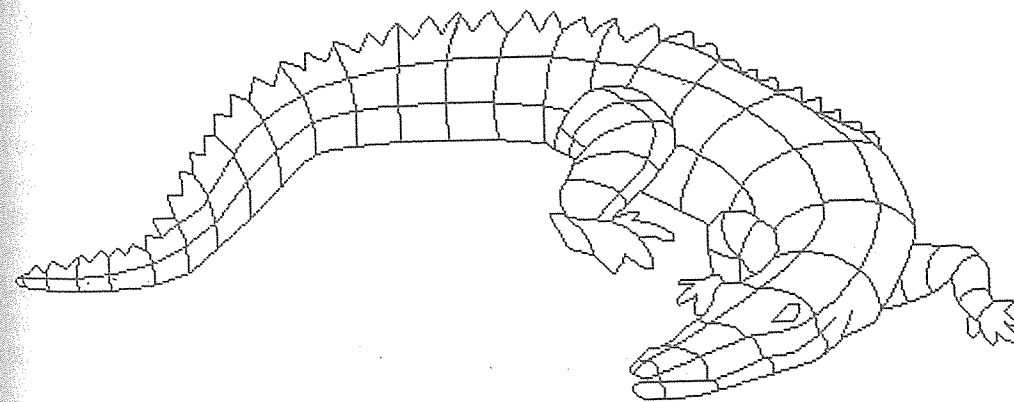
本田先生の研究内容は多岐に渡るが、年代に対応して大きく2つに分けられる。1つは外国での研究生生活に入られるまでのイオン交換に関する研究で、その研究成果は「イオン交換」（1954、南江堂）、「イオン交換樹脂とその応用」（1955、広川書店）の2冊の著書にまとめら

れ、広く世に知られるところとなった。2つ目は米国での研究生生活から現在までの、主として隕石中の宇宙線照射核種存在度に関する研究である。宇宙線との核反応によって隕石中に生じた核種、特に放射性核種を、中性子放射化分析や質量分析法によって高感度に、かつ精度よく定量し、地球落下前の隕石の大きさ、形状、履歴を説明するものであり、この研究業績に対して1987年、国際隕石学会からレオナルド・メダルが贈られた。また、この間、1970年には日本分析化学会賞、1974年には地球化学研究協会学術賞（三宅賞）をそれぞれ受賞されている。

先生は研究活動と平行して、宇宙化学・地球化学の発展のためにも大きく貢献された。日本地球化学会に対しては、1976~1977年の間、副会長として学会の運営に当

たられた。当時作成された、いわゆる「本田メモ」はその後の会の運営に大きな効果をもち、現在の地球化学会の機構の基礎を作られたと言っても過言ではない。また、地球化学会の運営と関連して、1978年から1987年の9年間（3期）、日本学術会議第4部の宇宙化学・地球化学研究連絡委員会の委員長をつとめられた。

本田先生は現在でも現役の研究者として実験機に向かわれ、しばしば国際学会で研究発表をされている。その姿が、最近6人目のお孫さん誕生を喜ぶ先生の姿と二重写しになり、それが妙に調和していることに気づき、ここに本田先生の本質があるように思われた。今後もお元気に、御自身の研究ともども後進の指導をお願い申し上げます。 海老原 充（東京都立大学理学部）



## 1994年度質量分析連合討論会

主催：日本質量分析学会

共催：日本地球化学会ほか

日時：1994年5月11日(水)～13日(金)

会場：大阪府立大学総合情報センター・学術交流会館

〒593 堺市学園町1番1号 tel. 0722-52-1161

地下鉄御堂筋線なかもず駅下車歩15分

南海高野線白鷺駅下車歩10分

質量分析のすべての領域、装置、理論、その応用に関する講演を募集致します。その中から「ここまでわかるイオンの質量」、「わかるのはイオンの質量以外にこんなに多い」等の内容で数テーマのシンポジウムを計画しています。

講演申込締切：1994年1月24日(月) 必着

発表形式：A. 口頭発表, B. ポスター発表

申込方法：1 講演につき B5 判 1 枚以下の内容を記載してください。1) 発表形式(但しプログラム編成上ご希望に添えない場合もあります)、2) 講演題目、所属、発表者氏名(講演者に○印)、3) 申込者氏名、連絡先(所属、所在地、tel., fax.), 4) 200字程度の概要

講演要旨原稿締切：1994年3月22日(火)

申込者には2月中旬に要旨作成要領をお送りします。

事前登録申込締切：1994年4月15日(金)

事前登録方法：振込は郵便振替に限ります(口座番号：大阪 2-83809, 名義：質量分析連合討論会事務局)。なお、別便で次の申込書を送付してしてください。1名につき B5 判 1 枚に a) 氏名, b) 所属, c) 連絡先, tel., fax., d) 所属学会名, e) 懇親会参加の有無, f) 要旨集送付希望の有無, g) 送金額(参加登録費, 懇親会参加費, 送料)。要旨集の送付を希望される場合は送付先、宛名を葉書 1/2 大の紙に明記したシールも添付し、送料として 500 円を加算して送金して下さい。

参加登録費(含要旨集代)：予約は主催、共催、協賛学会員 5,000 円、学生 3,000 円、非会員 6,000 円、当日の登録はいずれも 1,000 円加算

懇親会：1994年5月12日(木)、参加費 6,000 円

申込先：〒593 堺市学園町1番1号

大阪府立大学 農学部 中山 充

tel. 0722-52-1161 内線 2468, 2469

## ビデオ映像文化振興財団助成対象 募集について

下記助成対象事業の公募が本会あてにまいりましたのでご案内いたします。

## 記

### 1. 助成対象

1994年度内実施の「映像文化の創造に関わる活動」の全て

- ・あらゆる分野で利用される映像「製作」
- ・映像分野での現代芸術の「創造」と公開
- ・映像の利用とその効果に関する「調査研究」
- ・映像による「事業」
- ・新技術の「開発」による新しい映像の表現と利用展開、など

### 2. 助成件数及び金額

3 件。1 件あたり 200 万円

### 3. 決定時期

1994年3月の予定

### 4. 応募方法と締切

所定の申請書にて応募を受け付けます。

締切は、1993年12月1日(必着)

### 5. 問合せ先

〒016 東京都港区六本木 3-16-20 OTOビル

財団法人ビデオ映像文化振興財団 事業部

tel. 03-3584-3951

## とうきゅう環境浄化財団研究助成 募集について

下記助成対象事業の公募が本会あてにまいりましたのでご案内いたします。

## 記

財団法人「とうきゅう環境浄化財団(会長 横田三郎)」は、1975年度より多摩川およびその流域の環境浄化を促進するために必要な研究を毎年公募してきました。既に 290 件の研究に助成金を交付し、227 件の研究報告書を受領しています。1994年度も従来と同様、意欲的な研究を募集いたします。

### 1. 研究対象者

学識経験者の方はもちろん、一般の方でも研究に意欲のある方であれば、どなたでもご応募いただけます。

### 2. 研究対象テーマ

- (1) 産業活動または住生活と多摩川およびその流域との関係に関する調査および試験研究
- (2) 排水・廃棄物等による多摩川の汚染の防除に関する調査研究および試験研究
- (3) 多摩川およびその流域における水の利用に関する調査、試験研究
- (4) 多摩川をめぐる自然環境の保全、回復もしくは環境創造に関する調査・試験研究

### 3. 公募締切日

1994年1月17日

### 1. 問合せ先

東京都渋谷区渋谷 1-16-14 渋谷地下鉄ビル

(株)とうきゅう環境浄化財団

tel. 03-3400-9142

## 新化学発展協会研究奨励 募集中について

下記研究奨励事業の公募が本会あてにまいりましたのでご案内いたします。

## 記

社団法人「新化学発展協会」においては、基礎研究の推進と研究者の育成を通じて新化学の発展を図るため、新化学の発展に資する若手研究者の研究に対し、概要下記の通り、研究奨励金を交付します。

### 1. 研究課題

ライフサイエンス分野、電子情報技術関連分野、新素材技術関連分野、触媒関連分野

(以上の4分野で7課題、課題名省略)

地球環境問題関連分野(1課題)「水圏における化学物質の環境負荷評価法又は除去法に関する研究」

### 2. 応募資格

大学等における研究者であって39歳以下の者

### 3. 件数及び金額

各課題毎に1件、1件につき150万円

### 4. 締切と交付の時期

締切 1994年3月4日

交付 1994年6月

### 5. 問合せ先

〒101 東京都千代田区神田駿河台 1-5 化学会館

(株)新化学発展協会 研究奨励金係

tel. 03-3294-8031

## 情報検索サービス等の利用について

下記のサービスの利用に関連する通知が本会あてにまいりましたのでご案内いたします。

## 記

学術情報センターは文部省の大学共同利用機関として設置され、大学等の教員の学術研究支援として情報検索サービス及び電子メールサービス等を行ってまいりましたが、1993年8月1日から大学等以外の研究者(他省庁等の研究機関の研究者、本学会を含む学会等の正会員)

に対しても利用を認めることとなりました。

詳細は下記に問合せ下さい。

〒112 東京都文京区大塚 3-29-1

文部省学術情報センター共同利用第2係

tel. 03-3942-6934

fax. 03-3942-6797

## 東京大学海洋研究所共同利用研究 公募について

下記共同利用研究(1994年度分)公募が本会あてにまいりましたのでご案内いたします。

## 記

### 応募資格

国公立大学及び国公立研究機関の研究者並びにこれに準ずるもので、海洋の基礎的研究を目的とするものとします。

### 1. 共同利用研究の種別

#### (1) 研究船

研究船白鳳丸(3,987総トン) 特定海域の研究航海を行います。

研究船淡青丸(469総トン) 主に近海の研究航海を行います。

#### (2) 研究会

比較的多人数の研究者による1・2日間のシンポジウム、あるいは比較的少人数の研究者による数日間の討論集会等です。

#### (3) 外来研究員

所外の研究者が本所に滞在して研究を行う便宜を提供します。

#### (4) 大槌臨海研究センター

##### ①共同利用研究員

センターに滞在して研究を行う便宜を提供します。

##### ②研究会

少人数の研究者による討論集会等です。

### 2. 申込期限

1993年11月30日

### 3. 公募要領請求および問合せ先

〒164 東京都中野区南台 1-15-1

東京大学海洋研究所

tel. 03-5351-6354, 6355

fax. 03-3375-6716

## アジア学術会議 11月に開催

平成5年10月 日本学術会議広報委員会

今回の日本学術会議だよりでは、アジア学術会議、本年6月に閣議了解を得ました平成6年度日本学術会議共同主催国際会議の概要及び日本学術会議が本年度において実施する地域活性化施策推進事業等についてお知らせします。

## アジア学術会議について

- 1 日本学術会議は、アジア地域の各国を代表する科学者を東京に招き、本年11月15日(月)から18日(木)までの4日間、アジア学術会議を開催します。
- 2 アジア地域との学術分野における交流の重要性については、「学術分野における国際貢献についての基本的提言」(平成5年4月、日本学術会議第116回総会採択)においても指摘されたところですが、「日本学術会議だより」(No.29)参照、地理的、歴史的、文化的に多くの共通点を持つ近隣諸国間の交流は、それぞれの国の学術の発展、ひいてはその地域全体の学術の発展にとって極めて重要なことであります。
- 3 このことから、日本学術会議は、アジア地域の各国における学術研究の現状について情報交換を行うとともに、アジア地域における学術研究分野での連携・協力の在り方などについて討議し、併せてアジア地域の学術研究者間の相互理解と信頼を深めることを目的として、本年度からアジア学術会議を開催することとしました。
- 4 このアジア学術会議は、特定分野に限らない全学問領域にわたるアジア地域の科学者による連携・協力のための初の国際会議であり、その意義は極めて大きく、日本学術会議では、会議の成果をあげるため、既に本年4月、アジア学術会議実行委員会(委員長:渡邊格・日本学術会議副会長、副委員長:川田侃・同副会長)を設置し、関係学協会の御協力の下、開催に向け、鋭意、準備を進めているところです。

会議の概要は以下のとおりです。

- (1) 主催 日本学術会議
- (2) 日程 11月15日(月)開会式(基調講演、特別講演等) 歓迎レセプション 16日(火)会議(自由討議) 17日(水)視察(筑波研究学園都市) 18日(木)会議(自由討議)、閉会式
- (3) 会場 三田共用会議所 [東京都港区三田2-1-8] [電話 03-3455-7591]
- (4) 参加者 インド、インドネシア、シンガポール、タイ、大韓民国、中華人民共和国、日本、フィリピン、マレーシアの各国の学術推進機関(アカデミー等)から推薦された人文・社会科学系及び自然科学系の科学者21名

(日本からは、近藤次郎日本学術会議会長及び川田侃同副会長が出席の予定)

- (5) 議題 「アジア地域における学術の発展とそのための連携・協力について」

平成5年度地域活性化施策推進事業の実施について  
— 地域の過去、現在、未来を探る —

東京一極集中を是正し、国土の均衡ある発展を図るため、地域を活性化することの必要性が叫ばれています。この中で、地域において、情報発信能力を高め、産業技術の進歩、暮らしの質的向上を促す総合的な学術研究の力の向上は、「豊かな国民生活」を実現するために不可欠のことであり、また、国際的に開かれた地域を形成するためにも有効なことから考えられます。このため、日本学術会議では、本年度において、国土庁の地域活性化施策推進費を活用して、全国3か所での地域における産学官の協力による公開フォーラムの実施とその報告書作成を柱とする“ふるさと学会”開催事業を実施することとしました。

本事業は、地域を対象とする学術研究の成果を人文、社会、自然科学を網羅して総合的に取りまとめ、その地域の過去の歴史、現在の状態、将来の予想を明らかにし、地域のアイデンティティと将来像を考える一助とするともに、この過程において、地域の産学官の連携や学術研究者と地域住民の交流をも促進することを狙いとするモデル事業と位置づけています。

平成6年度に開催する日本学術会議  
共同主催国際会議

日本学術会議は、昭和28年9月の国際理論物理学会議の開催以来、平成5年度までに135件の国際会議を関係の学術研究団体と共同して開催し、我が国のみならず世界の学術水準の向上に努めてきたところです。

平成6年度においても、次表の6会議を共同主催することとし、本年6月25日、これらの国際会議の開催とこれについて所要の措置を講ずる旨の閣議了解を得ました。

また、本年は、平成8年(1996年)度開催分の国際会議について共同主催の申請を受け付けており、締切りは12月10日です。

詳しくは、下記までお問い合わせください。

【問い合わせ先】

日本学術会議事務局学術部情報国際課国際会議係  
電話03-3403-6291(内)254、255

## 平成6年(1994年)度日本学術会議・国内学術研究団体共同主催国際会議概要

| 会議名              | 第8回国際神経・筋学会                                 | 第24回国際園芸学会                                  | 第30回錯体化学国際会議                              |
|------------------|---------------------------------------------|---------------------------------------------|-------------------------------------------|
| 母体機関             | 世界神経連合                                      | 国際園芸学会                                      | 国際純正・応用化学連合                               |
| 共催団体             | 日本神経学会                                      | 園芸学会                                        | (社)日本化学会<br>錯体化学研究会                       |
| 参加予定人数<br>参加予定国数 | 国外 1,100人<br>国内 800人<br>計 1,900人 [41か国・2地域] | 国外 1,000人<br>国内 750人<br>計 1,750人 [88か国・2地域] | 国外 300人<br>国内 700人<br>計 1,000人 [46か国・2地域] |
| 開催時期             | 7月10日～15日(6日間)                              | 8月21日～27日(7日間)                              | 7月24日～29日(6日間)                            |
| 開催場所             | 京都市(国立京都国際会館)                               | 京都市(国立京都国際会館)                               | 京都市(国立京都国際会館)                             |
| 開催間隔             | 4年ごと                                        | 4年ごと                                        | 1ないし2年ごと                                  |
| 組織委員会<br>委員長     | 国立精神・神経センター<br>名誉総長 里吉 栄二郎                  | 東京農業大学農学部<br>教授 岩田 正 利                      | (準備委員会代表者)立命館大学理工学部<br>教授 大 瀧 仁 志         |

| 会議名              | 第21回世界心電学会                              | 第47回国際情報ドキュメンテーション連盟総会                    | 第2回国際病態生理学会総会                             |
|------------------|-----------------------------------------|-------------------------------------------|-------------------------------------------|
| 母体機関             | 世界心電学会                                  | 国際情報ドキュメンテーション連盟                          | 国際病態生理学会                                  |
| 共催団体             | 日本心電学会<br>(財)日本心臓財団                     | (社)情報処理学会<br>(社)情報科学技術協会<br>情報知識学会        | 日本病態生理学会                                  |
| 参加予定人数<br>参加予定国数 | 国外 500人<br>国内 1,000人<br>計 1,500人 [30か国] | 国外 400人<br>国内 800人<br>計 1,200人 [55か国・1地域] | 国外 500人<br>国内 800人<br>計 1,300人 [62か国・2地域] |
| 開催時期             | 7月3日～7日(5日間)                            | 10月2日～9日(8日間)                             | 11月19日～24日(6日間)                           |
| 開催場所             | 横浜市(横浜国際平和会議場)                          | 大宮市(大宮ソニックシティ)                            | 京都市(国立京都国際会館)                             |
| 開催間隔             | 毎年                                      | 2年ごと                                      | 4年ごと                                      |
| 組織委員会<br>委員長     | 国立療養所中野病院<br>病院長 春 見 建 一                | 国文学研究資料館<br>客員教授 藤 原 鎮 男                  | 日本臓器製薬株式会社生物活性科学研究所<br>所 長 大 村 裕          |

## 日本学術会議主催公開講演会

## — 女性科学研究者に期待する —

日本学術会議は、学術の成果を国民に直接還元するための活動として、日本学術会議会員が講師となって、市民を対象に年3回公開講演会を開催しています。

この度、次の公開講演会を開催しますので、お知らせします。多数の方々の御来場をお待ちしています。

- (1) 日時 平成5年11月26日(金)13:00～16:30
- (2) 会場 日本学術会議講堂 (地下鉄千代田線「乃木坂駅」下車徒歩1分)
- (3) テーマ 「女性科学研究者に期待する」

- (4) 演題及び演者
  - ・女性科学研究者問題に関する日本学術会議の取組 須藤 一 (第5部会員、東北学院大学工学部教授)
  - ・女性学ジェンダー論の発展と役割 加藤寿恵子 (第1部会員、東京女子大学現代文化学部教授)
  - ・自然科学分野に見られる女性進出とこれに伴う諸問題 本 間 慎 (第6部会員、東京農工大学農学部教授)

・女性科学研究者の地位向上と基盤整備(スウェーデンを例として)

一番ヶ瀬康子(第1部会員、日本女子大学人間社会学部長)

## 【申込方法】

聴講(入場無料)を希望される方は、はがきに、郵便番号、住所、氏名を明記し、11月12日までに下記までお申し込みください(複数人の連記可、FAX送付可)。締切り後も、席に余裕があれば、受け付けますので、下記までお問い合わせください。

〒106 東京都港区六本木7-22-34  
日本学術会議事務局「公開講演会係」  
TEL 03-3403-6291(代) 内線228  
FAX 03-3403-6224

「日本学術会議だより」について御意見・お問い合わせ等がありましたら、下記までお寄せください。  
〒106 東京都港区六本木7-22-34  
日本学術会議広報委員会 電話03(3403)6291



Pétrologie des Latérites et des Sols  
Tropicaux (ラテライトと熱帯土壌の岩石学)

Yves Tardy 著

著者は Louis-Pasteur 大学教授であり、水-岩石相互作用の研究者としてわが国でも知名度が高い学者である。この本は同じ著者が1986年に刊行した 'Le Cycle de l'Eau' (水の循環) の続編ともいうべきもので、地表の30%以上を占めるラテライト土壌の重要性を読者に認識させる目的で、その構成、分布、生成について著者自身の研究成果を中心にまとめたものである。

全体は4部、13章からなっている。原文はフランス語であるが、目次だけは英訳が付いているので、章のタイトルだけをここに示しておく。

1. Parent rocks of climatic alterations
2. Arenes or coarse saprolites: intramineral non-climatic parageneses
3. Kaolintic lithomarges and mottled horizons
4. Carapaces and cuirasses
5. Geochemical balance of the ferricrete development
6. Geochemistry and geophysics of ferricrete

7. levels of Gaoua and Banakoro, Africa
7. Geochemical differentiation and homogenization of lateritic plateaux in Mali and Burkina Faso
8. Ferricretes of Haut-M'bomou, in Centrafrica, Dismatling and lateral dynamics under tropical humid climates
9. Laterites of Odienne in Ivory-Coast, Formation of ferricrete landscapes
10. Dynamics of lateritic landscapes
11. Bauxites and conakrytes
12. Protobauxites and soft lateritic covers
13. Hydration, dehydration and mechanisms of the lateritic landscapes evolution

読者としては学部学生から研究者、技術者にわたる幅広い層を考えているために基礎的な事項からその応用にいたるまでがわかりやすく解説されている。この本は462頁に及ぶ大部なもので、全体を通読するためにはある程度の語学力が必要である。しかし図版(合計172図)が豊富であるから、その助けを借りればフランス語に不案内であっても内容を理解することは可能である。

ラテライトの地球化学に関心のある研究者ばかりでなく、ラテライト土壌が分布するアフリカ、南アメリカで資源開発、技術援助に従事する人たちに一読を勧めたい本である。  
一國雅巳(埼玉大学工学部)

編集者 野尻幸宏 〒305 つくば市小野川16-2 国立環境研究所、地球環境研究グループ  
電話 0298-51-6111, ファックス 0298-51-4732  
発行者 日本地球化学会 〒113 文京区本駒込5-16-9 学会センター C21  
日本学会事務センター内 電話 03-5814-5801

# 日本地球化学会ニュース

No. 136

1994. II. 25

## 1994年度日本地球化学会春季シンポジウム

主催 日本地球化学会

日時 ポスターセッション 3月23日(水) 11:00~13:30

会場は3月22日(火)~23日(水)に使用できます。

日頭発表 3月23日(水) 9:00~17:00

(1993年度奨励賞受賞者招待講演を含む。)

会場 東北大学川内北キャンパス (G会場)

地球惑星科学関連学会1994年合同学会の会期中に開催されます。

3月20日(日)~23日(水)に開催される地球惑星科学関連学会1994年合同学会の全体のプログラムは、別途大会実行委員会から、本会会員に送付される予定です。会場への交通や参加費等については、この合同大会プログラムを参照して下さい。なお、春季シンポジウムに關しての連絡先は、下記のとおりです。

〒192-03 東京都八王子市南大沢1-1

東京都立大学理学部化学科 海老原 充

tel. 0426-77-2553 fax. 0426-77-2525

## 入会申込書(新様式)について

日本地球化学会は、会員数1000名突破まであと一息のところまでまいりました。会員各位におかれましては、ぜひとも会員の拡充活動にご協力頂きたく存じます。

なお会では、入会申込書の一部を昨年改訂いたしました。主な変更点は、1. 従来、同じような書式を2枚記入する必要があったが、簡略化して1枚ですむようにした、2. 会の現状把握のために作成している会員データベースに入力するための必要項目を加えた、ことです。

今後の入会申込には、新しい様式をお使い下さい。必要な方は、学会事務センター「日本地球化学会」係(あて先は裏表紙)に申し込むか、本ニュースに掲載したもののコピーをお使い下さい。

(会員担当幹事: 地質調査所、富樫茂子)